

る者のないのは、廣村の社會的訓練の行届ける結果である。而も此村では、役場吏員を始め有志有力者は、皆信仰を持つて居るから、村民の凡ては皆信仰を大事として居るとのことである。斯くの如き例を上ぐれば、數限りもないことであるが、要するに大なり、小なり、所の人が一致して、一の風をなせば、他は必ずそれに教育されるに相違はないのである。之れ吾輩の農村に向つて、村格の向上を鼓舞する所以である。(拙著農村自治の研究中 村格論を参照ありし)

今の文明國の多くは、我國の家庭が有する程の歴史を持つて居る所は、殆んどないと云つてよい、又た我國の學校の如く修身や倫理を課し居る所もないのであるが、而もよく家庭を整へ、社會道德が發達して居るのは、全く社會の力である。彼等は我國の家庭がなすが如く兒童の復習に世話を焼かぬ、又た學校で公德の説教もせぬのであるが、全く社會教育の施設によりて、よくなされ居るのである。彼等は漫りに人の悪事を指摘せぬ、又た人の陰口を云はぬのであるが、それで悪口や陰口を浴せかける我國の人程に、我儘もせず、人に迷惑もかけぬのは、やはり社會の制裁があるからである。彼等の間に分度論は喧しくなく、身分相應との

説教も聞かぬが、之れてよく分を守り、秩序を亂さぬのは、等しく社會の教化である。故に今日の文明は、社會民衆の文明であり、國家の價値は、其の國家てふ社會の程度によりて定まり、國民の進歩は、其社會を構成する人の進歩如何によりて上下さるのである。故に社會の教育ほど効果の大なるはなく、社會教育の施設ほど大なる功德を一般に與ふる者はないのである。

彼を思ひ、此を察せば、吾等は正に社會教育の進歩に努力し、其施設の整構と、其運用に遺憾なきを期せねばならぬのである。今や青年會や少女會、婦人會や戸主會等の設立を見るに至りしが、之等は人の團體であつて、之れて教育が出来るものとは思ふてはならないのである。即ち之を教ゆる人がなければならず、之を教ゆる教材がなければならず、たとへば教材があつても時勢に遅れたものではだめである。若し教ゆる人がなければ、自修する機關がなければならず、自得する設備が出来ねばならぬのであるから、益此方面に向つての盡力が出来ねばならぬのである。若し教育家でありながら、學校のみに籠居して、之れてよいと考へたり、學校教育が専務である以上は、夫れに全力を濫げばよしとする者があれ

ば、そは灰のない火鉢に火を入れて、火の消ゆるを嘆き、或は濕りたる灰の中に火を入れて火吹竹で吹かないと、直ぐに火が消へると愚痴を云ふ徒輩であつて、愚の骨頂ではあるまいかと思ふのである。さればとて、學校の教師が本務を忘れて、漫りに社會教育に奔走するのは、之亦身分を辨へざる馬鹿者と云はねばならぬのである。

要するに、我國では社會教育の効果を認むることが甚く、其權威を思ふ者が少ない程に、幼稚な程度に居るのは社會教育であるから、官民舉つて此に盡力し、少くも今日の學校教育と併進する様に、其の施設なり、機關なりを整備して、家庭の良風や、學校の教化が、社會の惡風、陋習のために打破されない様にし、尙進むては、家庭教育や學校教育の足らざる所に補足することが出来ねばならぬのである。而も農村は其區域が少なる丈、それ丈けやり易く、出来き易い譯であるから、一層此點に工夫と盡力が加はらねばならぬと云ふのである。

社會教育の機關として、近來侮り難き勢力を有するに至つた者は、新聞と雑誌である。新聞は輿論を造り、雑誌は都會風や奢侈の風を田舎に移入するに至大

の力がある。新聞紙には下手な教科書以上に人智を開發する者があり、遅れた人の説教より遙に優りたる教訓を與ふる者もあるが、田舎の新聞には随分俗惡にして見るに忍びぬものもある。而も田舎の人は其俗惡を好讀し、醜陋の記事を喜んで見るから困るのである。故に新聞經營者や記者に社會教育の本擇を以て任ずる抱負と、努力が出来ざる限りは、農村に於て特に時報なり、村新聞を出すの用意が肝要である。雑誌は何處までも、其撰擇に注意し、所謂惡文學や軟文學は絶対に排斥して、之に代はるべき讀み物を提供し、指導する注意が出来ねばならぬ。世の中は始末に困る程雑誌の種類があり、又た出来るのであるから、決して適當なる者を發見するに困むことはあるまいと思ふ。之等は獨り社會を指導する許りてなくて、家庭をも動かすものであるから、決して油斷すべからざるものである。染めざる帛布の如き農民、讀書慾の旺盛なる農村青年に、好書、良新聞、善き雑誌を提供するのは、全く教育上有効にして親切なる行爲であり、社會改良に至大の好果を齎らすことであれば、何處に於ても、此點に深き注意が拂はねばならないのである。

#### 四、三要の互助連絡

國民の教育が眞正に發展し、國民の品性が遺憾なく陶冶され、國民の價值がいや高く向上するには、是非家庭と學校と社會が互助的連絡をなし、長短補足が出来ねばならぬ。

英國は紳士道の存在を誇りとし、國民は擧げて虚言を云はぬことにして居る。學校で虚言を云ふものあれば、先づ同窓の學友が制裁を加へ、受持教師が懲戒し、其甚だしきは校長自から體刑を科するのである。故に如何なる學校でも、虚言を云はぬと云ふ訓練はよく行届いて居る。然るに其生徒が家庭に歸れば、父母は改めて強き訓誡を與へて、其過罪を再びするなきことを誓はしめ、更に翌朝は其子を同道して登校し、校長に面會して、昨日の親切を謝し、『將來再び斯ることはあるまいと思ふが、若しあつたならば困る、吾等は虚言つきの兒童よりも寧ろ正直なる不具者がよいのである、故に今後虚言を云ふならば、腕の一本や、脚の一本に換へられぬによつて十分に御制裁を願ひ度い』と頼み込むのである。傍に聞

いて居る子供は、心から虚言はつくまいと決心せざるを得ぬのである。如斯、英國では學校と家庭とは同一步調を以て教育をして居るのである。

英國の市街を散歩して居れば、道路に放り出されて居る子供を見ることがある。悲しき聲を出して泣いて居るから、何故泣くか、何故放り出されたか、と往來の人は聞くのである。それが虚言をついた爲めであると云へば、誰れも子供の爲めに謝罪してやる者もなく、世話する者もないのである。即ち社會は虚言者を寛容しないで、何處までも、虚言の悪事たるを悟らしめ、再びせざる決心を起さしめねば止まぬが如くに見へる。斯くの如く、家庭と社會とは同一步調を以て、人の教育をするのである。

英國の紳士道は偶然に出來たものではない、英國國民の信用を重んずる氣風は、學校の口説によつて出來た者でもない、英國國民の約束を守る美風は、教科書によつて授けられたものでもない。家庭に於て、學校に於て、又社會に於て、之を教育し之を訓練した結果である、即ち三要の互助連絡が之を誘致したのである。恰も當年我國の武士道が、家庭に於て、學堂に於て、社會に於て、陶冶された如くてあ

る。夫れ制裁の權威が認められ、制裁の効果が生ずるのは、如斯して出来ねばならぬ。法律的の懲罰は、或は逃るゝ道もあるが、逃るゝことなき懲罰は、社會道徳の制裁であるが、此の制裁は、三要の互助連絡がなき限り、其發現は著しからぬものである。今や我國の現状は、道心日に衰へ、人心日に墮落しゆくのであるが、之れ社會制裁の微弱なる所以であつて、其の如斯なりゆくは、全く三要の互助的連絡がとれないからである。

獨逸は實用的人物の養成に長所を發揮して居る所である、即ち役に立たない人を造らぬと云ふのが、獨逸教育の一の特徴である。吾輩の見た小學校では、卒業間近の女生徒に對し、掃除や洗濯の方法、料理や材料の選擇まで教へて居るのを見た。それに父兄より時々材料の提供があり、家庭より到來物の珍らしきは、學校に贈りて其食ひ方を我子の同窓生にも教へて呉れと注文もするのである。故に料理の稽古と謂つても、學校の料理でなくて全く家庭の料理が出来るのである。それに社會的設備の一として、食品博物館と云ふ様な物があつて、食料品に對する智識が涵養されることになつて居る。故に學校の教育は家庭的手腕

を進歩せしめ、社會的教育施設は、學校の設備の足らざるを補ふて居るから、勞少く、費用少くして、教育の効果が發揮するのである。故に獨逸の實用的人物養成は、三要の互助的連絡の賜であると云はねばならぬ。

先進國の國民は、讀書の趣味を解して居る、學校時代ばかり讀書するものと心得て居る様な者はない。之れ到る所に圖書館があり、廉價にして趣味ある讀物が社會に豊富であるからである。それに讀書は人の嗜みであつて、暇の利用は之に限ると云ふ風に社會が出来て居るからである。故に何人でも學校教育を延長し、其足らざるを補ふべく、自修自得して、生命に食を欠かざるが如く、活動に新智識を得つゝあるのである。之れ文明人が常識に發達し、偏狹なきを得る所以である。

今日の文明國で、國民的遊戯場や運動場を持たぬ所は殆んどないのである。故に所によりては學校に運動場のない所がある、之れ運動は獨り學校で必要があり、子供に必要があると云ふのでなくて、家庭の人として、社會の人として、何人にも必要であることを示して居るのである。故に彼等の家庭には、三味線や釣竿が

なくとも、運動用具を備へて居るが多く、狭き庭、特に小石や土砂の運動場で、餘り活潑に運動すると負傷したり、喉を悪くすると云ふ様な學校の運動場よりは、町なり村なりで、廣き青毛氈敷ける様な運動場や遊戯場を設備するが多いのである。之れ泰西文明人の教育に於て、特に體育が智育の進歩に伴ふて居る所以であり、國民的競技が發達して居つて體力の旺盛なる所以である。

其の國の歴史を誇りとし、之を知得せしむるに歴史博物館があり、藝術の進歩と其國風を示すに繪畫館や美術館があり、廣く世界の事情に通じ、事物に明かならしむべく博物館があり、動物に對する智識と觀念を與ふるに動物園あり、植物に對しては植物園あり、礦物には礦物館あり、交通の變遷と發達史を知るに交通博物館あり、發明發見に興味と奮發心を與ふるに特許品博覽會があり、其他専門的に農業館もあれば、工業館もある。之れに稍大なる市街にある百貨商店は、現代の流行を知るに遺憾なき陳列が出来て居るのだから、一度社會の教育的設備に接すれば、不言不語の理に知得ることが出来るのである。故に學校に無理して標本を備へぬても、難義して保管をせぬても、社會的設備に觸れしめば、巧妙

なる教授法による教授以上に智識の開發が出来ることもある。されば今の文明と云ふ文字には、斯る施設の普及を意味し、其施設の進歩を指示する場合もある様に考へらるゝのである。而して之等の施設に資を投じ、之等の施設に巨資を寄附し、之等の施設を利用する事が進めば進む程、文明人であると云ふ様にも解釋される場合がある。故に文明と社會教育施設とは離るべからざる者であつて、之を離るべからざる様にする者が文明人である様に思はれるのである。

特に大學邊りでは、時々社會的講演をするのである、各地に旅行しながらもするのである。又中等程度の學校へは、地方の篤志家や先覺者と云ふ様な人が出懸けて講演もする、即ち新進の學理を聞く傍ら、貴き經驗談を聞いて參考とするのである。又自分の子供が學校に出て居つても、居らぬても、父老の徒が學校の教授を參觀し、授業を聞いて、進むだ學理に通せんとする風もある。或は試験場の如きは、老農の如き地方に經驗ある人を網羅して、試験項目の打合をなし、地方適切の試験をなさんとする處もあるが、よく其相談に乗り、意見を吐露するのである。或は農村の如き事業に繁閑ある所では、繁忙時機は地廻教師として、彼等の事業

を助け、冬の閑散時期には冬期學校で授業をなさしむと云ふ様な事をして、家庭と學校とは區別すべからざる様にして居る所もある。即今日の文明國では、學校は社會民衆の爲に存立し、社會は國民の向上に貢獻すべく設備され、家庭は學校の教育によつて直に恩澤を受け、社會的設備の功徳を享る様になつて居る。

然るに我國は不幸、未だ如斯互助的連絡がとれて來ない。近來家庭と學校との連絡は喧敷唱導されて來たのは、結構であるが、只だ先生が儀式的に家庭の訪問をしたり、形式的に通信簿の傳達をしたり、父兄會や展覽會を開きて、學校に父兄を招到するのであるが、中々學校と家庭とが同一歩調を以て、『人』を教育するに、は至らないのである。一體如何なる國民にせんとする積りなるか、如何なる人物に養成せんとするのであるか、家庭に於ても、曖昧であれば、學校でも益槍して居る様である。或は學校の爲めに生徒を教へつゝあるではないか、教師の主義に殉ずる人を出しつゝあるではないか。或は生徒の氣嫌をとりて消光しつゝあるではないか、或は文部省や官衙の評判をよくすべくやつて居るではないか。而して父兄の多くは之を知らず、之に信頼し過ぎて居るではないか、社會も監督

官も只形式の報告を見て足れりとして居るではないか。吾輩は、今之が穿議立をしようとは思はない、又其研究をする暇もないのであるが、然し輿論の聲は何んてあらうか、父兄の口より漏る不平の聲は何んてあらうか。之れ教育家と否とに論なく、大に謹聽すべき言であらうと思ふ。

残念ながら、未だ我國では、學校教育と、家庭教育とは連絡がとれて居らないのは疑ふべからざる事實である。且つ何れの學校でも教授法や訓練に焦念工夫して居るが、社會的設備の見るべきものがないから、常に八九分まで出來ても、二分は思ふ様にならぬことになつて居る。即ち如何に巧妙を極むる教授でも、聲や香の如き無形無色のもの、説明は出來ないのである。それに如何に訓練を八ヶ間敷言つても、家庭も社會も物になつて居らぬから、教師は八ヶ間敷言ふ者じやと、特別待遇を受け、何んでも教師は四角なもので融通がきかぬ者と言はれて居る。故に訓練の點にかけては、學校は恰も賽の磧で石を積み居る小僧の如しと見てよからうと思ふ。眞に家庭の不始末や、社會の惡風陋俗は鬼の棒よりも強き破壊力を持ちて居るのである。而も教育家は小僧の如く、鬼を恐れ、鐵

棒の力の大きなるを承知して居るが、之に抵抗し、之と奮闘する勇氣もないのである。さても小僧が成人して鬼に勝ち、鐵棒を取り上げる迄の時節を待つべきや、それとも佛や地藏が出来て鬼を退散する時節を待つべきや、眞に情なきは、我教育界の情勢であり、哀れなるは國民教育の趨勢である。

さは言ふもの、農村の内には慥に覺醒の光り、自覺の聲が見られもし、聞かれもする様になつて來た。彼の優良村に於て施行しつゝある、家庭會の如き、示談會の如き、或は青年會、少女會、戸主會、婦人會の如きに於て試みらるゝ、町村當局者并に有力者の協同盡力は、或は講演に、或は印刷物に、凡百手段方法となつて顯はれ來り、爲めに家庭の改善を助成し、學校教育の足らざるを補ひ、社會の改良に好成績を示しつゝあるは、誠に喜ぶべき現象である。之がため町村當局者や有力者の間に於て意志の疏通が計られ、同一主義の下に、同一歩調が取られて來るのみならず、彼等が公共に盡力すると云ふことが、町村の惡魔退治となり、陋習惡俗の閉塞となるのであるから結構である。之が更に進歩して共有の地に運動場か遊戯場を設備し、山に植物の蒐集場 シヨック が出来、川に水泳場が設置され、公園

や俱樂部が出来て清新なる娛樂が得られ、圖書館や新聞縦覽所が建てられて讀書の趣味が養はれ、物産陳列館が出来て博物館をも兼ねられ、寺や神社の經營が立派に出来て信仰の中心が得られ、公會堂でも何んでもないが、多數の人を收容する所が出来れば、随分農村教育に於ては愉快なる進歩發展を見るに至るのであらうと思ふ。如斯三要の互助的設備と連絡は、望むて得られないことではない、人の努力と時間の問題であつて、我々乎として撓まず、倦まず、心懸けて居れば必ず到達し得ることである。

### 二、三行論

三行とは、凡ての教育が經濟的で、實際的(實用的)で、且つ庶民的でなければならぬと云ふのである。即ち費用が少なく、教育の効果が顯著であり、空理空論に流れずして實社會の實際に觸れたる教育でなければならず、金持や物持の享受し得る教育でなくて、凡百民衆に功徳を與ふる教育でなければならずと云ふのである。更に換言すれば、金が働く教育でなくて、人が働く教育でなければなら

ず、顎や筆の働く人を作る教育にあらずして、汗や脂で働く者を作る教育でなければならず、紳士や地主の徒に便利なる者でなくて、平民に功德を多く與ふる教育でなければならぬと云ふのである。

今の世は、學校教育には、金を要すべきであると思つて居るが、其癖家庭の教育的設備に金をかけべきであると思つたり、社會に教育的施設をなすべく金を投せんとする者がない。それが爲めに、無理算段までして建設したる學校の教育を臺なしにしては居るまいか。時に或は泥棒に追錢するが如く、金かけて社會に厄介者を造り出し、家庭に困り者を出來しては居るまいか。今日に於て尙百姓に學問の不必要論を唱へたり、或は高等教育の無用論を云々する者の絶へないのは、此處に原因が伏在するてはあるまいか。特に女子の教育を喜ばず、女學校へ入れるのを嫁入資格を得る、已むを得ざる方便と心得て居るが如きは、皆其處に原因があるのではなからうか。尙且つ今の教育は、標準を高きに置き過ぎて居り、加之餘りに眼先の變はつた事に考が馳せ過ぎて居る。故に家庭の實際と學校の教育が均衡を得て居らず、社會の要求と學校の教授が一致して居らな

い。爲めに父兄と歩調を共にする子弟が出来ないのみならず、社會の事にも役に立つ者が出来ない弊がある。之れ今の學校教育を呪ふて、生意氣を教ゆる所であり、無精にする所であり、役に立つべき人を役に立たぬ様にする所である。と云ふものゝ出來る所以ではあるまいか。或は役人の養成所や、月給取の製造所でも、あるが如く、心得る者の存する所以ではあるまいか。或は國民の危險分子が出来、危險思想が養成される所であり、新しい女や、狂氣じみた舉動が造られる所であるが如く思はるゝことのあるのも、之がためてはあるまいかと思ふ。それに今尙教育と云へば、中流以上の専有物たる觀が免れない、義務教育が四ヶ年より六ヶ年に延長されたと云ふものゝ、それで國民的教育の基礎が出来たと思はれぬ程、小學校教育の内容は形成的であつて充實して來ないのである。加之社會的の教育事業が發達して來ないから、教育と云へば學校に限られて居る様な考が抜けて來ないのである。之れ權兵衛の息子も、太郎兵衛の倅も、小學校教育で満足せず、八兵衛の娘も、田五作の娘も、女學校に進まむとする所以ではあるまいか。一面教育の費用が嵩まり、學費が餘計にかゝつても、學校が繁昌する



所以てはあるまいか。實際今の世は貧富の階級が激しくなつて來るばかりでなく、賢愚の區別も甚だしくなつて來るではあるまいか。上下の別が阻隔して來るばかりでなく、思想や趣味の阻隔が一層甚だしくなるではあるまいか。今日ては不就學兒童の少きを誇として居るが、世が進むて益不就學者を多くする傾向は出來はすまいか。今日の如く、教育が中流以上の家庭を標準として居る以上は、それは決して餘計な心配事ではあるまいと思ふのである。教ゆる者が上の學校に進むを勸奨し、上級學校に進める者の多きを誇りとする様では、眞に教育は多數下流者には功徳を與ふる者とはなるまいと思ふのである。

教育の行事には色々あるが、今少し經濟的であつて、實際的であつて、庶民的でなくば、如何なる教授訓練の方法も勞して功なきに了り、教育學や教育制度が進歩しても國民の育成には、それ程の功徳が顯はれて來ないに違あるまいと思ふ。況んや今の我國は、貧乏世帯に苦むて居り、厄介者が益増加するに苦しむて居り、分らず屋の多いに苦しむて居るのであるから、三行の上に於て、改善さるゝ所があり、進歩發達する所がなくば助かるまいと思ふのである。別して教育費の膨

脹に苦しむ、我農村に於ては、正に之れを急務とすべきである。

### 一、經濟的教育

人格は無用の費を減少し、文明は贅費を縮少せしむるものであれば、家庭が眞摯になり、社會に進善の風潮が漲り、學校に人の努力が發達すれば、教育は自ら經濟的にならざるを得ぬことになる。今日の如く、虚榮が凡百階級を攻服しつゝある様では、家庭も、學校も、亦た社會も費用のみ多くかゝりて、教育の功果は左程顯著な成績を上ぐるに至らぬは、寧ろ當然とすべきである。就中學校教育は、多く租税の支辨にかゝり、民の膏血によつて經營さるゝが、尙今日の情勢なれば、特に注意を要すべきである。参考のため地方教育費の膨脹を示さんか。

#### 地方教育費膨脹

近來地方に於ける教育費の膨脹は人口の繁殖と共に頗る激甚を極むる有様なるが、最近文部省の調査に據れば、地方教育費の一戸割當平均八圓二十三錢四厘にして、人口一人に對しては一圓四十六錢八厘の多額に上れり。又道府縣郡市

區町村各教育費の戸口割を見るに左の如し

	一戸當割	一人當割
道府縣	一六八九厘	〇三〇一厘
郡	〇二四八	〇〇四六
市區	六三〇五	一三二二
町村	六三六一	一〇八四

政府當局者の無定見、縣郡當局者や議員の不忠實は、民度に副はざる學校の建築をなす慣習を誘致したり、地方繁榮策に學校の増設を敢行する傾向があつて之がため、教育の眞髓に累を及ぼして居る所が現にある。學校の建築に因つて多大の町村債に苦しみ、良教師の聘備も出來ず、待遇も進むることが出來ず、教授の材料も豊富にすることが出來ず、所謂佛作つて魂を入るゝこと能はざる境遇に在る者は、随分世には多いのである。之れに當局者の形式に囚はれたる頭て七面倒の監督があり、狹量我執の視學とか督學官とかの八ヶ間敷干渉があるの

用ゆることが出來ず、常に官廳の鼻息を窺ひ、監督者の眼色を注意する陋態を免るゝことが出來ない者もある。夫れ規則は守るべく、秩序は破るべからず、又法律命令に服すべきは當然であるが、地方の狀況に應じて多少の相違はあつて然るべきなり、民度の如何によつては除外のこともあるべきが當然なり、法律命令に違犯せざる限りは、教育の新なる施設もあつてよいのである。それに全國劃一の設備準則を以て律せんとし、全國同一の頭を以て監督せんとするは、其愚や及ぶべからず、其費の比較的功なきに終はるは堪ゆべからざることである。果

然三大臣の訓令とかい出で、周章狼狽の體をなす、何たる痴態ぞや。畢竟教育は當局者の玩弄物たり、玩弄に委棄しつゝありと云ふも何の言辭がある。加ふるに財制整理や制度整理の必要を認め、整理をなすと云ふに、尙問題の中學校整理をなすを得、縣下に一二の實業學校を廢合せんとする當局者もある。何たる阿呆の振舞ぞや、情なきことの極みぞや。

中學校の整理、改廢の問題は、識者の工夫焦慮する所である。職業學校の増設改造の問題は輿論である。簡易なる徒弟學校や講習所の如きは、尤も歓迎すべ

きてある。而も逸すべからざる好機に臨みて、之に着手することが出来ず、偶ま  
手を着けたりと見れば、必要なるも、勢力なき講習所を廢せんとするのである。  
さて、今の當局者は、情實に屈伏する臆病者か、或は下層の人に同情なき無血漢  
か、それとも民政の何たるを解せざる月給取りか、吾輩は眞に農民教育のために  
悲憤の涙なきを得ぬのである。都市教育はいざ知らず我農村の教育に於ては  
校舎の設備よりも、内容の充實に重きを置くべきである。建築材料の選擇は固  
より大切なれど、更に大切なるは良教師の選擇である。普通料の整頓も必要な  
れど、所によりては、實科の設備も出来ねばならぬ。運動場もなければならぬが  
學校園や實習地が一層必要な所もある。又た高等小學校もあつて可なりて  
あるが、それよりも補習學校や徒弟學校がより以上に有効なるもある。要する  
所、地方を見、民衆を見、民度の進歩如何を見て、眞に人を教育せんと欲せば、今、一層  
指導誘掖が農村的にならねばならぬのである。

若しそれ小學校以上の教育に於ては、

一、中學校及び女學校の整理改廢

一、職業學校の増設及び改造

一、講習所の設置擴張

は必ず斷行されべきである。忌憚なき吾輩の意見は、現在の中學校や女學校は、  
大體に於て一縣二三校で可なりとする者である。除却は、多くの中學校は實科  
中學に、高等女學校は、實科女學校に改造して可なりである。斯くなれば、職業學  
校は多少今日と異なる設備をなす必要があると云ふ議論もあらうが、それは後に  
論じて見ようと思ふ。就中尤も簡易で庶民のものには講習所である。凡ての  
専門につき、或は一科目或は數科目を運び、其地方民衆に適切なる様、其時機に  
特に効果ある様、出張講習の方法を取るのである。之がため一定の場所に校舎  
の様なものを設置すれば、獨逸などで繁昌して居る冬季學校にすることも出来  
る。若し夫れ地主者が地方に範を示すべく農場の經營をなし、適當なる管理者  
を置き、傍ら青年少女の教育をなすことが出来れば、尤も經濟的なる教育が出来  
る。要するに、農村教育は、小費多効なるべく、同じ費用を投するならば、役に立つ  
人間が出来ねばならぬのである。

元來教育の事は、設備よりも教育者の努力によつて功果が多くなるのであれば、教育家の責務の大なるは云ふまでもないことである。元來今の教育家には、教育に殉ずると云ふよりも、教育を飲喰ひ種にして居る者が多くあるまいか。働くことが嫌ひで、學校勤めをして居る者が多くあるまいか。教育上の成績を上ぐるよりも、己が月給を上げんと欲するものが多くあるまいか。農民に同情するよりも、己が身が可愛と思ふ者が多くあるまいか。中には眞の教育家もある、不説の教を垂るゝ立派な教育家もある、不導の感化を及ぼす永久の教育者もあるが、然しそれは少數ではあるまいか。もとより教育も一の職業であり、教育者も生活に逐はるゝ人であり、社會を構成する社會人として一般の民衆と同等であれば、教育者に凡俗を超越する體度を望むは、勿論無理な注文であらうが、然し人を教ゆる丈の資格があつて然るべきではあるまいか、少くも道中衣食の悟が開けて居り、働けば生活に困らぬと云ふ信念があつて然るべきであるまいか。若し夫れ教育を神聖視し、凡百職業の中で尤も尊ひものと思へば、謝恩報徳の努力は當然であるまいか。我等の努力によりて、可憐な農民が救済される

と思へば、如何な工夫も奮闘も喜んでなさるが正當ではあるまいか。さすれば身を殺して仁をなすは、人のことならで、各自の正に心得べきことであると、悟り開けて來る譯ではあるまいか。假令金の寄附は出來ぬでも、暇と勞力位の寄附は、出來そうなものではあるまいか。資本いらすの親切なる世話と、工夫とは自ら出來る者ではあるまいか。吾輩は今の農村教育に於ては、金以外の者が少し働かねばならず、有形物の外に無形の物がもう少し活きて來ねば、助かるまいと思ふのである。三重縣の一身田町立尋常高等小學校に奉職せる松村氏は、今年六十一歳で退職すと云ふことだが、其校に在勤せること實に三十有九年間であつて、俸給を上げて呉れるなど云ふことが、先生在校の一條件であつたが爲めに、今でも月俸十八圓である。而も始業前には必ず二時間前に登校して、凡ての準備をなして多くの職員を待ち受けると云ふのである。愛知縣の長岡村尋常高等小學校の三好氏は、明治十一年より今日まで同一學校に孜々乎として勤める先生である。之も己の俸給を上せる餘裕があれば、他の人の俸給を上げてやれと云ふて、先生のは上げぬ條件で村で盡くして居るのである。精勤衆を抜き

恪勤範を衆に示して、而も自ら奉ずること薄きは、眞に當世得難きことであるが、之等の先生を有する町村は、誠に幸福であるが、吾輩は寧ろ先生等の幸福を羨望して止まぬ者である。長野縣の蠶業に一生を托せる、同縣蠶業學校長の三好氏、子弟教育に畢世の力を輸せる、松本中學校長の小林氏は中等學校長として共に長野縣の幸福とする所であらう、一人の努力家精力家の献身的行動は、千百の教材にも勝る感化があらう、大厦高樓の校舍に優りたる教化の因をなすであらう。之を思へば、教育を經濟的にするには、物よりも人、費用よりも人力が働いて來ねばならず、彼れよりも此が尊重されて來なければだめである。若し精勤を人に望み、恪勤を人に求め、献身的行動を認めて以て、何等當路者や父兄が報酬する所を知らぬ様では、決して經濟的教育は發達しないものである。今の世は往々にして、非常の篤志家を變物取扱をなし、又は己が足らざる、及ばざる思想を以て、猜疑の目で之を見、何等かの缺點を指摘して、之を陥穽せんとする好物を寛容する弊がある。而も如斯奸物は、特に官廳の堂奥に潜みて、其爪牙を逞ふするのであるから、餘程の注意を要するのである。其他同輩の競争、四圍の低き思想によつ

て、辨口の徒、阿媚の輩が、跳梁する結果、有志篤志の教育家が閉息する場合も随分多いのであるが、之等は特に父兄や町村當局者の深き注意を要するのである。同時に教育者として、世に處し、世に立たんとする者は、益自己の修養に勤めて、精神あつて手段なく、志あつて方便を知らざるの弊に陥ることなきを心懸くるが肝要である。

尙一つ注意すべきことは、經濟的思想が進み、經濟的行爲に着眼する様になつたとは、未だ直に認められぬ事實が教育界には随分多い事である。現に金をかけず、金をかけぬが經濟的なりと思ふて居るものが多い。教育を受くるその少い農村の人は勿論、堂々たる教育行政の當局者や、爲政者にも中々多いのである。云ふまでもなく、少費多獲は經濟的行爲の一であり、少費多効は經濟的行爲として出來ねばならぬことである。如何に費用を少くしたとて教育の効果が減退して何の經濟的行爲ぞ、如何に費用を削減しても、教育の功德が減少して何の經濟的整理が出來ようか。假令費用が二倍しても、効果に三の得る所があれば寧ろ事の經濟的なるを喜ばねばならぬ。若し同額であつて、人の努力が進み、其の

効果が顯著なれば、費用の節減と觀じて歓迎せねばならぬのに、今の當局者や爲政治家には、費用さへ節減せば可なりと云ふ單純な思想で居る者が多い、而も之れが經濟的であると思ふものがあるのは、滑稽も亦甚だしと云ふべきである。要するに、我國の教育は實際的になつて居らぬ、社會の上流に居る者からして經濟の眞意を解して居らぬ程、教育は實際的になつて居らぬ、之が抑も教育が經濟的でなく、一種の贅澤物になつて居る證據ではあるまいか。元來國民の教育は費用を支辨する一方便にやつて居るのであるか、教育其物が大事で費用を投じて居るのであるか、之れから先決すべき問題になつて來て居る。教育其物が是非やらねばなりぬものならば、教育の功果は顯はすべく、相應の費用は覺悟すべきではあるまいか、若し無用に費されて居る所があれば、其處を削減して、有用有効なる方面に投資して可なりであるまいか。斯る分り易きことを斷行する能はずして、漫りに費用を節減せんとするは、之れ教育と費用支辨の一方便物として觀て居る結果ではあるまいか。不幸にして、我國の爲政治家や當局者には、斯る觀想を有する者が多いのである。教育の權威なき、教育の振はざる、教育の不經濟

的なる又止むを得ざる者か。

之を要するに、教育は今少し効果を著はさねばならないのである。今少し効果を顯はすべく、經營が出來ねばならず、今少し費用の増加以上に、難有味や功徳が見へて來ねばならないのである。それには、今少し人の努力が凡百教育方面に出來ねばならず、三要の連絡と相助が發達せねばならず、當局者や教育家は勿論のこと、一般の民衆が教育に對する根本義に通じ、之が眞價を發揮するに熱心なる態度が出來て來ねばならぬのである。特に農村教育に於て、其感を深ふせざるを得ないのである。

## 二、實際的教育

教育を受けたるもので、是非の判斷をなすことが出來なかつたり、時勢の推察を見ることが出來なかつたり、自營の道に立つことが出來なかつたり、又故障困難に處する方法を得なかつたり、或は人格の向上を得ることが出來なかつたりするのは、皆教育が實際的になつて居ない反應である。國運益發達して、國位は一

等國の伍伴に列すと云ふと雖も、尙實際家が高き教育ある者を嫌ひ、丁稚小僧と  
する商家は皆斯實業家が丁稚小僧より人物を養成せんとする傾向あるは、等しく教育が實際的ならざる證據である。實業と實際とは異つて居る。實業學校必ずしも實際的であると思ふてはならぬ。今の世は實業で持つて居り、實業家が尊重さるゝに至たのであるが、之等の實業に従事する者乃至著名なる實業家は必ずしも教育を受けたる人とは定つて居らず、甚だしきは實業に深き教育を要せずと云ふ者あるが、之亦教育の實際的ならざるを指摘する言葉である。如何なる學校でも數學に重きを置き、何處の試験にても數學を以て成績の優劣を分つ標準として居るに關らず、數の計算、物の勘定に下手な國民は、我國民ではあるまいか。納税の義務は國民の最大義務なりと教へられながら、滯納者が多くて、而も身分あり地位ある者に於ても然るは、之れ一面に於て横着もあるが、一面は税に關する實際的知識の排除せる爲てはあるまいか。修身や倫理が八ヶ間敷謂はれて居りながら、公德の發達せず、私徳の退歩する傾向あるは、之れ其の教授が實社會に觸れて居ない結果ではあるまいか。西洋文字が書け、オルガンを弾ず

ることの出来る手で、雜布を持つことが出来なかつたり、老人の肩をもむことが出来ないと云ふは、女子教育を呪ふ聲であるが如く聞ゆるのである。化粧が上手になつても、飯炊が出来ず、衣服の着方がよく出来ても、之を裁縫することが出来ず、御馳走の口は進むて來ても、御料理が拙であると云ふのは、今日の女子教育を馬鹿にするが如き言草である。新らしきを欲し、流行を逐ふには、敢て人後に落ちざる用意をなすが、始末をよくして物の効用を長くすることや、洗濯修復をして物を永く役に立たせることが出来ぬと云ふは、女子教育を無視した議論である。然し如斯は、決して呪の聲ではなく、馬鹿にした話でもなく、亦た無視した譯のものでもなくて、我女子教育の實際を形容したものである。故に物堅き家庭では、今尙高き教育を受けたものを娶るに躊躇するものが多く、嫁の資格を付ける爲めに教育は相當になすべきであると悟りながら、學校へ出すこと惡魔の前に出すが如く恐れつゝあるもある。特に農家の人は、今の教育を受けたる女子によつて、何等得る處がないのみならず、反つて失ふ所が多い。則ち教育を施せば農業が嫌になり、百姓衆に嫁ぐを厭ふに至らしむるのであつて見れば、農家が

女子の處置に困却するのは、誠に無理もないことであつて、情なきことの極みであるが、如斯は皆な之れ教育が實際的になつて居ない爲めではあるまいか。質素でなければならず、朴柄でなければならず、儉素でなければならず、農村に於て奢侈の風が増長し、修飾の俗が流行し、虚榮の習が流をなすは、之れ教育家が農村の實際に適ふべく教育をなし能はざるに因るではあるまいか。都會熱と云へば既に病的現象であつて、國家の病であるを承知しながら、之を防遏する能はずして、年々歳々其の病に犯さるゝものが増加するは、教育が農村の貴き特徴を知らしむる能はざるに基因するのではあるまいか。獨立自營が鼓吹さるゝ世の中であり、勞働は神聖なりと稱導さるゝ時勢でありながら、農業で自營するを恥ぢ、土地に働くを賤き業の如く思ひなす輩の簇出するは、之れ農業の實際に觸れざる教育の罪ではあるまいか。美的生活を貴び、趣味の向上を説く世の中になつて來て、尙田園の風光に至美を解する能はず、生物育成に趣味の貴きを知らずして、徒ちに都會の人工美や飽き易き趣味に憧憬する者の輩出するは、之れ教育が田舎の實際に徹底する能はざるによるのではあるまいか。富を致すとが國

家の急務であり、産を興すとが國民の正に努力すべき仕事であると、喧敷唱へられながら、無より有を生ずるは農業であり、凡百事業に原料を提供するは、獨り農業であるを知らざるが如く、漫りに商工を貴び、甚しきは株や相場を實業と心得る者の日に多きを致し、滔々乎として流をなすは、之れ教育が社會の實際に通じ居らざる結果ではあるまいか。然り多くは机上に空理空論を談じ、迂遠を説きて、近要に氣がつかず、古きを温ねても、新を知らず、徒に皮想に流れて、其眞體を得ざる爲であつて、全く實際に接觸せざる教育の弊が、茲處に至らしむるのである。人は謂ふ、學校は地方文化の中心なりと、而も文化の中心たる學校は、抑も何程ありや。人は謂ふ、教育者は社會の本樞なりと、而も社會の本樞たる教育家は、抑も何人ありや。言論に巧みとなるも、實行に疎く、理窟に巧者となるも、勞働を忌避するは、今日の教育が生産する現象ではあるまいか。教へぬてよい、善良の子弟ばかりを教へ、教化感化せねばならぬ子弟を導かんとせず、且つ徒に、易きを好み、事なきを喜びたい地位や、月給の上るを念とするは、今の教育家の通弊ではあるまいか。法律命令に囚はれ、形式に縛られて、人を器械視し、人の自由の權威と、



功徳を認むる能はざるは、監督者側の體度ではあるまいか。夫れ如斯くにして、何れの日か實社會に適應する人物を教育し、實力ある國民の養成を見るを得んやである。

近時小學校に農業科の時間が増し、實習をも加へることになつて、稍農村教育が實際に近接する様になり、補習學校が唱導獎勵されて、少しく實際的人物が出来る様になつてかの如くに見ゆるのであるが、然し其内容は未だ御話にならぬ者が多く、實際は形體が備はつたと云ふに過ぎないのである。何んとなれば、彼の農業科を受持つ教師は、何等農業に興味を有せず、農的手腕を有せざるが、一般の有様である。特に補習學校は多く夜學の看板を換へたるに過ぎないので、十中八九分であるから、未だ農的實務の人を養成するに至らぬのが多いのである。甚だしきは、看板丈けて何等實業に關する知識技能を授けて居らぬものがあり、其筋の獎勵に對し申譯的の設備をなして足れりとするもあるのだから、少しも實際に役立たぬのは、無理もないことであると云はねばならぬものもある。固より世には例外もある、彼の千葉縣の源村では、久敷以前より、兒童に草刈の

術を教へぬては、其村の人として將來は勿論現在に於て困るであらうと、土曜日の午後をトして特に草刈に生徒を働かしめ居るが如きは、流石模範の小學校らしきことである。又香川縣香川郡では、働く人、活動的の人を作るは、家庭に於ても、町村に於ても、又社會に於ても大切なことであるが、如斯人を作るには、教ゆる者先づ働く人となり、活動の人とならねばならぬとて、實際的學校教育施設方針を作つて、附録各小學校に教師の實習地を設け、教師自から農業をなして、勞働の範を示して居るは、實に愉快にして難有きことである。又た愛知縣南設樂郡千郷村小學校では、勞働を忌まざる人は、最も幸福なる人であり、家庭に於ても、町村に於ても重寶がらるゝ、人でてあれば、子女は斯の如く教育せざるべからずとなし、勞働日と云ふを特に規定し、毎週一回小勞働日を設け、毎月一回大勞働日を定め、其日は職員生徒等しく、凡て勞役に服することゝなし、毎月一回勞働祭を行ふて、父兄や青年を招きて、勞働の趣味を感得せしむることにして居るが、如何にも親切な思付と云はねばならぬ。又た香川縣三豊郡の實科高等女學校や、山口縣徳山町の私立女學校は、農業の實務や家政の實務に慣らしむべく、日常の用意と

して居るが附録今日の所比較的農村の實際に適したものと云つてよからうと思ふ。又彼の滋賀縣愛知郡立實科女學校は、其經濟的にして且つ實際的なるに於て、或は女學校中の白眉としても宜敷からうと思ふのである附録。中學校としては餘り實際的なるを知らないが、熊本縣菊池郡の西合志村にある合志義塾は、地主平田一十氏等の私立經營に屬するものであるが、今日まで略千名以上の卒業生を出して居つて、皆有爲の人を社會に提供して居るは、誠に我國教育界の誇りとすべき所であらうと思ふ。世の中には、如斯特種の學校は他にもあるだらう、大に敬意を表すべき者もあるに相違あるまいが、然し之は少數であるのが、情ないことである。故に今少し、監督者も、教育者側も、父兄も名の美なることや、表面の立派なことや、看板の見事なるに眩惑せずして、其教育訓練の實際的なるを貴び、教授内容の實際的なるに着眼し、役に立つ人を作り、用に立つ人を出來す心懸が肝要である。特に町村に於て教育費の増加に苦しみ、町村の小學校で國民教育の基礎が出來るのであつて見れば、町村教育は何處までも實際と接觸し、實際と隔離せざる教育が出來ねばならぬのである。此の意味に於ては、高等小學校

校よりも寧ろ補習學校の經營に、重きを置かれ、充實を期せねばならないと思ふのである。又中學校の數が郡部に減少されて、乙種實業學校や徒弟學校の増設さるゝは勿論、甲種實業學校が今少し増加して可なりとすべきである。而して小學校に於ても愛知縣實飯郡鹽津小學校の如く、其以上の學校に於ても、地方の篤農家や老農家、或は地方の實業家并に技術員との間に、連絡がとれて、之れ等と地方の實業發達に責任を分擔する事が出來、經濟家や世帯上手の人と共に家庭改良の上に於て同一歩調がとれる様に協議が出來、有徳の人、人望の人と共に人格向上の切磋琢磨が出來、先覺者や先輩の人と相提携して、時勢に後れぬ用意が出來、有志家や篤志家と意志の疏通が計られて、公共の事業が進み、地方の改良が出來、民育上に協同の効果を現することが出來る様になつたならば、何處に於ても必ずや教育は實際的になり、教育の成果は實社會の進歩發達に貢獻することが至大となるであらう。而も之は望むてなし得べからざることなく、人の工夫と努力とによつて必ず出來ることであれば、一日も早く之を出來すべく、其地位に居る者は、焦念工夫すべきである。

### 三、庶民的教育

國民に向上的精神のあるは、誠に喜ぶべき現象であつて、國家は之が爲めに進歩發達するに相違ないのであるが、然し小學校より中學校に、中學校より高等學校に、高等學校より大學校にと、學校教育の累進が、穴勝國民の向上を意味する譯にはあるまい。又經費を多く使ひ、學費を多く要する教育が、有爲の人物を養成する所以の道でもあるまい。又高き俸給の人に教へられ、大なる學校に學ぶことが、必ずしも活動の人物を造成する譯のものでもあるまい。又頭のよい人や金のある人や、暇のある人ばかりを立派に教育して見た所で、それで國民の價值が高まり、國民の實力が進むものではあるまい。特に何れの國にしても、高き教育を受くる丈けの金と、暇と頭とを持たぬ國民が多數であるのだから、何處に於ても、教育は多數國民を基礎にし、働く人、働きつゝある人を相手にするものでなければならぬものである。這是誠に見易き道理でありながら、學ぶ者も、學ばしむる者も、又教ゆる者も、無暗に教育の高きを貴び、無理算段してまでも高き教育

に馳せんとする傾向あるは、之れ我國の教育が、未だ庶民的になつて居らず、なつて來ない結果である。特に學校と云へば、官公立に限ざられ、校舎と云ふ特別の營造物がなければならぬ様に考へて居るは、所謂病が膏盲に入つて居ると同様である。近來都會に於ては、多くの私立學校が出来、各種の學校も出来て來たが、田舎に於ては何等見るべきものがないのは、抑も何故であらうか、都會は教師を得る便があり、設備上にも便宜を得るに都合よきは無論であるが、都會の人や、都會附近の人は、兎に角、地方の人に取っては、策を負ふて遠く學ぶの不便は免れないのである。之れ全く人を誘導するやり方であり、招到する仕方であつて、教育を一種の商買道具と心得てなすものではあるまいか。眞に國民多數の教育を重んずると云ふならば、可憐なる地方民を教育するとするならば、地方に出掛けて、今少し學校の經營が出来ねばならぬ筈のものである。教育家と自ら任ずる程の者ならば、徒に都會に功名を争ふよりは、少しは地方に落付いて、郷黨のため、開發の手段を講ずることが出来ねばならぬのである。吾輩は常に職を求むる教育家が、常に都會に糊口の運動をなすことや、堂々たる教育者が、休職、非職と

なり、或は辭職したる場合に於て、多く都會の天地に醒寤して、敢て地方教育多數國民のために一新生面を開く能はざるを遺憾とし、彼等のために物哀れを感ずる者である。又地方地主の徒が其子女の教育に配慮し、甚だしきは都會に移住してまでも子女の監督を辭せざるにも關らず、地方教育を充實し、子女教育に好適なる田園に教育的施設をなすに考へ及ばざるは、誠に情ない事に思ふものである。之れ畢竟彼等の子女に私するものであつて、國民多數に同情なき所以である。と謂つても致方はあるまいと思ふ。それに新聞や雜誌、教科書や圖書を見ても、中流以上を標準とするが多く、都會本位なるが多くて、彼等多數國民に與ふるよりも、奪ふ所が多い結果を呈しつゝあるは、全く社會の考が庶民的になつて居ない證據である。且つは學校と云へば、學校の都合よきに從はねばならずして多數國民の都合よきにはなつて居らず、教授と云へば教師の意見を聞き、教へられた通りをせざれば落第するのであつて、學生に適したる教授が工夫されず、變はつた見識を認むる雅量に接することが出來ぬのである。特に我國の教育家は、我國民性を究めずして、漫りに他國で成績よきを輸入することをよいことに

考へ、我が國體に通ぜずして、徒に理論の優れたるを歓迎し、自ら研究し、自ら考案すると云ふよりも、外國人の説を受賣りし、先覺者の工夫を翻譯して、それでよいと思ひ、笑止なことには、それが學者であると思ふて得意がつて居るが多いのである。進まざる社會が寛容するから結構であり、無智なる國民が感心し居るから幸であるが、ざりとて多數國民を疑惑の淵に沈づめ、無事な國民の多數を煩悶の巷に導くは、許すべからざる一種の罪惡ではあるまいか。之れ己が名を賣り、功を貪るに汲々乎として、多數國民に同情し、彼等を眞に幸福ならしめんとする誠意の缺乏に基因するものである。

元來文部省が發表する統計には、庶民的ならざる教育を助長する嫌がある。則ち府縣別に中等程度以上の學校數や、府縣民に對する其の被教育者の數を示すは、決して悪いことではないが、然し地方の分らず屋は、其校數の少きことや、被教育者の數の少きを見て、何んだか其の府縣の教育が進まざるかの様に考へて、無理をしても之が増設を計らんとする傾向がある。其癖、徴兵検査の成績を調査比較して、教育の効果や、其普及の程度を鑑識して、之に對する計畫を立て、施設を

なさんとする者は殆どないのである。女学校の數や女學生の數を比較研究して其普及せざるを痛論し、之が設置を唱導する者がありても、益々盛になる工場生活をなす可憐な少女の教育が如何になり居るや、如何にせば可なるやは、少しも考慮せぬのである。然れば文部省に於ても、地方廳に於ても、今少し此等の點に留意して、國民に正當なる考をなさしめ、公平なる判斷をなさしむることが出来ねばなるまい。

夫れ多數國民に對し、尤も經濟的にして、尤も實際的であつて、尙且つ庶民的なるは、短期の講習であらうと思ふ。後れながらに、當年に比して進歩の跡が見へ改良せぬと云ふもの、尙改良の認むべきことのあるは、恐らく學校教育の効果よりも、講習の効果が多大であらう。講習は専門的なるもあり、通俗的なるもあるが、等しく年齢に拘泥せず、身分資格に制限せず、其必要に應じて、隨時隨所に於て開始さるゝものであれば、所謂應急的であつて、普遍的である。然も我國に於ては、普通科の講習會や、學生や教師相手の講話が、文部省に於て計畫さるゝが、其専門的なるは農商務省の規程する所となつて居る。之れ、或は文部省の教育方針

が庶民的に盡さざる處あるが爲ではあるまいか、實際的ならざる故ではあるまいか。劃一を主義とし、綱領とする我文部省に於て、之を統一する能はざるは、怪しむべく、惜しむべきことではなからうか、且つ講話の如き、更に卑近にして、適切なるを得る者に至つては、文部省側に於ては、殆んど見る影もないことになつて居る。近來通俗教育とか、通俗講話會とか、何んとか謂つて獎勵されて居るが、今から龍頭蛇尾の觀を呈し、始めは脱兎の如く、終りは處女の如しと嘲笑されて來て居る。之れ當局に多數國民を思ふの熱情がなく、庶民に盡くす努力が出来ぬからである。

語に熱心は工夫を生むと云ふことがある。若し當局者に熱心なる同情があり、教育家に犠牲的努力があるならば、たとへ今日の儘でも、尙國民に簡易なる教育を施すことが出来、多數國民に必要な智識技能を得せしむることが出来ようと思ふのである。元來地方に散在する中等學校の職員は何をなした、ありや、學生生徒の教育に寧日なしと謂はゞ云へ、教授訓練の方法に研究して暇がないと申譯が出来れば、するも可なりだが、吾輩は決して寧日なしとは認めぬ、又

其申譯は諒とすることが出来ないのである。元來暇は出来るものにあらずして出来かすべきものであり、申譯は卑怯未練の言草であつて苟くも教育家の口にするべき所ではあるまい。眞に國民のため盡さんと欲せば、青年の夜學に出る位は難作もないことであり、通俗教育に講師となる位は朝飯前の仕事であり、地方民の集合を捕へて彼等に講演する機轉位はさかねばならぬ筈なのに、校長にも、教師にも、斯る餘計な努力は見るべくもあらずなるは、誠に實の持腐れてはあるまいか。而も地方に教育會が開けても招かんとする者少く、地方改良の講演會が開催されても招聘する者がなく、社會教育の施設が出来ても彼等を度外する傾向あるは、之れ招かず、聘せず、度外する者に罪を歸すべきか、將た又招かるゝ資格なく、聘せらるゝ衆望なく、仲間入りを要求するゝ丈の技倆なき教育家に罪を歸すべきか。吾輩は多くの場合に於て、教育家の融通がきかざる、六ヶ敷講釋が出来ても、人と場所に應じて教育する力のなき、教育家に其の罪は歸すべきものと思ふものである。活動すべき人を教育せんとする教育家が、活動の天地に居つて、自ら學校に閉息し、自分で活動の區域を減少するが如きは、其愚や及ぶ

べからずとなすものである。而も國民多數の教育のため、庶民的教育のために、は誠に痛恨の情に堪へぬ次第である。

故に吾輩は國民の自覺を要求する前に、先づ教育家の自覺を要求せんとする者である。地方に在りては小學校教師よりも、比較的敬意を表せられ、地位も上なりとする中等程度の教育家に、其の自覺を要求せざるを得ないのである。然し其自覺を待つべきにあらざるは、多數國民の教育であり、下級國民の教育であるから、如何なる方面よりしても、其教育の普及と向上とを計らねばならぬのである。此の意義に於て、吾輩は町村に存在する、多數團體の教育的活動を望まざるを得ぬのである。則ち農會は時々集會を催して農事上の講習講話をなすべく、教育會は臨時に通俗講話會などを開くべく、軍人會や青年會を發起し、夜會を開催すべく、産業組合亦總會の機會を捕へて、協同心や經濟的思想の養成に、組合員の訓練を怠るなく、衛生會は時に應じ、變に従つて衛生的教育をなすべく、或は廣島縣廣村の示談會の如く、或は静岡縣積志村の試みたる家庭會の如きを計畫すべく、又時に視察をなさしむるが如きことをやつて、凡百町村民の教育が出来

様にしたいものと思ふのである。同時に教育家を鞭撻督勵して、教育家の責務を果さしめ、態度を得せしめ、面目を發揮せしむることが必要である。又地方地主を誘導して小作者に對する教育的施設をなさしめ、工場主を勸誘して工男女に對する教育的計畫を立てしむることが肝要である。

特に貧民にして小學校教育を受くる能はざるものに對しては、獎學資金の積立をなし、或は學校用品の貸與をなしたり、學資の補助をなすが如き設が出来ねばならず。伸ぶべくして伸ぶる能はず、進み得る者で進むとが出来ず、向上すべくして向上する能はざる、貧家の子弟に對しては、十分に驥足を伸ばし、才能を發揮せしむべき用意も亦大切である。如斯きは、町村有志の協力によつても出来、又自治體の自治行爲としても出来得べき筈のものである。

要するに多數國民を相手にする教育、下級國民の教育は、一は學校教育の改善に期待すべく、一は社會的教育の施設に待たねばならぬのである。之が爲めには、教育家と地方有力者の奮發工夫が、今一層進んで來なくてはだめである。又町村の自治的行爲が發達し、町村民の自覺自奮が出来て來ねば、何等の効果を收

むることが出来ないのである。而も時勢は滔々乎として、貧富を阻隔し、貴賤の別を大ならしめんとするのであれば、今に於て思想上の懸隔を少からしめ、智識に於ての距離を短縮することが出来ずば、世は益危險に陥り、人は愈平等の福利に遠さかる悲境を見ねばなるまいと思ふ。故に教師は飽くまで、下級國民のためならざるべからず、多數國民を基礎として行はざるべからざるものである。之れ即ち教師の眞正なる進歩でもあり、又功德の表はるゝ所以の道である。

\* \* \* \* \*

農村教育の要義は、三要の一致と三行の合一とによりてなり、三要と三行とは離るべからず、分つべからずして、教育の効果を發揮するのである。即ち家庭と學校と社會と連絡して、教育は經濟的にもなり、實際的にもなり、又庶民的にもなるのである。換言すれば父母の努力と教育家の努力と社會の進歩と相待つて教育は普及もし、功果も顯著になり、少費多効の實も擧がり、實際に役立つ人物が出来、國民の總體的進歩を見ることが出来るのである。而も農村と云ふからには、教育に農村的の色彩があり、香味があり、形體が備つて居らねばならぬのであ

る。或曰く、既に國民教育と云ふ以上は、都市も農村も區別すべからず、市民も農民も同一に教育すべく、其間に何等の特徴あるべからずと云ふもあるが、市民と農民とは業務に相異があり、居所に相違があり、接する事物に差異ある以上は同一ならんと欲するも能はず、特徴あるべからずと云ふも特徴の存すること如何にせんやである。故に吾輩は飽くまでも農村の教育は、農村的でなければならず、市民教育は、都市的であるが正當なりとする。同時に農村教育に従事する者は、農村的の覺悟あるべく、市民教育に従事する者は、都市的でありて然りとす。尙農村民には農村民たるの自覺があり、特徴があり、信念があり、見識がなければならぬと同じ様に、市民には市民たるの自覺と特徴と信念と見識があつてよいと思ふものである。固より切つても切れぬ、同一國家に屬する國民である以上は、其の國家に盡くす根本義に於ては相異のある筈はない。之を譬へば、肉と葱とは非常な相異である、其形態に於て、其性質に於て、又其香味に於て、到底混同すべからざるものであるが、等しく食物であつて見れば、其の異なる點に於て双方の効能が發揮され、相寄りて以て滋養の目的に適ふと同じである。故に吾輩は

今の教育制度が餘りに劃一であつて、都市も農村も分たざるや、方が、都市にも面白なく、農村にも結構がらぬ結果を來たすものであると信するのである。少くも農村に於て、教育の難有味が感ぜられず、功德が認められず、甚だしきは、教育的設備の出來ると反比して、農村の不振を來たし、農民の窮乏を輸すは、全く都市と農村とを區別せざる教育の弊であると思ふ。今少し國民の凡てに自覺が出來て來、國民の思慮分別が進むて來れば、兎に角、今日の程度では、是非共農村には農村的の教育が施行され、農民には農民的の教育が授けられねばならぬのである。それが則ち真正なる國民教育であり、教育の眞髓を得るものであらうと思ふのである。斯くして始めて、農村教育の要義が明かになり、農村教育の面目が發揮し、農民の教育が進歩發達するのである。



## 第六章 農村教育の方針

大なる國民には大なる理想がなければならず、健全に進歩する國民には健全なる教育方針がなければならぬ筈である。今や我國は明治時代を了へて大正の御世に進むて來た、又彼の日露戦役を経て我國民は一等國民と自負する様になつて來た。されば今後に於ける國民的理想が認められねばならず、國民教育の方針が確立せねばならぬのである。少くも一等國の實力を養成すべき理想があつて、何人にも此理想を現實にすべき國民の教育が出来ねばならぬのである。而も我農村は、國家の根基であり、國民の發生地であれば、此處に於ける教育の方針が的確ならざれば、我國民の養成は立派に出来るものではあるまいと思ふ。然るに從來我農村に於ける教育は、如何なる方針を有せしや、農村教育に従事する者は、如何なる方針に於て農民の子弟を教育せしや、又た一般國民の教育に對する意見は如何であつたであらうか。吾輩は不幸にして、何等確實なる方針を見出す事が出来ないのみならず、全く曖昧の裡に葬られて居つたてはあるま

いかと思ふ。本より此國を盛ならしめ、此國民を進歩せしむる爲めに教育をして居るに相異なるまいが、今日までのやり方で果して、其目的を達することが出来るやうか、或は人に教育を施すにあらずして、教育の爲めに人を犠牲に供して居ることもあるではあるまいか。之を思ひ、彼を考へて見れば、我國民の教育には、今少し理想を明にしたる教育が出来ねばならず、それには今少し教育の方針が的確にならねばならぬと思ふのである。

吾輩の意見は、先づ第一に

國家的人物と地方的人物の養成

なる二つの意義が、我農村教育に於て認められねばならぬと思ふのである。即ち換言すれば、

相續人教育と次三男教育

の方針を區分されねばならぬとするものである。第二は、今日の狀勢より見て農家婦人の教育及女子教育

が今少し重く見られ、之に對する主義方針が明瞭にならねばならぬと思ふの

である。今日の如く、たゞ學校へ出せばよし、たゞ教育さへすれば可なりとする教育であるならば、それは餘りに贅澤な考であり、無謀なる仕方ではあるまいかと思ふのである。又今日の如く農家婦人に對する教育が認められず、單に少女教育が婦人の資格をとる考で施行さるゝものであつたならば、單に農家の不幸のみならずして、累を國家に及ぼすものと云はねばならぬ。又可憐なる多數下級民の子女が、青春の季を工場生活に委棄して、顧みられざる様では、國民の進歩を阻害する弊に堪ゆべからざるのみならず、人道上から見ても、許すべからざる事であらうと思ふのである。

### 一、國家的人物と地方的人物の養成

農村は慥に國民發生の地であり、農民は多産の國民である。都市の人口増加は、農民の移入であり、海外移民の多數は農民の輸出であり、農民の子女には、其個性に於て實際色々の別を認むることが出来るものである。土地狭き我農村に於ては、到底多産の子女を收容することが出来ず、其の何分は是れ他に移轉さ

せねばならぬのである。則ち地方に踏み留まつて、國家の根基を固め、父祖傳來の職業を承繼して、祖先の祭を絶たざる側に立つ人と、他に出で、或は國家の發展に資し、或は國家の檜舞臺に立ちて内治外交の衝にあたり、或は他の職務に従事して國家の用をなすと云ふ側の人とが出来ねばならぬと思ふのである。換言すれば、農村に於ては、地方的人物と、國家的人物とが出来ねばならず、斯様に、人の教育が出来ねばなるまいと思ふのである。

今日までの教育者側、又た教育を受くる者の側を見れば、如上の考慮が極めて曖昧になつて居る、或は理想は大なるべく、高かるべしとて、無暗に國家の檜舞臺に立たしめ、都市に活動の新天地を興ふることを教育家の面目とし、地方に留ることは意氣地なきことであり、低能の者でもあるかの如く考へて居る者が多くあるまいかと思ふ。時代風潮は、人を驅つて誤りたる向上精神を挑發し、高きを見て脚下を見ず、遠きを眺めて近きを顧みざる弊に陥らしむるのであるから、如斯なるのは當然かも知れぬが、それでは國家は維持されもしないだらうし、又進歩發達もしまし。吾輩は、今の世が餘りに船頭を望む人の多きに苦しみ、火夫とな

つて船底に石炭たく人の少きを嘆ずるものである。本より船頭も必要であり、火夫も必要であり、其職務に上下の區別はある筈がないのであつて、たゞ其人の能力と境遇によりて相異を生すべきである。故に家事に系累なく、體質もよく、頭腦もよく、資力もある人であれば、何處へまでも地位を向上發展せしむべきであるが、それが出来るると必ずしも貴ひ譯てはない。時には人の留まるを喜ばざる地方に踏み留つて、所謂郷黨の善人となり、國家の基礎を築き固める地位に立つを歓迎せねばならぬ場合もある。又た力あり、資本ありて、境遇が當人の志を得せしめぬこともあらう、又境遇がよくて、力足らず、資本に缺けて居つて、志をなす能はざるものもあらう。然し地位を向上し得る人物は多くなく、槍舞臺に立つべき人は多きを要せぬのであるから、大體に於て、多數の人は實業的に働く人とならねばならず、特に地方の爲めに努力すると云ふ人を造らねばならぬのである。

今日の如く就職難を訴ふる者が多く出来たり、學校は卒業したが糊口に苦しむと泣き言を云つたり、或は煩悶の徒の簇出するは、皆如上教育の方針が的確な

らざる結果に外ならぬのである。又た教育を受けたる者が百姓を避けたり、勞働を忌避したり、田舎住を好まぬて困ると云ふ非難の聲も、漠然たる無方針の教育が生み出す者である。

今の學校教育では個性の調査をなし、個性に従ふて教育をなすとは云へども、未だ如上の方針を以てする所までは到つて居らぬ様である。立派な人たれと教ゆれども、未だ大功無名の悟りを得せしむることが出来ず、上位下役、下役上位の眞諦に悟らしむることが出来ぬ様である。獨立自營の人たれと鼓吹すれども、未だ獨立の意義に通ぜしむることが出来ず、自營の手段を得せしむることが出来ぬ様である。向上發展は口癖の様に、説いて居るが、徒に月給の向上や、官等の向上や、とんでもない仕事に發展する者は巧者であり、才子と認めて、未だ向上發展の眞髓を悟らしむることが出来ぬ様である。されば學校教育は人を空想に走らしめ、理想倒れに導き、理窟家たらしめ、口説の人たらしめ、月給取にする者の如くに考へて、此子は相續人だから學校へ出さぬのである、此兒は百姓をさせるのだから小學校教育で澤山であると云ふ父兄が、随分多いのである。又た中等以

上の學校を卒業したと云へば、百姓はせぬものゝ如く考へ、働くことは出来ぬ者の様に思ひなす、世間の人も亦た随分多いのである。事此處に至るの弊は、皆教育に方針が明かならず、學校に於て方針を明かにしたる教育をなす能はざる結果に外ならぬのである。故に個性の調査もよいが、調査した以上は、彼等の一生を誤まらしめざる、一定の方針によつて教育が出来ねばならぬのである。即ち國家的人物として、四方に雄飛し得る資格を備へ、其境遇に居るものならば、其事務を自覺せしめて、奮發努力の意氣を盛にしなねばならず。又地方的人物として、郷黨の善人とならざるべからざる人ならば、其責任を辨へしめ、團體に殉ずる向上の一路を知らしめて、毅然として動かざる意志の強固を得せしめねばならぬのである。則ち農村外に働く人か、農村内に働く人かを明にし、農村外に働く人には其覺悟をなさしめ、農村内に働く人には、等しく其覺悟を得せしむる丈けの教育が出来ねばならず、同時に之に對する手段方法を授くる教育が出来ねばだめである。而も農村多數の人は、何れも職業的人とならねばならず、獨立自營が出来ねばならぬ人である以上は、教育は何處までも、其方針に於て、其目的を

達すべく施されねばならぬのである。それには、單に學校ばかりでなく、町村も同一方針を以て、教育上に施設が出来ねばならず、家庭も亦此方針を以て教育を受けしむる用意がなけねばならぬのである。現に島根縣大原郡の優良村なる海潮村では、如斯やつて居つて、面白き成績を上げつゝあるのである。然れば町村が國家に對する責務としても、農家が國家に對する面目に於ても、教育上の方針を明かにして、無用の人を出さず、役立たぬ人を製造せざる覺悟が大切であり、其覺悟の實現が肝要なことである。

#### 五年千兩の學資を入れて

覺へさしたが親不孝

と云ふ童謡が今日或る地方に流行して居る。之れ中學校卒業生のなすなきを諷し、其の父兄の失望の様を評したものである。漫然として教育を受け、曠然として人の子を教育すると、斯る結果に陥るは寧ろ當然とすべきである。進みて國家的人物たらんか、頭腦なく、學資なきを如何にせん。退いて郷黨の人たらんか、農村に就て何等の智識もなく、觀念もなく、亦た抱負の出づべき素養なきを如

何にせん。頭あり資あつても競争試験を経過せざれば物にならず、家庭の人となつても、鍼もつ術を知らざれば、手傳ふことも出来ず、結局放浪の生活に入り、親兄弟を泣かすに止まるは、又た止むを得ざるによることならずや。而も世人尙未だ此處に悟を開かず、學ぶ者亦此處に思を輸す能はず、教ゆる者すら尙此處に反省する能はざるは、邦家の不幸之れより大なるは蓋しなかるべしと思ふのである。而も之れ豈に中等學校に於てのみなんや、高等程度の學校に於ても、亦た初等學校に於ても同一の弊に陥つて居るが、今の趨勢である。之れ吾輩が繰返して、農村の教育に確たる方針が立たねばならず、教育者と父兄とを問はず、農村的教育方針の下に子弟の教育をなさねばならぬと絶叫する所以である。

## 二、相續人と次三男の教育

更に語を進めて云へば、我國は家系を重ずる家族制度の國である。個人主義の歐米諸國や、財産相續にのみ重きを置く泰西諸國などとは異つて居る國柄である以上は、家系を相續して、皇室と運命を共にすべき人の教育と、次三男の如き、

成るべく家庭に獨立して迷惑をかけず、家庭と離れて自營の別天地を作るべき人との教育は、多少違はなければならぬ筈のものではあるまいか。制度の上よりすれば、長男は相續者であるが、必ずしも斯くあらねばならぬ譯のものではあるまい。則ち四人の兄弟で、次男の性質と趣味が地方的であり、相續者向であるならば、長男に代はつて家系を相續し、家業を維持し、餘力を郷黨の爲めに濫がしむるもよからう。同時に長男と三四男は、別に獨立自營の道に立たしむることがよいと思ふのである。元來相續者は何處までも地方的の人物であつて、儂は此處に骨を残すのである。土になるのであるとの腹が極まつて居り、心の据りが動かぬ人でなければ、向上の眞諦に悟りたる人、我國の家族制度は、其根底が危くなるであらうと思ふのである。斯る人が農村に根據を据へてこそ、愛郷心も盛になれば、公共心も起つて來て、地方農村が堅實になるのである。故に斯る人に向つては、飽くまでも地方的人物としての教育が施さねばならず、又教育の功德によつて、其町村に落付、其家業に喜んで働き、其地方の爲に努力する人物が出來ねばならぬのである。斯くなかりて始めて、我農村は面白く發達もすれば、進歩

もし、我農民の地位も高まり、面目も發揮するのである。

相續者たらざる人、相續者たるべからざる人は、我國の如き小面積を耕やす農家に於ては、成るべく家庭に累を及ぼさぬ、厄介をかけない、獨立自營の人となるが、農村のためにも、農家の爲めにも、又當人の爲めにも、至大の幸福を輸するのである。既に家族制度の國であつて、家系を重んずる國柄であるから、相續者なき家庭に於て他人の子を需むることが切なる場合もある。即ち養子縁組は、我國風の一特徴である以上は、彼等の中より養子となつて他家を相續する者もあるが、それは少數で済むことである。又新屋、分家と稱へて、本家の支柱たらしむべく、別に一家をなさしむるものもあらうが、それは今日に於ては漸次減少しつつあるのである。されば多くの人は、別に自營自活の道に立たねばならず、又立つてもらい度のであるから、勢之れ等の人に向つては、それ相等の教育が施されねばならず、又教育の力によつて、自己の運命を自己の力で以て開拓して行くことが出来る人たらしめねばならぬのである。則ち彼等は道を踐みて國家の檜舞臺に立つか、或は道を他に轉じて他業に活路を見出すか、或は海外に雄飛して第二の墳

墓の地を作るか、或は新領土に移住して第二の祖國を經營するか、兎に角性格によつて撰ぶ道には相違あり、往くべき路には難易があらうが、等しく獨立自營の人たらしめねばならぬのである。若し境遇が許さずして、父母と離るべからず、兄弟相異なる天地を有することが出来ねば、或は家業を手傳ふも可なり、或は町村公共の事に力を輸すも可なり、又た他人の仕事を引受けてするも可なりであつて、要は座食の人たるを恥ぢ、厄介者たるを恐れ、役に立たぬ人たらしめるを期せねばならぬのである。如斯して始めて、國家は有爲の人物を得、都市も活動の人を得、國民の發展も出来れば、新領土の經營も出来るのである。世間往々にして、農學校を卒へたる人の狀況を聞き、家業に従事せざる者ありと云へば、妙に農業教育の價値を疑ひ、學校の方針を誤まれる者の様に考ふるものがある。如斯きは當局者の中にもあれば、教育家の中にもあれば、農業教育に従事せる人にもあるのである。之れ皆相續者と次三男の教育に就いて、何等考ふる所なき迂濶者であるか、然らざれば、我農村や農家の實際を知らざる皮相家の言ふことである。

吾輩は下章に於て別に論ずる次第もあれば、相續者の教育や、次三男教育の方

法に就いては、今茲處に詳論はしない。たゞ何處までも地方的人物と國家的人物の教育を区分するの必要があり、相續者と次三男の教育は別に考ふる所がなければならぬと絶叫し、其處に教育上の方針が立たねばならぬことは、農村に於て特に大切であると論ずるに止めて置く。

### 三、婦人及少女の教育

成功者の裏面には必ず婦人の助力があり、英雄の陰には婦人の内助が潜みて居り、事業家の側には必ず婦人の援助があるのを思ふても、我農家の主婦に相當の教育を施すことは、我農家を救済する所以であり、我農業の改良を促進する近路であり、我農村教育の振興を助長する妙案である。然るに農家の救済策を講ずるもの未だ其主婦の教育に劃策する所なく、農事改良に努力する者未だ手を農家の婦人教育に染むる能はず、農村教育の振興を鼓吹する者未だ農村的婦人教育の施設に一步を進むる能はざるは、抑も何の故ぞや。之れ元來婦人は男子と異なりて、外出に不便を感ずること深き故なるか、又講話講演に興味を感せず

る爲め、此種の催に出席せざる爲めなるか、將又婦人を教育するの必要が認められず、認められても之が教育に盡力する人なきによるものなるか。現に優良町村に於て婦人會を設け、婦人の集合をなさしめて、農家の婦人として須要の事項を知らしめ居る事實に徴せば、婦人の外出に不便を感ずることは、別に婦人教育に妨害をなすものにあらざることが分る。又説教に婦人の出席が多く、婦人講習會の開催されし所に、其成績の優良なるものあるを見れば、決して婦人は之れに興味を感せぬものとは思はれない。されば農家婦人教育の振はざるは、之を必要と認めて盡力せず、世話をやく者がない爲めであるか、然らざれば、婦人を教育する丈の技倆を有する教育家や先覺者がない爲めである。故に町村の事業としても、有志の事業としても、特に教育家の本分としても、又教育會等の職務としても、婦人の教育に注意を怠らす、其施設計畫に遺憾なきを期すべきである。幸に婦人に自覺が出来、婦人會に自動的の活動が出来て、自ら教育するに焦念工夫するに至るならば、更に妙であるから、如斯導かねばならぬのである。彼の熊本縣の小國村に於ける婦人會の如くなれば、男子と雖ども遜色なき能はず、斯

くの如き村は進歩發達せざらんと欲するも得ないのである。

元來婦人は、裁縫や炊事の仕事にのみ従ふべきではないので、子女の教育訓練が其の最も主とすべき事業であるは勿論のことである。男子は考が粗漏であつて細事に氣が付かぬ勝ちであり、又多く外に働く者なれば、子女と座臥を共にして之を訓化する力は、婦人に及ばぬが普通である。それに婦人の多くは一家の經濟を負ふて居る人て、其家政の取り方一つで、一家の幸不幸が出来るのであるから、我農家に於て盛衰の鍵を握つて居る者と認めてもよいのである。故によき婦人のあるは、萬年の豊年であつて、拙劣な婦人を有するは百年の飢饉に遭ふも同じである云ふも、無理からぬことである。特に婦人の境遇は、我國に於ては猶深窓の人たるを脱せざるか、或は勞役に逐はれて寸暇を有せざるものか、或は留守居の役目と相場の定まつて居るのが普通であるから、其見識や低く、其常識や狭く、其度胸や極めて小なるが、婦人の特徴である。而もそれが婦人の天資であり、性格であると思ふは、誤解も亦甚だしいことであつて、之れは教へず、導かざるの罪であるを承知せねばならぬのである。而も女子と小人は養ひ難

しとの謬に漏れず、聊かの理屈が分り、時勢が解つたからとて、亭主を譬に敷く様な者もあるが、之れは教育の罪にあらずして、其教へ方の惡ひのか、然らざれば未だ教育の足らざるものと認めねばならないのである。兎に角農家の婦人は、農民の母であつて、且つ國民の母であるから、其教育は所謂良妻賢母主義であるのが極めて必要であつて、其方法も亦大に研究されねばならぬのである。

多くの婦人會に於ては、精神的の教育をなすが主眼になつて居る。即ち婦人の道徳、換言すれば婦徳の養成に重きを置いて居るが、既設婦人會の實況である。之れは教へる人の都合にもよるのであるが、婦人の間違つた者や、出來損ひは萬事に困ることが多いからであらうと思ふ。次に常識涵養を主としたるものが多い、即ち衛生とか保育とか、或は看護とか經濟に關することとか、多い、之も必要であるが、農家の主婦であつて、家事に内助する人なれば、今少し専門的に農學の一通り位は知らないでは困るのである。亭主が鹽水選をなさんと欲せば、妻君が承故せぬとか、夫が購買組合で物を買はんとすれば、妻君が苦狀を云ふとか、話柄は随分屢見聞する所である。斯くして農事の改良が出來ず、學理の應用



が歓迎されず、進みたる技術の實行がはかどらん事實は、彼處此處に存在するのである。此點に於ては福島縣安積郡の桑野村の婦人がなせる如く、島根縣大原郡の柳原村婦人報徳會がなせる如く、農耕の上に於て實際的の改良が出来る様指導誘掖が出来ねばならぬのである。それが出来ねば千葉縣一の宮町にやつて居る様に、一坪農業を彼等にやらせてもよいのである。若し夫れ一家の娯樂を改良し、家族團樂の幸福を増進し、利用厚生之道を得せしむる上からして、料理法に通せしむべきことが出来たならば、其功德や蓋し大ならんと信するのである。又た子女の躰け方や、行義作法に習はしむることや、其他よき習慣を興ふるに遺漏なき心得は、婦人に取りては尤も大切なる點であるから、之に對して周知なる教育が出来ねばならぬのである。又一家の整理が巧に出来、經濟上の手腕を有することは、今日の農家に最も必要なことなれば、此點に對しての教育訓練も亦出来ねばならぬことである。中には民法上の講義をなして、國法の示す婦人の心得を説示するものがあるが、之れより先きは斯ることも亦た大に必要があるであらう。要するに農家婦人の教育は、地方の關係もあり、教ゆる人の都合も

あり、又婦人の仕事の關係もあるから、一樣に行かぬは當然であらうが、今少し此の教育が重要視されて、飽くまでも良妻たり賢母たしむべく、世人の努力が之に向つて傾注されねば、獨り婦人の不幸のみではないのである。其事の困難である丈、それだけ、其業の行ひ難い丈、それだけ、吾輩は其事の必要を鼓吹し、其業の眞面目に發達すべきを勸奨するのである。

婦人教育と共に講究され、進歩せねばならぬは、女子即ち少女に對する教育である。彼等の中には久しからずして妻君たるもあり、母たるもあり、又た遠き未來を有するものもあるが、何れにしても男子ほどに教育上の施設が出来て居らぬのは事實である。特に普通教育を受けた後の女子教育機關は、我國に於ては未だ發達して居ない、近來高等女學校や實科高等女學校が設置さるゝ様になり、乙種農業學校や技藝學校や裁縫女學校も増設さるゝのであるが、其内容は遺憾ながら農村的になつて居るのが少いのである。而も之れ等に學ぶ者は即ち九牛の一毛に過ぎないので、尤も多數は家庭に留るのであつて、其中の少數が裁縫を習ふ位が關の山である。元來我國に於て盛なる工業と云へば、製糸、紡績、機械、マッ

チ業等であつて、何れも女子の手を要するものだから、中流以下の少女が之等の工場に吸収されるゝことが多いのである。それに農家の趨勢は困窮に陥るのが多いから、彼等の父母は好んで彼等を工場に出す傾向がある。故に男子に比して、彼等は不健康なる生活をなし、不健全なる境遇に陥るものが多いのであるから、動もすれば少女教育は怠り勝ちになるのである。而も男子の如き壯丁検査がないから、彼等の教育程度や教育の効果が如何に持續するゝやが分からぬ、従つて社會も當人も刺撃されるゝ機會に接することが少ない。之れ彼等の守操が堅からず、常識が低く、趣味が下劣である所以である。故に、若し今日の儘で経過せんか、我國民の母の資格が低落し、我農民の母の性格が墮落し、従つて我國民や農民の價值が全體に於て下落する譯である。之れ近時農村の少女教育が識者間の問題となり、社會改良論者の題目となり、農村問題の主要問題となつて來た所以ではあるまいかと思ふ。

昨年東京に於て開設されたる、全國農學校長會議の節、大日本農會よりは、農家の主婦たるべき者を養成するは如何なる教育を以て適當とするか

の諮問案が提出され、同時に静岡縣立農學校よりも、

女子農業教育を普及せしむべき適當なる方法如何

と云ふのが提出された、當時吾輩も選ばれたる五名委員の中であつたが左の答申案が決議された、即ち

#### 決 議

婦徳を養成し農家經營に關する智識及趣味を與ふる教育を以てすること

此目的を遂行せんには良教員及指導者の養成、既設學校の改善、農事思想の振興及簡易なる主婦教育の普及を計るべし

#### (一) 良教員及指導者の養成

一、女子大學、高等女子師範學校、女子師範學校に農業科を設置する事

二、師範學校に甲種農學校卒業生を收容し特に農業部を設け小學校本科正教員を養成する事

三、既設農業教員養成所を擴張し女子の入學を許可する事

四、府縣に女子農業教員及び指導者の養成所を設くる事

五、農業教員の養成には學理に偏するの弊なからしめむがため實驗實習をなし得る設備をなす事

(二) 既設學校改善

- 一、府縣高等女學校を整理し實科高等女學校を奨励する事
  - 二、實科高等女學校の内容を改善し、農業、裁縫、刺糸、衛生、保育、看護、經濟、簿記等の教授に重きを置き全般に亘り一層農村的になす事
  - 三、地方の状況に鑑み高等小學校を整理し農業補習學校及乙種農學校の設置を奨励する事
  - 四、高等小學校に於て女子に課すべき農業科の時間を増し(四時間位とす)各種の實習をなさしむる事
  - 五、技藝學校及裁縫女學校等の諸學校に於ても農業教育を加味する事
  - 六、農業科の受持教員は可成専門教育を受けたる人を以てし今一層圃場農産製造等の實習をなさしめ尙家庭に於ても一坪農業、一畝養蠶、養雞等をなさしむる事
  - 七、師範學校其他教員養成機關に於ける農業の科目は一週三時間以上とする事
- (三) 農事思想の振興
- 一、農業教育に従事する教員の優遇をなす事
  - 二、視學官、道府縣師範學校長、道府縣視學等の人々に女子農業教育上の注意を促す事
  - 三、小學校の教員をして自ら農業の經營をなさしむるが爲め小面積の圃園を貸與するが小學校の實習地を區劃して自ら菜果の栽培等をなさしむる事
  - 四、地方有力者をして農業の趣味を解せしむる事

- 五、各學校に於ける各教科書に今一層田圃趣味を鼓吹する事
- 六、宗敎家警察官等をして農業趣味の鼓吹に努めしむる事
- 七、農家の模範主婦を表彰する事

(四) 簡易なる主婦教育を開催すること

- 一、女子の講習講話を開催する事
- 二、婦人會、處女會、等女子の團體組織を奨励し會合に便ならしめて主婦に必要な事項の研究及農場の經營をなさしむる事
- 三、女子の巡迴文庫を設くる事
- 四、小學校教員に部落居住を奨励し農村生活の範を示さしむる事
- 五、農業、刺糸、衛生、保育、看護、經濟、簿記等の智識技能を授くるに重きを置く簡易なる家政教育を施す事

右は地方の状況によりて斟酌するは勿論なりと雖ども中農以上の主婦を養成するには實科高等女學校を改善したる者を適當とし中農の主婦養成には補習學校乙種農學校を以てし小農に在りては簡易なる主婦教育をなすを適當と認む。

(五) 普通學務局の所管に屬する師範學校、高等女學校(特に實科高等女學校、高

等小學校の農業科に對しては農業教員に堪能なる督學官をして監督せしめ其効果を擧げられむことを望む。

此の答申に對して大日本農會は如何なる成案を示すかは未定のことであり、此の報告を受けたる文部省は如何なる施設をなすかも未知のことに屬するのてあるが、随分社會の注意を引き、識者の間に新なる問題となつたのは事實であるから、不完全なる答申ではあるが、提出者も答申者も聊か面目を施したと云つてよからう。然し今少し具備的にならぬでは、我農村の女子教育にとりては、餘り功德を來すまいと思ふのである。兎に角最も急を要するは教師や指導者たるべき人の養成であつて、萬止むを得ざる場合は篤志家や當業者に助力を仰いでもよい。即ち婦徳の養成や、女子に必要な信念を與ふるは宗教家の手を借も可なりであり、又た専門的には地方地主の中には人格と手腕とに於て、立派に指導の出来る人もある。又た老農や有志家の中にも、中々よく指導啓發の出来る人もあるから、斯る人を利用して差支はないのである。敢て春西諸國の例に習ふ譯ではないが、今日の文明國では斯る場合に人物經濟と云ふべきか、人の利

用と云ふべきか、兎に角實地家を囑託して居るは堅いやり方であると思ふのである。次は既設學校の改善であるが之は規則とか、條例とがあつて一寸改められぬ所もあらうが、村長や受持教師の頭に農村を思ひ、農村女子に同情があれば教授のやり方に於て、其目的の半は達し得らるゝものと思ふのである。即ち何事も農村的に説明したり、農村の事情に適應したる教授をしたり、時に或は課外講義で須要項目を講義したり、休暇を利用して農事講習を受けしめたり、或は農事試験場や農學校や、或は農場や、農園に視察を勧誘したり、農村人物に接觸せしむることによりて、餘程農村の事に趣味を持たしむることが出来ると思ふ。特に農業補習學校の設置や、新に實科高等女學校や技藝學校を起す場合に於ては、其積りて學科の配當や教師の選擇をなし、内容の設備を工夫せば、今日に比して大に改善する所が出来るに違ひあるまいと思ふ。然し斯る學校へ出る女子は少數であつて、多數は小學校で了るのだから、小學校に於て今少し女子に農業の思想や、農家の觀念を與へることにしたいのである。又小學校や補習學校卒業では中々満足せざる傾向があり、之れに年々歳々學理と技術とは長足の進

歩をなすのであるから、絶へず彼等の頭を養ふ必要もあるから、益少女會なり、處女會を組織せしめて、講習講話を受けしめ、又た圖書の廻覽も出来る様にしてやる事が肝要である。それに廣島縣の沼隈郡でやつて居る様な巡迴的女子實業學校をやつて三四月間、秩序的に必要課目を教授する工夫も、大切であつて且つ極めて有効であらうと思ふ。現に日本國に似たる農業状態を有する白耳義の國では、女子農業巡迴學校と云ふのがあつて、該國に於ける女子の農業仕事である酪農の進歩を計るために、家畜飼養の大意、家畜衛生及び酪農を教授することゝし、三ヶ月乃至四ヶ月を一學期として甲地より乙地に移り、順次巡迴して農村の女子に最新なる酪農法を修得せしむる組織であるのである。之に入學する者の資格は

- 一、十五歳以上の者
- 二、適當の豫備教育を受たる者
- 三、充分其業に堪ゆる者

とし、授業料は徴收せぬ制度である。該國に於て此種の學校は今から二十三年

前に設立されたと云ふことであるが、流石進むだ國の着眼はよいのである。

我國に於ては養蠶に關し六ヶ月許りの講習をやつて居るが、それは蠶病豫防吏員養成が目的になつて居るので、女子の職業と云ふ側から見れば兎に角、夫れ以上には感心は出来ないのである。故に各府縣の中で講習所の設けある所に於て、女子の農業講習をなすことにするのが、一番近道であらうと思ふ。即ち養蠶なり、果樹なり、蔬菜なり、又は簡易なる農産製造や農産物の利用法や、或は養雞地方や、養蜂地方では之に關する短期の教育をなすことにするのである。元來我國に於ては、男子が米麥作に従事せぬ傾向が生じて、之に代ゆるに養蠶など比較的樂な仕事に服するは、如何に考へても面白からぬ趨勢である。此點からしても、吾輩は、男子の農業の仕事と、女子の農業の仕事とを大體區別する必要があらうと思ふ。比較的力量を要する農耕の仕事や、外廻はりの仕事は男子がすることに、手先きや指先で出来る仕事乃至副業的な仕事は成るべく女子にやらせるがよいのである。それに補助科としてなり、科外講義なりて、農業簿記や、女子獨得の衛生、育兒、裁縫、洗濯、料理、物品整理のことなどは必ず授けることにし、尙出來得

き限り實驗實習をやらせる工夫をせねばならぬのである。それには家政學校が陸續設置さるゝ様にすることが肝要である。

又た工場生活をなす可憐な女子に向つては、工場主をして必ず教育的の設備をなさしむることが大切である。今の世は工場主が漸次考へ來たり、智識あり婦徳の辨へあり、又た女子の道に通じたる者の成績が比較的良好なるに悟りを開いて、或は特別に教師を備用したり、就業時間を短縮して普通學の教授をしたり、裁縫や技藝を教へ込む者も出來て來たが、尙普及はせぬので、特に都市にある工場が比較冷淡なる様であるから、彼等の間にも此事を鼓吹獎勵する方法を講せねばならぬのである。愛知縣幡豆郡の幡豆製糸場では、此點に重きを置いて居る結果、父兄は製糸場に働きにやるものとは思はないで、女子の道を習ひにやると云つて居るが、之れ獨り父兄や當人の幸のみでなく、當該製糸場の益する所も亦尠ならぬのである。又た長野縣小縣郡の依田社製糸場では、工場附屬の學校すらあるのであるが、本邦製糸場の中で一頭地を抜いで居るのは、決して偶然でないのを知らねばならぬのである。吾輩固より寡聞ではあるが、製糸場以外

の工場では、餘り斯る施設を聞かぬのであるから、工場法案を出して、就業時間を短縮するよりも、寧ろ斯る點に十分なる設備と工夫とを獎勵することが、更に大切なことと思ふのである。眞に町村の將來を顧慮する所では、舊正月や盆で工女や下女に出て行きし者が歸宅する頃に、特に女子の講習をやり、愛知縣渥美郡泉村を上げた婦徳の養成や家政上の注意や心得を知らしむることをやつて居るが、之等は誠に親切なる施設と云はねばならぬ。

之を要するに、凡百階級を通じての婦人少女の教育が今一層發達せねば我農家の發展も、我農村の隆興も見ることが出來ないのである。既に母たり、妻君たる人は、更に學校生活は出來ないのだから、彼等には簡易にして適切なる、智識技能を授けて時勢に後れざらしむると同時に、夫を助けて農家の經營や子女の教育に遺漏なきを期し。又た時に母たり妻たり、或は獨身生活で自營の道を計らんとする者や、人のために勤務する者の爲めには出來得る限り、秩序的の學校教育を受けしむるか、然らざれば簡易にして適切なる、實際的にして實行し易き、教授訓練をなすことが必要である。而して其の何れを問はず、婦徳の養成に重き

を置き、良妻たり賢母たる志操に堅き信念を得せしめて、家業と家政及び育兒に貢献する所あらしむるが肝要のことである。特に近代文明の悪影響は、婦人少女を驅つて益虚榮に誘惑するので、知らず／＼婦道を踐み損ひて墮落の淵に沈み。家業に精勵努力することや講學研究するよりも、都會に職を求めたり、他業の人に婚姻せんことを欲したりして、後悔の種子を蒔き。世帯下手なる爲めに醜陋の生活を改むることが出来ず、物の始末が出来ない爲めに亂雑な暮しをせねばならぬことになりて、畢竟人から輕侮され、自から嘲笑の的となる弊が甚だしくなるのだから、餘程の奮發を以て之に臨まざる限りは、一朝一夕にして其効を顯はすに至るまいと思ふのである。故に農村教育の方針として、新に婦人と少女に對する教育上の計畫を立て、之を實行すべき施設と人の努力とに工夫されねばならぬのである。今や婦人の地位を向上し、婦人の權利を尊重し、女子の能力を高く認め、女子の職業を多くする運動は、確に世界を通じて否定すべからざる事實であつて、我國に於ても最近之が波動を認むるのであるが、吾輩は將に此の趨勢を認識して、獨り我農村の婦人と女子を桃源場裏に置いてはならぬの

ある。此點よりしても、後れて居る我農村の婦人と少女教育に向つては一日も早く農村的の教育方針が立ち、農村婦人の面目を得せしめねばならぬ譯である。

飛んだ事した學校へ入れて

一人むすめを棒にふる

とは、今の高等女學校に娘を入れて後悔した父母の述懐である。現に或る田舎に建てられた女學校で、生徒の募集をなすに際し、此の學校の卒業證書があれば、筆筒長持の一つや二つの代りになると吹き立てた者である。然るに愈卒業した曉に於て、あの女學校の卒業生ならば、筆筒長持が二棹や三棹多くても困ると敬遠されて、父母が大に閉口していると云ふ、虚言見た様な話が現にある。農民のためを思はずして、徒に教育上の設備をなして功名を誇らんとする當局者や、學校を飯食ひ種子にする教育家の教育振りや、漫然として子女を教育せんとする父兄の心配の結果は、先づ斯くなるが當然であらう。之れ農村に於ける高等女學校の整理問題が唱へられ、内容の改善が叫ばれ、農村女子の教育に等しく方針が立たねばならぬと云ふ所以である。

#### 四、教育の方針

男女を論せず、相續人と次三男とを分たず、國家的人物と地方的人物とに關せず、如何なる「人」に教育すべきやが明瞭にならざる限り、教育の方針は曖昧なるを免れぬのである。實際今の教育は、如何なる人に教育すべきか、分明になつて居らぬ爲めに、始末に困る様な人が出來たり、處置するに苦しむ様な人が出來たりするのみならず、益其現象が激しくなつて來る様である。故に人生教育するに於ては、何れの教育にも統一されたる方針が認められねばならぬのである。

吾輩は、何時の時代でも、何處に於ても、我國家の歴史と特徴とから見て、忠良にして健全なる向上的の國民

を養成することが、我教育の方針でなければなるまいと思ふ。即ち國家に對して、犠牲的の氣分があり、國家に對しての義務心があつて、且つ身心の健全なる、而も向上の眞諦を得る所の國民を造ることが、我教育の方針でなければならぬと信ずるのである。特に國民の多數を占め、國民の價值を作るに至大の關係ある

我が農民教育に於ては、飽くまでも、此方針に基きたる教育が出來ねばならぬのである。言ふまでもなく、性の異なるに従ひ、境遇の違ふに伴ひ、地位を別にすると準じて、其の行爲に差あり、努力の方面を異にすべきは勿論なるも、此の方針によりたる教育を受くべきは平等でなければならぬのである。

今人、或は世界的の國民を造るべきが、我教育の方針でなければならぬと云ふもあるが、既に國家なるものゝ存立する以上は、其國家に適當する人を造ることが、即ち世界的ではあるまいかと思ふ。人の思想に境界なく、人の理想に障壁が設けられない以上は、世界的に思想し、世界的に理想を立てるは、敢て防げなきも、而も國家てふ觀念は忘るべからざるである。況んや宏遠なる理想があり、偉大なる生命があり、崇高なる教育勅語を有する我國民の教育に於ては、特に然矣とすべきである。彼の平和論者が戦争を忌みて、何事も世界的に融和せんと希ふにつけても、凡百國家が均等に發達せねば、望むて得べからざることである。而も國家の均等なる發達は、各國家が自己を進歩せしむべく、勤めざる限りは出來ない相談である。されば我國家には、我國家に適當する教育方針を立て、我國



家に相當する人物を養成せねばならぬ譯である。それと同様に、我教育の方針が、忠良にして健全なる向上的の國民を養成するにありとしても、農村には農村的のやり方が出來ねばならず、農民には農民的のやり方が出來ねばならぬのである。即ち市民には市民相應のやり方をなし、市民の進歩發達と相待ちて、農民の向上發展が出來れば、そこに我國民の教育的効果が發揮するのである。又た男女によりて其やり方は同一ならざるも、男の進歩と、女の發達と相伴ふ所に、國民の向上が認めらるゝのである。故にやり方は人の種類によつて異なるべきも、方針は確固として動かすべからざるものが存せねばならぬのである。加之、學校教育に於ても、家庭教育に於ても、亦た社會教育に於ても、同一の方針を以て盡力されねばならぬのである。

今の世は、動もすれば家庭教育や、社會教育と學校教育とが方針を異にする弊がある。學校では社會の爲めに盡せと教ゆるが、家庭では家のために計れと奨めるもある。學校では飽くまでも正直でやれと教ゆるが、社會は正直で渡れぬと云ふ考を起させる場合もある。斯くの如くして、何んぞ眞の人物が出來得べ

きぞや。故に何處までも、凡百教育に於ては、根底に於て大方針が一致せねばならぬのである。

又今の世は、職業教育と普通教育との間に、何等か異りたる方針を立てんとする者がある。職業教育と云へば、何んだか利己的の者の様に考ふる者がある。勿論職業の中には、實業の如き營利を目的とする者があるに相違はないが、而も等しく我帝國の人民であり、皇國の臣民である以上は、其なす所に差があつても、國民たるの資格と抱負に於て異なる筈がない譯である。

之を要するに、如何に職業の上に相違があつても、如何なる身分境遇に差があつても、男女各其なす所に雲泥の別があつても、我國民たる以上は、何時でも忠良にして健全なる向上的國民

とならねばならず、又なさねばならぬのが、我が教育の方針であり、方針とすべきであつて、それが我農村教育の主張であり、本領でなければならぬのである。

## 五、教育是

元來町村の自治が現實に發達する所に於ては、所謂町村是が確立して居る筈のものである。町是なり、村是が確立せざる所に於ける事業は、或は朝令暮改の弊に陥り、或は其日暮らしの誹を受くべきであつて、眞の自治的行爲と見る事が出来ない筈である。故に國民教育の大方針が明かであつても、町村の事情を異にし、其歴史が違ふに従ふて、其町村教育の内容に差を生ずるは當然である。されば農村教育の方針は、町村是の定むる所に従ひ、其示す所によつて、大同小異あるべきである。即ち其町村に於ける良慣習や、美俗があるならば、特にそれを助長することが出来ねばならず、惡風醜俗があつて、矯正を要する痛切なる者があらば、之を根治するに勉めねばならぬのである。たとへば、禮讓を重んずる所に於ては、何時までも此美風は存重せねばならず、若しそれ勞働を忌むの嫌ある所ならば、何處までも勤勞を鼓吹して、所謂勤勞の農村民となさねばならぬのである。世に例の多き喧嘩に一致する風習のある所に於ては、之を改良して農事に協力せしむる様に導き、政争の激甚なる所に於ては、之を方向變換せしめて自治行政に熱心せしむる様に教育が出来ねばならぬ。又た一般に時間に觀念が

なく、其勵行が出来ぬとあらば、之を嚴守する様に導かねばならず、又た普通に經濟的思慮が乏しと見れば、其思想を高めて何事も經濟的に行動する町村民に教育することが出来ねばならぬのである。故に町村是の調査が、五年目なり、十年目に繰り返えされて、町村是が新になり、之によつて當該町村の教育是なるものが出来ねば、如何に町村民を造くるべきやが分明ならず、如何に教育すべきか、明瞭とならぬ勘定である。則ち其町村に適切なる教育方針が立つて來ない譯である。

一例を上ぐれば、今の世所に依つては模範農家の表彰を村是としてなしつゝある所がある。此の場合若し中等農民を作ることが方針の町村ならば、主としてそれを中等農家に求むるであらう。或は町村の相續者を善良ならしむるを以て、其町村教育の方針となさば、表彰は青年會や少女會に限ることとなすであらう。或は小作人教育に重きを置かねばならぬ所ならば、小作人の表彰を慎重にするであらう。夫れ表彰は一の事業に過ぎざるも、町村の事情によりて之をなすに輕重の差あるべきは當然のことである。之れ町村に教育是がなけねばな

らず、教育是を確立せねばならぬと云ふ所以である。然るに多くの農村に於て、今之を欠ぐは通弊である。農村教育の基徴振はず、農民教育の効果顯著ならざるも、亦た故ある哉と云はねばならぬ。されば一日も早く着手すべきは、町村是の調査であり、町村現勢の研究であり、町村是の確立であり、町村教育是の決定である。然らざれば、農村教育の要項も、遂に正鵠を得ることが出来なくなるのである。

## 第七章 農村的教育訓練の要項

農村民は等しく國民であれば、一般國民的の教育訓練が出来れば可なりとすべきに似たるも、吾輩は其の境遇の異なると職業の違ふ點よりして、出来べき限り農村民には農村的の教育訓練が必要なりとするのである。之は單に農民の面目を發揮し、農民の價値を高め、農民の幸福を増加する爲めのみではなくて、眞に國民の向上と福利を得るの目的からである。今の如く漫然たる一般國民的の教育訓練である以上は、境遇に處する覺悟や職業に對する守操が出来なくて、都會の人か、農村の人か、所謂市民と農民の間の子然たる國民が多くなり、役人もつかず、實業家ともつかぬ兩性的の人間ばかり殖ゆることになるであらう。固より日本國民として、又大和民族としての自覺や、忠良なる臣民たり、神ながらの國民たる自負や、向上發展する國民的思想に於ては、敢て市民たり、農民たるとに於て相違あるべき筈はないのであるが、其自覺の下に各自の能力を發揮し、其自負の下に各自の誠意を發露し、其思想を以て進歩發達するには、各々たどる道

に相違あり、其往くべき路に左右あるべきが當然ではあるまいか。之れ古來、人に職分を辨へしめ、分度を知らしめ、自己を悟らしむる所以であつて、今も文明國に於て、其事がよく行はれ、其分業の意義が明瞭になつて居つて、迷ふ所なく、惑ふ所なく、各其職分に安んずる所以ではあるまいか。然るに、我に於て、多數國民が迷惑の巷に彷徨し、青春の男女が疑惑の淵に煩悶し、此處彼處に決定の地位を得ざるもの多きは、全く多數國民に境遇と職分に應じたる教育訓練の出來ざる結果、出來ざりし成績に外ならずと思ふのである。之れ特に我農村民に向つては、農村的教育訓練の必要を認め、之を鼓吹し、之を論議せんとする所以である。

#### 根性と氣質

農村的教育訓練には、多くの推重すべき要目はあるが、吾輩は農村の現状より、又た農民の立場より見て、之を左の數項に分つて論せんと思ふが、今日の場合、出來ねばならぬ農民の面目は、農民氣質の發露であつて、即ち百性根性の退治である。元來氣質と根性は、よく似て居るが、所謂差ふに千里を以てすべきであつて、其影響する所に於ては、甚だしき善惡、美醜の差を生ずるものである。不幸にし

て、今日は根性が跳梁する世の中であつて、氣質が衰頹するのである。即ち役人氣質ある者よりも、役人根性なるが多く、書生氣質なるよりも、書生根性なるが多く、商人氣質なるよりも、商買人根性が瀰漫し、百姓氣質は抜けて、益百姓根性となり、奉公人氣質は衰へて、奉公人根性に化するのである。之れ教育の方法や訓練の形式が進みて、人らしき人が出來ず、人格の尊重すべきを見る能はず、人氣が悪くなり、氣質が賤しくなり、働く目的が下劣になる所以であつて、全く我教育の方針が立たず、我教育家に教育の眞諦を得たる者なく、教育を受くる者に指導訓練の目的が曖昧になつて、るに基因するのである。而も斯くの如きは、獨り農民の教育に於てのみ論ずべきものではなく、一般我教育界に於て講究され、工夫されべき問題であるから、今此處に評論する餘裕を持たないのである。然し之は農民の面目を發揮するに於て、重要な道德であり、農民の立場を明瞭にする上に於て、大切な特徴であり、農民の光榮を有する所以であるから、吾輩は各要項を通じて、此氣分を説かうと思ふので、此處に氣質と根性の注意を喚起して置くのである。

### 甲、體育と其訓練

農民は本來、農業を以て立つものであるから、所謂新鮮なる空氣、透明なる光線、開放されたる天地の裡に働くものであるが特徴なれば、凡百國民の中で尤も健康であるのは當然のことである。然し健康なるもの必ずしも身體の發育が完全なるものにあらず、又た息災なるもの必ずしも四肢の鈞合がよく出來て居るものにもあらず、又た長命なるもの必ずしも無病なるものにもあらずである。農民といへば何處となく、不鈞合の所があつて醜く、何んとなく不格好の所があつて笑止な形に見ゆるが多く、皮膚病や眼病が小兒に多くて汚く見るとあるが、それは全く之が爲めである。故に農業の特性が人を健康にすと云ふと雖も、やはり體育が施されねばならず、其の訓練を経なければ、完全なる人となり、整備したる健康體を得ることは出來ないのである。今主なる常時の注意事項を列記して見るならば、

- 一、 毎朝必ず顔洗、口漱ぎ之は寢前になすは更に衛生的なり、灑掃、布席をなさしむべきこと。

小學に所謂雞鳴、咸盥漱、櫛縱、拂髦、總角とあり、又た歛枕、簟灑掃室堂及庭、布席とあるは、唯禮に従ひ、父母に事ふる道のみではないのである。

- 一、 外より歸り、農事を了りたる後、特に顔洗、手足を清潔ならしむべきこと。
- 一、 沐浴は怠るまじきこと。
- 一、 洗濯は補綴と共に怠るまじきこと。
- 一、 寢具は時々日光に晒すべきこと。
- 一、 肥料の配分に配慮すると同時に、飲食物の調理と養分の配合に配意せしむること。
- 一、 酒と煙草は成るべく飲まぬ癖をつけること。
- 一、 間食をなさぬこと。
- 一、 朝寢と夜更しの癖をつけぬこと。
- 一、 不自然なる、不攝生なる娛樂をせぬこと。
- 一、 情慾を逞ふせぬこと。
- 一、 暴飲暴食はせぬこと。

- 一、疾病に罹り、負傷したる場合には相當の手當を怠らぬこと。
- 一、適當の運動は怠らぬこと。
- 一、丈夫に任かせて無理をせぬこと。
- 一、規律正しくすること。
- 一、無情に陥らぬこと。

位が出来れば結構であると思ふ。元來農家は香氣であるが特徴の一であるから、面倒臭ひことや、手數のかゝることは好まぬのであるが、健康を損じ、身體の發育を完全にする能はざるは、皆之がためであるを知つて、何處までも無情ならざる世話が屆き、無情ならざる者とならねば、體育に於て何んの得る所もないのである。今日の學校では、何れも時間をきめて、運動や體操をやらせて居るが、顔洗はぬ生徒が居つたり、手足の垢が除けない様では、決して體育の目的は達するところが出来ないのである。本來百姓の子弟は、新鮮なる空氣と透明なる光線の内で、土に混じて居る者で、小兒なれば棄て置いて、遊戯に耽ける者だから、特に學校で運動や遊戯をやらせぬてもよいのである。それをするのは、彼等に規律的

の癖をつけ、完全なる四肢の運動をなさしむるが目的であるから、面倒臭くとも、手數がかゝることでも、彼等の家庭に於てなされねばならぬことに注意を加へて、よい習慣をつけることが出来ねば體育上の訓練は出来ないのである。故に顔の汚れた者や、手足に垢のある生徒を、井戸側に出して洗ふてやり、洗はしむるか如きは、體操をやると同様の効果があるのである(之に對する設備が大切である)。女の兒なれば頭の世話をなすもよし、櫛を入れてやるもよいのである。若し夫れ衣服の垢つきたるがあり、身體に一種の嗅氣を有する者があれば、それ相當の注意をしてやるがよいのである(之にも相當の設備が必要である)。

學校を了へたる者が俄に適當の運動を止めたり、多忙季の反動に、閑散季の道樂逸居は、絶對に禁止すべきである。特に青年少女になれば、色々の慾が猛烈に發生するのであるから、之がため後悔せぬ用意が特に大切である。就中恐るべきは、飲食慾と色慾であつて、青年の健康を害するは、大抵之に基因するのである。それに近來の風潮は、青年少女を驅つて虚榮に憧らしむる結果、柔弱に陥り、怯惰に流れ、見ても情ない體裁をなすに至つて、彼等の健康を臺なしにする馬鹿者

が多くなるのであるから、此點に向つては、益青少年少女の自覺を促がすと同時に、指導者の嚴密なる注意が大切である。

元來青少年少女時代は、抵抗力の強ひもので、且つ回復力の早いものである。故に少々無理をしても、大した害はないものであるから、彼等が心身の健康を修養せんには、少々づゝ無理をするがよいのである。それも暴飲暴食や、過度の道樂を意味するのではない。所謂堪苦鍛鍊の修業に於て、奮闘的の勞働に於て、云ふのである。即ち農繁の時に於ては、人一倍の奮勵努力を敢てし、農閑の時には、講學に腦漿を搾るもよく、長途の視察旅行をするもよく、又た登山をするもよく、武術の寒稽古や、寒泳ぎをするもよく、又た時に斷食の經驗をするもよく、要は、不自由、不足の生活に身を慣して、何事か身體を勞する仕事をなすことが肝要である。さすれば一ケ年を通じて、彼等の身體には弛みが生せず、活動が間斷なく出来る様になるから、必ずや頑健な身體が出来るに相違ないのである。今日は昔と異なり、出づれば電車汽車あり、出づるに自轉車ありの時代である。又た當年見ることとも出来ず、接することも出来ざりし便利な者が多くあり、具合のよき

者があり、綺麗な者もあれば、面白いものもあるのだから、餘程修養に熱心ならざる限り、懦弱の弊に陥るは山を下るよりも容易である。兎に角今日の青年は、父兄の如く勞働に堪へ得ず、困難に處して泰然たる能はず、不自由な生活に平氣なる能はずと云ふは、輿論である以上、彼等の身體が弱くなつて來たのは事實であるまいか。之れ健康なる精神を生む能はずして、益意氣地なくなり、正氣と根氣が認むる能はずなり行く原因である。此の意味に於て、力持や、相撲や、武道の競技が當年の如く盛に普及し、マラソン競走や、長距離の遠足や、射的や登山の如き壯舉が到處に勃興し、朝學や朝仕事が眞摯に實行され、且つ何事でも、よき事の繼續が出来る様、根氣の養成を重んずる氣風の盛ならんことを希望して止まぬのである。

戸主となり、婦人となりては、更に一層の間斷なき勞働によつて身を慣らし、寸分の弛みが生せぬ心掛が自身に出来ねばならぬのみならず、子女弟妹に對して相應の仕事(灑掃、布席)は勿論、草刈や養雞の如き勞作を、時に應じ、所に應じてなさしめ、一年を通じて適當の運動をなさしむべき氣轉と監督が出来ねばならぬ。

今の若い者は働かぬ、學問すれば寝ることばかり上手になると云ふ小言は、一面若者の横着もある、父兄の氣轉と監督の權威がないのにも因るのである。情けないことには、今日多くの父兄や母姉は、自ら好模範を示すことが出来ないうて、返つて横着や安逸を欲する惡模範を示し、手間を厭ひ、面倒を忌む手本を示すのだから困ることが出来るのである。即ち運動や遊戯は、小兒や青年少女のなすことであつて、年輩者のなすことにあらずと思へるが多く、爲めに閑な時には徒に飲食に耽るか、集會や寄合に事よせて無駄話に消光したり、さもなくばなすことなく呆然して日を暮す者が多いのである。之を泰西人の衛生的訓練になれ、暇さへあれば國民的運動をなす者に比すれば、我邦農民の不恰好なる身體は偶然に出來た者にあらざるを知ることが出来るのである。それに子女の病氣や年寄の罹病を見ても、金のかゝるを恐れて之を棄て置く惡い癖が、農村には随分多いのであるから、平素の健全なるに似ず、脆く往生する者が澤山出來るのである。之れ衛生的智識のないのに基因すと雖も、之に處する手段方法に何等の訓練を経て居らぬのが、大なる原因をなすのである。

特に之より先は、二三男子の外國出稼、其家庭の海外移民は、多々益頻繁ならざるを得ぬのであるから、之に適する體育と訓練が出來ねばならぬのである。之に對して、寒國移民を目的とする者は、従前我國の月並的寒稽古や、好適の訓練法ならんも、之より正に多かるべき南洋諸島への出稼、南米地方への移民は、其訓練に於て寧ろ暑中の熱氣に對する、修業鍛鍊を重んずべきである、されば現在英國に於る少年斥候團がやり居るテント生活の如き、野外宿泊の如き(野宿)、又各農學校に採用してゐるが如き、夏期の農場實習の如き、又た當年若い衆の試みたる夏綿入れの修業は、夏期綿入を着て暑いと云はぬ業、益獎勵鼓吹さるべきか、我國の體育的訓練の方法ではあるまいか。吾輩は此の點よりして、青壯年の人が夏期の田仕事を避けて、養蠶の如き家内勞働に服せんとする傾向を先づ以て矯正せねばならぬとするのである。而も不便を便利なりとし、不自由を自由に入るの道程なりと心得、艱難を自己玉成の機會なりと觀念するの信念を養成する上に於て、實生活を其の境遇に置き、身體の鍛鍊をなすは、寒國に往く者に於ても、暖國に往く者に於ても、等しく必要なりと悟らしめることの大切なるを勸奨するの



である。從來我國の移民が到處に往きて成功せず、殖民の歴史が盡く失敗の歴史なるは、全く國民の健康が彼に適せず、之れに處する丈の訓練が行届き居らざるにも基因すと云ふを思へば、正に大に此點に留意せねばならぬのである。

#### 乙、智育と其訓練

我國の教育に於て、比較的進歩したる者は智育であらう。而して世の進歩につれ、事物の發達につれて、智的の訓練も亦遺憾なきを得るのである。然し我國の教育は、徒に泰西の輸入を尊重して、我國固有の長所を顧みず、我國の實際に適應すべく考へられざりし結果、實用的になつて居らぬことが多いのである。之を譬へば西洋文字が讀めても漢字が十分讀めなかつたり、横文字が書いても、手紙が自由に書けなかつたり、ペンや鉛筆を使ふことが出来ても、筆もつことが拙なかつたり、洋算が出来ても、算盤を用ふることが出来なかつたり、定理を知つて居つても、胸算が出来なかつたりしては、今日の實用にはならぬことが多いのである。故に總體に於て、今少し我國の智育は實用的になり、實際的の訓練が出来ねばならぬのである。此點よりして、父兄が子女に日記をつけさせて見るもよ

く、手紙の代筆をさせて見るもよく、帳簿に記入をなさしむるもよく、算盤をはじかせるもよく、又た新聞をよませ、手紙をよませるもよいのであつて、當初の間に合はねば氣に入らぬ、疝癪にさはることは我慢してやらねばならぬのである。それが數重なり、慣れて來ることによつて、學校教育は實際家庭の實用向になるのである。女子なれば、飯炊きや灑掃、雑巾がけは勿論のこと、下女が居つても客の取次や茶菓子の運びもやらせねばならず、洗濯や流仕事や、裁縫補綴は何事もやらせねばならぬのである。特に日本人の弊として使ふことを知つて、始末を付けることが下手であつて、衣服のたゞみ方や袴の折り方を知らぬものが多いのであるから、斯る點には家庭に於て特に注意せねばならぬものである。泥んや家業に關する智識技能は、何れの農家に於ても實際應用されべく、助手となし、手傳はしめねばならぬのに、それをさせずに置いて徒に働かぬと小言を列べるは、寧ろ父兄の技倆なきを示すものとせねばならぬのである。

左に常識として知らねばならぬ諸種の問題を掲げて、我農村に補習宜しきを得んことを希望しようと思ふ。勿論細目に渡れば際限はない、故に其大項を上

ぐるに止めるが、之は地方により輕重の差は免れぬのである。故に或は吾輩の掲げて必要とする者が、他に於て不必要なるもあらん、又吾輩の掲げざる以外の項目に於て大に知らしむる必要のあるもあらん、又其訓練の方法に於て更に優りたるもあらんが、斯ることは人の見る所によつて異なるものなれば、吾輩は吾輩の見たる所に於て所説するのであるから、補足と教示は喜んで受くるものである。更に其訓練の方法を詳説する能はざるは、吾輩の遺憾とする所であるが、それは紙數に限りあり、又其當局者に工夫を求むる上に於て、或は委細を盡くさるゝのが、返て親切なるべきを思ふからでもあるは、寛容を請ふ所である。

#### 1. 政治的智育と訓練

何れの學校に於ても、又社會的教育施設に於ても、教育されねばならぬこととして教育を缺き居るは、政治的の方面である。『でも』政治家や羽織「ゴロ」の類は、勿論國家に禍をなし、地方に無上の累を及ぼすものであるが、それが存在は一般國民に政治教育を施さざるの罪である。又煩はしき政治上の運動が行はれ、下らぬ政治的競争があつて、地方民政に迷惑を及ぼすも亦政治的訓練がないからである。

今日の學校教育では法科大學ならいざ知らず、何れの學校に於ても政治を談ずるを許さず、政治を教ゆることが科目に乗つて居らぬのである。故に教育家と云へば政治を知らぬが本能でありと思ひ、政治に關係せぬを面目として居る様である。勿論教育家が政治に奔走し、學生生徒が政治運動をなすは、面白からぬことであるから、何處までも警戒せねばならぬのであるが、政治の事を知り、政治の方則を知り、政治の術を知るに、何の悪いことがあらうか。立憲國となり、法治國となりたる我國に於て、斯く政治を教育より疎外するのは、非文明的思想であり、非立憲的の行動であると云はれても致方があるまいと思ふ。今日の中學程度學校では、法制と云ふ課目はあるが、物にはなつて居らぬのである。故に學校でやる暇がないならば、せめて青年會や戸主會に向つて、此の智識が授けられねばならぬのである。町村制實施されて三十年に垂んとし、代議政治が行はれて年久しきに及べる今日、尙民政の興隆せず、公論と衆議に服する能はず、又た選舉の神聖に行はれざるは、全く國民に此の智識が缺けて居るからである。特に怪むべきは、徴兵と納税の義務は、最も尊重せねばならぬと教へられながら、徴兵

の忌避が盛になつたり、納税の種類や性質が分つて居らなかつたり。町村行政の機關や事務の性質が分らなかつたり。公民でありながら、公民の資格や、公民の責務を知らなかつたりして居るは、滔々乎として皆然りと云つてもよからうと思ふ。故に權利義務のはき違ひをなしたり、官民の間に秩序を保つことが出来なかつたりして、始末に困ることの簇出するのは寧ろ當然とすべきである。況んや選舉の公正が保たれずして、優良町村に選舉違犯者が出たり、醇厚の地方に於て選舉に不正事件が生ずるのは、全く罪は知らざるに座するものと謂はねばならぬのである。之れ、一面、舊思想に捕はれて、當局者と、時勢に没交渉なる教育家の迂濶を示すものではあるまいか。近頃米國の「カッセル」公民讀本に於いて、各種の公民讀本と云ふ様なものが出来て来たが、未だ一般に使用されては居らぬ。又た自治行政に關する著書も出来て居るが、實際に利用されるまでにはなつて居らぬらしいのである。之れ一に當局者の氣がきかぬのと、教育家の慮見が狭いからである。斯くの如くして、自治行政の振興や、立憲政治の隆盛を待つは、尙黄河の澄むを待つと同様ではあるまいか。故に吾輩は、農村的教育に

於て、少くも左の諸點に於ける教育訓練が出来ねばならぬと思ふのである。

- 一、立憲政治の意義
- 二、町村の現勢概念
- 三、町村制の概要
- 四、自治事務の概要
- 五、行政區劃及び其の町村事務
- 六、行政機關の系統と分任事務

は何處にも知らしめねばならぬものと思ふ。之が訓練の方法としては、

- 一、選舉の公正
- 一、納税義務の履行
- 一、町村是の調査或は現勢調査
- 一、行政機關及代議機關の眞摯なる活動
- 一、町村現勢、町村豫算、町村事業の周知

は是非出来さねばならぬことである。それには先覺者の指導、有力者の努力は

勿論、手段方法には必ず丁寧親切が盡くされねばならないのである。拙著農村自治の研究参照 事件によつて青年になさしむるもよく、物によつては戸主や公民になさしむるもよいが、尤も責務の大なるは町村當局者であつて、尤も氣がきかねばならぬは教育者である。民育の目的は茲處に存し、民育の成績は之によつて上り、民育の綱領は茲處に在るのだから、此方面に於ける智育と訓練は、凡百機會に於て、凡百町村に施されねばならぬのである。

## 2. 法律的智育と訓練

道徳的行動が出来、常識が發達して居れば、法律的の智識や訓練はいらないと云ふ人もあるが、そう行かぬのは法治國の特徴であらう。法律や規則がないならば、それでもすむであらう、勅令や縣令などがなければ、それでも差支はあるまいが、何事も規則すくめてあり、如何なる場合にも法律できめ、それで足らぬで勅令や縣令を出す我國では、一日も法律的智識がなければならぬのである。何事にも、呑氣であり、無情勝ちなる、我農民に於ては、之を知らぬでは、以外な過失をなし、思はぬ損害を招き、豫期せぬ違犯行為に陥らねばならぬことがあるものである。

る。故に少くも

### 一、憲法

### 二、民法

### 三、刑法

### 四、府縣令

### 五、町村條例及農業法規

の概要は教へねばならず、授けられねばならないのである。其他色々の辨へねばならぬ規則や命令も澤山あるが、それ等は町村當局者が扱かりなく、町村民に周知の方法を講ぜねばならぬ。又駐在警察官や司法官の助力も仰がねばならぬのである。故に教育家は自分に其の智識がなくとも、其智識に富める人を利用して自他の便宜を計る位の働が出来ねばならぬのである。現に優良町村に於ては、凡百機會を利用して、之が周知法を講じ、諸願届書の認め方や、期限等を誤まらしめざる用意を盡くして居るが、教育者の氣轉による所が多い様である。若しそれ文部省の規則ばかりに拘泥して、事足れりとするものあらば、そは法治

國の教育者たる資格がないと云はねばなるまい。勿論教育者は法律家ではない、法律を研究するが専務でもない、故に其詳細に通ぜざるは敢て咎むる所にあらずだが、此處に注意し、町村民に違犯者を生ぜしめざる位のこととは出来ねばならぬものである。さも無くば、産業組合があつても、組合の如何なる者たることも知らないと言ふ滑稽を演ずることがあり、農會の存在を知つて居つて、農會の組織を知らない様なことにもなるであらうと思ふ。従つて共同の精神を鼓吹するにしても、實際に疎いことにもなり、協同の事業を奨励しても、脚下に氣が付かぬことにもなるのである。されば倦み易き青年會の夜學や、補習教育に於て、時々斯る智識を授け、斯ることに慣れしむるは彼等をして飽かさらしむる方便ともなるのである。現に愛知縣八名郡舟着村では、女子の講習會に、民法中の親族篇や、婚姻に關する條項を説きて、大に聽衆の感興を得て居る事實がある。又青年をして登記所に行きて、登記事務に慣れしめて便宜を得て居る町村もある。故に法律上の智識を與へても、強ち權利義務のはき違ひをなさしむるものと思ふてはならぬのである。

### 3. 經濟的智育と訓練

貧弱で第一等國たる我國民は、一般に經濟的智育が缺けて居つて、且つ其訓練を経て居らぬ。就中農民は收支の帳簿を備ふる者なく、勘定を數字的に云ひ能ふ者多からず、儲けんとあせりて損する者多く、少しも具體的の經濟的智識と手段を有せぬが、普通であらう。實際彼等ほど骨折損をなすはなく、稼ぎ貧乏する者もなく、勘定餘つて錢足らずの嘆をなす者もなからうと思ふのである。故に農民の困窮に陥るは、其原因夥多ありと雖ども、其經濟的智識に缺除し、其の訓練を経ざることが尤も重なる原因をなすと云つてもよいのである。故に、差し當り、彼等を救濟せんには、此方面よりするが、近路であつて、而も有効である。されば農村を盛にし、農民を裕にせんには、此方面の智育と訓練が尤も大切である。それには少くも

#### 一、經濟の意義と要素

#### 一、今日の經濟組織及狀態

#### 一、需要供給の關係及物價高低の原因

一、家業經濟と家政經濟

一、町村の財政と經濟狀態

一、勤儉貯蓄の意義と目的

などは十分に心得させべきである。而も之が説明には、成るべく卑近に例を取り、實行し得べき實際的方面に就て注意と感得とを與へる事が出來ねばならぬ。餘所のことは異なりて、彼等の日々の行爲、刻々の行動が經濟的になつて來らざる限り、彼等は現實に救済されぬのであるから、廻はり遠い話や、六づヶ敷理論を授けても何の役にも立たないのである。(拙著農家の經濟を參考とせられたし)現に今日は、多くの經濟書もある、澤山農業經濟に關する著書もあれば、又た經濟雜誌もあるが、何等農民を益しては居らないのである。之れ農民に咀嚼の方なきによるは勿論であるが、眞に農民の事情に通じ、農民のために作つたものでないからではあるまいかと思ふ。今や農民の間には農業は儲からぬ、農業は引合はぬものであり、農業は危険なる者と解釋する者が多くなる傾向がある。又農民に借金を恐れぬ風潮が生じ、彼等の正直を擔保にして資金の融通をなすに氣が付かず、或は收穫せ

ぬに收穫を當にして財の使用をなす慣習が激しくなり、やけの氣味さへ見へかけて來たのである。(甚だしきは今尙視箱と算盤とを持たぬ農家すらある。)故に今日に於て彼等に經濟的智識を與へ、經濟的行爲をなさしめなうては、遂に救ふべからざる窮況になるであらう。否な現に彼等の多くは、此窮況に陥つて居るのである。されば斯る方法手段を盡くして以て、彼等に經濟的智識を授け、經濟的訓練をなし、經濟的行爲をなさしむるが、眞に刻下の急務である。それには

一、日誌及收支の記入をなさしむること

青年少女に向つて、之をなさしむるは敢て六つヶ敷ことではない、青年會や小女會には是非之をなさしめねばならぬ、加之高等科の生徒や補習學校の生徒、甲乙二種の實業學校生徒は勿論高等女學校や實科高等女學校等の生徒にも之をなさしめねばならぬ、簿記を實際に應用せしむることが大切である。

一、買入は兒童、青年、少女をして自らなさしむること

買入品の選擇に慣れしめ、買入品の實價を知らしめ、勘定や買入に熟せしむることが出來ればならぬ、之れには監督者の検査批評が正確に而も遺漏なく出來ねばならぬのである。

一、財の使用を巧みにせしむること

儲けることのみならず、財の使用に無頓着なるは、我國民の通弊である。故に財の使用を巧みならしむべく、凡百注意が肝要である。假之青年會員等に一圓の使用法を課題にし、其答案を集めて審査し尤も巧みなるものに其一圓を渡し其答を實行せしむるが如きことは趣味の内に使用に慣れしむることを得るのである。

### 一、物の始末をよくし、何物をも粗末にせぬ癖をつけること

食器は洗淨を怠らざらしめ、衣服は疊む様に教へ、農具は洗ふて取片付を忘れざらしむるの類、又た一寸の糸屑一尺の繩きれも粗末にせず、竈下の火、燃料の節約、風呂水の處置等一切の物を粗末にせぬ心掛けを養成するのである。

### 一、廢物の利用を怠らしめざることを

一坪の空地も利用する様に、一時の時間も空費せぬ様に、除草は積肥となすべく、掃き溜めも肥料になし、老人や小兒の腕をも相應役に立たせる勤考が大切である。夫には手間と暇の利用を、大切にすることを觀念を養ふべきである。

### 一、生産調査や經濟調査をなさしむること

一家のことは勿論、町村の之等の調査をなし、統計を作らしむることが大切である。青年會などには屈強な事業であり、町村も之がため大に便益を要するものである。或は手傳はしむるも可なりである。

### 一、協同の利益を知らしむること

青年會や少女會が青年少女に必要なものを協同購入するが如き、或は産業組合の慣習をなさしむべく、假設組合を設くるが如き、或は協同作業をなさしむるが如き、協同貯金をなさしむるが如き、其種類は澤山ある。散髪器を具へ付けて交互に散髪をなさしむるが如き、少女に結髪を交番になさしむるが如きことも、亦協同の利益を知らしむるに便益がある。協同風呂を設けて交番に風呂を燃き付くも面白きことである。戸主の連中には是非組合の經營をなさしめねばならぬのは勿論である。

### 一、取引に熟せしむること

取引の方法、取引の關係、取引先きの選擇等を辨へしむるが大切である。

### 一、經濟行爲の實習をなさしむること

試作田なり、競作田なり、一坪農業なり、或は植林でも、養雞の如きことでも、何んてよいか、其の收支計算を明確になさしめ損益を明かならしむるが如きことは青年會等には是非やらせねばならぬことである。記帳、豫算、決算、勘定のことを悟らしむるに至極の方法である。少女會などには料理の實習をなさしめ、兼れて原料の買入れ、原料の案配を數字的に計算せしめば、等しく經濟的實習をなさしむることが出来る。

### 一、經濟的見學をなさしむること

町村には經濟に上手な人があるものである、其等の人に就いて、整理、利用、雇用の見學をなさしめ、其人より各種の方面に就いて、注意を聞かすしめ、尙出來得るならば、監督者の講評をなすことが大切である、又た其等の人の勤勉努力の有様を實際に悟らしむることが出來ればならぬ、

### 一、經濟問題を課すること

此處に斯くく土地がある、如何に利用すべきであるか、此處に斯くく金の借に苦しめる人がある、其人の土地や財産は斯くくである、如何にせば借金の整理をなし得るや、此處に斯くく収入があつて貯蓄の必要がある、如何なる處置をなすのが尤も適當なるや、此處に耕地が狭少で而も開墾の餘地がない、如何にせば可なりや、など色々の問題を課して想を練り、思を凝し、經濟的研究をなさしむるのである。

如斯色々の機會を利用し、色々の經濟問題を捕へ、各種の人に相應したる經濟的訓練をすることが出事ねばならぬ。加之唯だ生産の増收や、消費と謂つても金の使ひ方ばかり見て居つてはだめてあつて、假之、燃料の節約を教へるには、先づ竈の改良からやつてやる心得がなければならぬのである。而も一文吝みの

百知らずと云ふ弊は、農家に免れぬ通弊であるから、此點に於ては常に周到なる注意と常例を示しての話が出來、其事が徹底せねば勞して効がないものである。  
(經濟方面のことは拙著農家の經濟に委細を盡くせり参照ありたい)

### 4. 衛生的智育と訓練

體育に遺憾なきを得、國民の健康を増進するには、衛生的智育と衛生的設備と、其訓練が発達せねばならぬのは云ふまでもないことである。然るに農民は其職業と其境遇が健康に適すると云ふのみで、一般に衛生的智育に浴せず、又た農村醫者が行届かず、産婆すら居らぬ所がある。故に往々にして惡疾が傳染して一村全滅に類する悲惨を見ることがあり、天の不幸が屢てあり、死産の統計が多い事實を見るのである。故に農民に今少し衛生的智育と訓練が施されざる限り、國民の健康を増進し、強健なる兵士をも得ることが出來ぬのみならず、農業に十分なる勞力をすら望むことが出來ないのである。されば凡百機會に於て

### 一、衛生とは如何

一、流行病及び傳染病又は風土病に對する豫防法其他必要なる注意すべき



點

一、衣食住に對する衛生的思想の注入

一、青春期に於ける變化に對する心得

一、救急療法

一、酒煙草及び間食其他に對し不攝生の恐るべき所以

其他注意すべき衛生上の事項は、之を詳知せしむることが出来ねばならぬ。今や何れの町村に於ても學校醫があり、又た衛生會も出來てるが、多くは消極的であつて、農民に衛生上の智識を賦與し、其訓諫をなさしむる様に活動はして居らぬ。せめては通俗講話會などを利用して、醫師は勿論、心得ある人の其事に勉むることが出来ねばならぬ。且つ之が訓諫をなすには

一、年内定期の掃除清潔法を勵行すること

大抵の町村にやつて居るが、形式になつて居る所もある、床下から下水の整理、疊や吳座の清潔法等を丁寧ならしむるのである、知らず／＼の裡に衛生上の注意が出来る様になる。

一、毎朝の掃除布拭を獎勵すること

仕事の都合で出来ぬと云ふもあるが、分業の理を應用し、又た仕事の順序を考へてやれば、出来ぬことはない、子供のいる家庭でも出来る、運動にもなつて至極よいのである、學校生徒には是非やらせるがよい。

一、洗濯洗淨の獎勵をなすこと

泰西諸國の如く町村に於て、又た家庭に於て、特に洗濯日を設くるも一方法である、農業に従事する者は汗や泥に汚れるが當然なれば、衣服類の洗濯は特に大切である、又た食器の後始末が悪い、是非共洗ふて方付ける癖をつけねばならぬ、農具を洗ふて食器を洗はぬ様では恥辱である。

一、塵埃棄て所を設くること

彼處此處に塵埃を棄つるは不潔になる始である、必ず堆積場に入れるか、或は適當の場に棄場所を作るか、或は木の根に埋めるか、塵埃の散亂せぬ様下水の放流をせぬ様にすることが肝要である。

一、暴飲暴食の弊を絶つべきこと

健康を恃むで之をなすは農民の弊であり、之をなすは農民の娛樂であるとして居るが、之は間違つて居る、之が爲め祭禮が傳染病を發生したり、葬式に不體裁を演じたり、婚禮席で無禮な振舞をしたり、或は家庭の平和すら破ることも出來て

來る、寧ろ家庭の食事に注意して御馳走が食へる工夫をするが賢いのである、飲食に對して下劣な根性を顯はすは農民の大なる恥辱である、

### 一、抵抗力の養成をなすこと

病氣にかゝらぬ體質を作らしむることである、寒暑を恐れず、働くが如き、漫りに防寒具を使用せぬが如き、避暑的行動をなさぬが如きことであつて、青年少女に於て、特に必要がある襟巻の如き、マントの如き、自轉車の如きは此意味に於ても絶対に禁止すべきである。

### 二、労働を鼓吹すること

労働を間断なくなさしむるは、單に衛生的に必要なのみならず、經濟的にも必要である、特に青年少女に對しては少し過激と思ふ位にやつて鍛鍊が出来るのである、今の世は兎角労働忌避をなす傾向があつて、意氣消沈、體力衰弱し、神經衰弱などにかゝるものがあるから、飽くまでも労働は鼓吹すべきである、小學校でも同様労働をなさしめればならぬ、それには教師の労働が大事である。

### 一、野宿野營の練習をなすこと

青年に特に必要である、二三人の連で、登山をなし、觀察旅行をなす場合に、神社の拜殿に宿泊したり、木の下陰に一夜を明かす練習は心膽を練る上からも、健全なる身體をつくる上からも大切である、昔の若衆に此れが盛であつて、今日少しも

流行せぬのは惜しむべきことである、要するに不便不自由恐怖に對する修業をなすことである、若し天幕の用意が出来野外で四五日位の自炊生活が出来れば一層効果が多からうと思ふ、山間の地に於て植樹の際之を試むるが如きは面白いことである。

### 一、正視、閉口、直行の癖を養ふこと

正しく視ること、口を閉づること、直立の姿で歩行するとは間接に衛生をよくするものである、眼が落ちつかず、口が開いて居り、腰をかゝめて歩むは不恰好になる初めである、何處までも此點は凡百農民の階級に實行せしむべきである、青年會や少女會には必執の事項とせねばならぬことである。

之を要するに不潔に慣るゝことなく、不衛生に陥ることなく、無精に流るゝことなく、無頓着の癖がつかぬ様、不規律を好む風に染まぬ様になし、飽くまでも下劣な慾情に攻服されぬ心掛と工夫が大切である。一面にて於ては衛生的の設備をなし、其設備の利用を巧みになすことが出来ねばならぬ。即ち町法に於て病院の設置を計るが如き、看護婦や産婆の養成を成すが如き、又た衛生會の活動をなさしむるが如き、救急療法の實習を青年會、少女會に試むる等、衛生的公共事業の進歩發達を期せねばならぬのである。

##### 5. 移民的智育と訓練

土地の狭きに益人の多からんとする我農村、海外に新なる經營の國土を領有したる我國家、又た二三男の所分に配慮すべき我農民は、是非其移民的智育と訓練が施されねばならぬ。佛のバステアが謂つてゐる如く、十萬の移民を出すは十萬の武裝せる兵士を出す者であると言ふ、侵略の意味が含まれぬても、又た獨逸のヒスマークの謂つた如く、佛はコロニー(領地)あつてコロニスト(殖民)を有せず、獨乙はコロニストが居つてコロニーがなく、英國のみにコロニーがありコロニストが居るとの、慷慨的口調でなくとも、我國の現状は、何處から考へても今少し國民に移民思想が發達せねばならず、殖民的知識が進むで來ねばならず、之が訓練を経ねばならぬのである。元來我國民には海外雄飛の精神は確にあるのであつて、随分遠きに出稼をなすものもあるが、然し遠近に關らず、其成績の上らず、多く失敗に終るのは、之迄の例である。其甚だしきは根據を自ら作る能はざるのみならず、他をして渡航することを得ざらしむるに至るのである。現今尙懸案中の渡米問題の如きは、其顯著なる實例であるまいか。本より其の曲は合衆

國西部の没人情なる加州民にもあらん、彼の卑劣なる俗惡政治家の所業にもあらんが、一半は移民的智育なき訓練なき我國民の罪に歸すべきが公平な議論の様である、今や内に朝鮮の經營を顧みても、北海道や臺灣の成績に鑑みても、我が國民に移民的思想なく、手腕なきは争ふべからざる事實である。されば之に關する智育と訓練が、正に盛ならざる限り、我國民は活動の天下を自ら制限し、發展の天地を自ら狭くするの愚に陥らざるを得ぬのである。而も之が教育訓練は何處に於てなさるべきや、何人に向つて施さるゝが有効なりやと謂はゞ、吾輩は農村教育に於て、農民教育に於て、之が實施の正當であつて、且つ有効なるを信する者である。故に殖民學を學校の課程に入るゝことが穩かならざれば、課外に之に關する講話をするも可ならん、又た青年會や通俗教育會等に於て之を試むるも可ならんと思ふ。或は地圖により、或は幻燈により、或は活動寫真によりて、海外の事情を知らしめ、海外生活の模様を見せしめ、移民の事業狀態を悟らしめ、之に對する覺悟や手續を説示するは、趣味に乏しく興味少き、農村教育會の事業を賑はす方便としても面白いことである。若し他の外國移民と對照し、彼我の領土

經營振りを比較し、各國の殖民狀態を悟らしむるを得ば、或は我國民性の陶冶を促し、大に發奮するの動機を作ること出來るであらう。徒に考慮なき出稼人の成功に憧かれ、分別なき歸朝者の出放言に煽てられ、不親切なる移民募集員の虚言に欺かれて浮か／＼と出稼をなし、移住せんと試むるが如きは、之れ移民の天地を別限する外に、何等の効果を齎らす物ではないのである。

元來移民と云へば多く未開の土地に移住し、開拓者を以て任ずる人でなくばならず、殖民と云へば未知の異域に獨創的手腕を振ひ、探檢的氣分に秀てたる人でなければならず、従つて身心の頑健なる、氣根の強固なる上に、農業的技能を有する人でなくば、落付も出來ず、發展も出來ぬのである。特に其土地に同化して而も祖國民性を喪失することがあつてはならぬのである。然らざれば、徒に國民を失ひ、精銳を喪ふばかりで、之によつて國家は何物をも得ることが出來なくなるのである。今や獨逸は之が爲めに苦しみ、英國は尙殖民地に因つて得る所多きを到せるは、其原因茲處に存するのである。されば正に領土の經營に遺憾なきを得、南洋に南米に新天地を作らんとする我國に於ては、今日に於て移民の造

成、殖民の養成に留意する所がなければならぬ。而も寒國移民よりも暖國移民に望みがあり、北よりも南に、殖民上の便宜ありと云へば、其様に訓練が出來ねばなるまいと思ふ。就職難に苦しむの餘り、何等かの事にありつかんとして、海外に飛出すが如き、血氣の勇に任かして、慢りに海外雄飛を試みんとするが如き、其志は憐むべしと雖とも、畢竟國家に禍をなすに至らざれば幸である。移民的智識なき、殖民的訓練を経ざる國民は、輕擧すべきでなく、又無謀の振舞をなさしめてはならぬのである。之れ先覺者や教育家の共に、大に留意工夫すべき問題である。

#### 6. 技術的智育と訓練

農民に技術的智識を要し、技術の訓練を経ねばならぬと云ふは、論すまでもないことであるが、乍去其智識は今尙普及せず、其訓練の行届かざるは、今日の情勢争ふべからざる事實である。小學校に農業科を必須課目としたるは、最近のこととてあり、農業學校に入學する者は、所謂九牛の一毛に過ぎぬのであり、講習講話に出席する者は、多く氣のある人ばかりである。故に農業の學理や、農業の新な

る經營法や、農業技術の進みたる點は、まだく普及はして居らぬのである。施肥に金肥さへやればよいと信じ、自家製肥料の製造に拙きが如き、果樹に剪定法を施さず、自然の結果に任せ置くが如き、收利の目的で飼ふ蠶の爲めに、返つて借金を増すが如き、切角の生産物を、病蟲害にしてやらるゝが如き、耕地整理をなす必要に迫られても、土地の丈量や設計をなす能はざるが如き、牛馬を飼養しながら其の使用をなし能はざるが如き者が多い、爲に農業は儲からぬ、引合はぬとて、徒に人の職業がよく見ゆるが如き、趣味の天地を棄て、没趣味の都會生活を逐ふが如き徒輩は、到處の農村に見る現象ではないか。之れ農業に關する智識技能が、今以て普及せず、其訓練が行届かざる反響にあらざして何んぞや。故に今少し之がために施設が出来、人の盡力が出来ねばならぬのである。

少くも今日の農家には、

- 一、 種苗の選擇、品種の育成
- 一、 肥培耕耘及栽培手入并病害蟲の驅除豫防法
- 一、 飼養の方法

一、 加工製造

一、 機械器具

一、 調製、荷造

等に關する智識が授けられねばならぬ。明治の初年に於ては、農家の間に一種の智識要求の運動が起り、各地に農談會が開られ、老農の招聘等が流行した爲に、農業に一種の新なる機運を認めたる者だが、それが今日になりて、返つて閉息した様であるのは、實に笑止なことと思ふ。現今の農會も法律になつたのは古いことではないが、其斯くの如くに到りしは、全く當年農談會の活動に基因するのである。然るに農會が系統的に出来た今日、農會を利用し、農會の活動に焦念する農民の掛なきは、眞に奇怪の極みである。又試験場や講習所の出来たのも、等しく農民の聲で出来たのが多いのであるに、今日之を官廳の都合にのみにかして、何等注文を發せず、利用の道を講せんとせざるは、當局の技師、技手も悪いが、誠に愚な話ではないか。之れ全く農民が時勢遅れをなし、新智識に餘り隔絶して來た爲めではあるまいか。されば

一、各町村農會をして採種田、種苗園の經營をなさしむること  
一、肥料の配合調製、土地改良、耕地整理、牛馬耕、施肥、剪定、整枝、除草等に熱せしむること

一、牛、馬、豚、雞、蠶、蜂の飼養、管理、飼料の準備、調製等に遺漏なからしむること

一、農産製造や加工の技に達せしむること

一、病蟲害に對する驅蟲劑や豫防劑の製造及使方に通せしむること

一、機械器具の使用、保管、取扱に遺憾なからしむること

一、調製法及荷造法に巧みならしむること

一、種苗、肥料、飼料等の鑑定法を知らしむること

等は手を以て導き、心を以て習はしめねばならぬ。一片の教本や、一度の談話を以ては、技術上の手腕は授けることが出来ぬものである。少くも實地に就きて説明し、實物を動かして見せ、實行して悟らしめ、實地家のやり振りを視察せしむる位の注意が届かねばならぬのである。之れ農村教育に従事し、農民の訓練に盡力する者の正に覺悟すべき點である。故に普通の教授に於ても、亦講習講話

に於ても、實檢實習を試み、現地講話や、視察説明をなすことが肝要である。特に學校教育を受けず、講習講話に慣れざる、食はす嫌な者に向つて此種の教授訓練が出来たる様、工夫されねばならないのである。之れ庶民的教育の必要を鼓吹する所以であつて、尤も新なる教育上の開拓方面である。

近來小學兒童に向つて一坪農業や一畝養蠶をなさしむることが流行して來た、之は兒童をして技術上の實習をさしむるばかりでなく、時には彼等の父兄まで功德を與ふることがある。又青年會の事業として、十坪農業や一畝農業を試み、多穫の競争をなさしむる所もあるが、之も技術上に自得する所が多からうと思ふ。又近頃は、一作物、一技術に堪能なる老農を聘して、其作物の栽培術、其得意とする技術の傳授を習得せんとする風潮が再興して來た様であるが、之も結構なことである。元來學理をのみ談するは、今の學者や技師技手の得意とする所であるが、技術に手腕を有するは、經驗に富みたる老農に長所を見ることが多いのである。然るに世間往々老農を侮視して、其長所を利用せんとせざるは、我農業技術の進歩上情なきことと思ふ。而も其弊が技師技手に多くあるのは、彼等

の手腕なき所以とも見るべきである。さればと云つて、老農の徒が、技師や技手の若い顔を見て、技術を知らぬものと侮り、其進みたる學理を聞かんと欲せず、新らしき他の技術を習はんとせざるは、彼等の固陋を自白するものと云はねばならん。其に農業技術の進歩を阻害し、農業の發達を妨害し、農事改良を遅緩ならしむるものであつて、實に嘆はしきことである。故に農業の技術的智育と訓練を進むるに於ては、特に學理と實地、技術員と老農、青年と老年者の協力相助が大切である。

### 丙、德育と其訓練

我國の如く德育を重んじたる國もなく、德育を八ヶ間敷云つてゐる所も他にありまい。昔の教育は全く德育であつた、今も學校と云ふ學校には、倫理とか、修身とか云ふ學科のない所はない。それに何の會則を見ても、何所の規約を見ても、道徳的文学のないものは殆んどないと云つても宜からうと思ふ。加之、教育勅語が授けられ、軍人には勅諭が下つて居り、戊申詔書も出て居る、斯くの如きは世界に類例のないことである。而も我國ほど、德育の効果が認められぬ所もな

く、德育に權威のない所もなからうと思ふ。正直の頭に神宿ると云ふ信念ある者よりも、虚言も方便と心得るが多く、他人に迷惑をかけぬ心懸けよりも、自己の迷惑にならぬ様工夫する者が多く、人の善を揚ぐるよりも、惡をあばくが面白く、約束を守るが偏屈で、破るが利巧者であり、秘密を明かさぬよりも、之が秘密と私に知らすのが親切と思ひ、正義を守るは融通のきかぬ者であり、人前を合はすが賢い者と謂はれ、廉潔なるを馬鹿者と嘲り、請托を受くるを話せる人と賞め、清き生活をなす者を四角な者と侮り、遊蕩放逸に慣れたるを圓熟者と感心し、手段を選ばぬ成金を手腕の人と尊敬し、粒々辛苦を積むを時勢に通せざるものと輕んじ、人を助くると阿呆と解釋し、人を踐み倒すを豪傑と思ひ、なすは、之れ滔々乎として流をなし、風をなす我が現狀にはあらずや、何事にも理屈が付て廻はり、何物にも金が着いて歩き、禮義節操の何物たるを解せぬ様は、之れ今の時勢にはあらずや。人に誇り、人に驕り、人を浪費するを、上位者と思ひ、出世者と心得るは、之れ今日の人氣ではあるまいか。人に罪を科し、人に損を負はし、人を陥れて平氣なるは、之れ今日の風潮ではなからうか。己の人格を尊んで、他人の人格を顧みず

自己の權利を重んじて、他の權利を蹂躪するを意とせざるは、之れ今日の勢狀ではないか。身のために國を思ひ、君を思ふ者ばかりにて、國の爲め、君の爲め、身をも思はぬ、忠の觀念が薄らぎ、奉公の精神が退きゆくは、之れ今日の趨勢ではあるまいか。祖先崇拜の國民性が、未開時代の遺物に見へ、父母に孝なるが世界的ならずとする者さへあるは、之れ今日の思想界ではなからうか。自我を認むるは結構なれど、多くは我儘や自儘や利己の惡風に陥りて、服従の美德を解する能はざる者は、之れ今日一般の通弊ではないか。公德の唱へられて、未だ見るに足る者なく、社會道德の稱せられて、未だ社會制裁の權威を見ず、國民道德と叫ばれて、古來の道德をも喪はんとし、新道德の聲が出て、我儘氣儘者が多くなるは、我國今日の現狀である。過度と云は、謂へ、道德的智育と訓練とに於て、何等進歩したる跡を見ず、何等向上したる蹟を見るべからざるは、眞に情なきことの極である。特に今日の如く上位者が敗徳の嫌疑を受けて、自裁するの舉に出る能はず、上官が汚徳の醜狀を曝露して、自盡するの意志なく、富豪が利己の爲めに國家を犠牲に供して憚らざる事實の多さを加はるが如き。宗教家が射利投機に狂奔し

て、卑陋の様を演出することの甚だしきが如き。堂々たる政治家が私黨の擁護に汲々乎として、國家と民衆の福利を度外視する振舞を公然なすが如き。社會の木鐸を以て任ずる新聞記者が、良民を疑惑の淵に陥れて平氣なるが如き。數へ來れば我が炳乎たる國史の成跡を輪したる國民性の存在や、我が國民の誇りとしたる武士道の滅亡を、疑はざるを得ざるに至り、憂國慷慨の士が、正に國家の前途を悲觀して、亡國の兆顯はれたりとし、或は慨世悲憤の士が、正に民族の將來をトして滅亡の端緒を生せりとするも、誠に無理からぬことである。今夫れ事茲に至りて、始めて、國家は天皇と人民とによつて保全し、國運は人民の自覺奮勵によつて進歩するの域に達するのである。官僚の亡びて、民衆が協力し、官治が閉息して、民治が興隆し、國家は少數の權威によつて向上するにあらずして、多數民衆の努力によつて價值を上ぐるに至るには、勢斯る運命の來るは當然である。故に益國民は相率ひ、相結束し、相助輯睦して、切磋琢磨すべしである。云ふは、或は然り矣。それには、何よりも、今少し、德育的の智育と訓練が尊重されねばならぬのである。昔は上の好む所、下之に倣ふと云ふ風であつた。故に上位者は凡



百點に於て、社會の木擇てあり、標準てあり、又た手本てあつたが、明治維新に於て此の風は、確に破壊された様である。之は四民平等となつた當時の理想は、士族の堅實にして義理を重んずるの習や、禮義作法に品位を偲ぶの風が、農工商の徒輩に推移するならんとのことであつたが、事實は盡く之を否定したのである。即ち賤しき女共の修飾が、遠慮なく上流の婦人に依つて歓迎され、錢を愛し、利を争ひ、義理や律義を方便とする、素町人根性が、何等の障礙もなく上位、官僚の間に染傳した。それで明治と大正の世の變り目に於て、乃木大將の殉死は、慥に國民精神に貴き刺撃を與へたに相違ないが、之に感憤した者は、恐らく中流以下の國民に於て、多數を占めて居つた程に、所謂上流なる者の間には、正義の精神や忠誠の觀念は、抜けたのである。されば、今や社會の木擇は、上流者ではない、人道の標準を示す者も、高位高官の人ではない、國民に國民の手本を示す者も、富豪や紳士ではない。一般國民の自覺、自重によつて、國民の人格を高め、國民の精神を進め、國民の行爲を清ふするより、外に道はない時勢になつたのである。別けて農民は、國民の多數を占めて居るのだから、よしや物質上に貧乏すと雖ども、精神上の

富裕は他に優るべく、形而下に於て下劣は免れずと雖ども、形而上に於て高尚なるもの、存するを誇りとして、此の過渡期に方向を誤るなきの用意が肝要である。否、當年士道の相續者を以て、自任し、自修、自助して、國家を泰山の安に導くの意氣と、氣概がなければならぬのである。故に一面に於ては、國體の擁護者ともなり、國民道徳の繼承者ともなり、國民價値の向上者ともなるの努力が出来ねばならぬのは、それ我農民である。此意味に於て、我農村の徳育的訓練が出来ねばならず、我農民指導者の用意がなければならぬのである。之れ此の教育と訓練が、特に我農村教育に於て、切實なる所以である。

農民に知らしむべき徳育的の事項は、列擧すれば限ぎりもないことであるから、吾輩が尤も痛切に感じて居る者を四五掲げて見よう。

- 一、 人格の意義と功徳
- 一、 他人の人格を尊重すべき所以
- 一、 正直と質素の意義と功徳
- 一、 勤勞と協同の必要なる所以

- 一、情操の意義と功德
- 一、良心と其制裁力の貴き所以
- 一、善事と悪事、恃むべき者と恃むべからざる者、憐るべき者と憐るべからざる者、喜ぶべき事と悲しむべき事等、是非の區別
- 一、守操の必要、正義に殉ずるの精神
- 一、義務の觀念(忠孝の時代的解釋)

### 一、進歩と進取の必要なる所以

農民が都會の風潮に撞かれて、徒に都人士の形容に擬せんとするは、寧ろ人格の何たるを知らぬからである。農民が時に頑迷の嘲を受くるは、偶々自我に陥るの弊があるから、それは他人の人格を尊ぶ所以を知らぬからである。業務の性質上、正直なるべくして、正直の活用が出来ず、質素なるべくして、往々奢侈に流るゝは、正直と質素の何たるを解せず、其功德を認めぬからである。勞働を賤しみ、協力一致を缺くは、未だ其必要を自得せぬからである。情に囚はれ、情に陥り

て、身をも、家をも滅ぼす者あるは、情操の修養を解せぬからである。悪意なくして、悪事をなし、罪のない事でも見逃すべからざることを敢てするは、良心を認めず、其制裁力の恐るべきを知らぬからである。善惡の標準に迷ひ、美醜の區別に感ひ、なすべからざることを敢てして、識者の笑を招き、行ふべからざることを行ふて得々乎たるの痴態を演ずるが如きは、是非の區別を知らぬからである。多いのである。守操の徳なきが故に、百姓は御し易き者と見られ、義務の觀念に通せず、現代的忠孝の道を解せざるが故に、時としては義理を缺くことあり。進歩と進取の徳を辨へざるが爲めに、固陋の弊に陥り、流行を逐ふ無分別の嘲を受くることがあるは、滔々乎として比々皆然りと謂ふべきである。之れ教へざるの罪にして、習はざる農民のみに罪を科すべき者ではないのである。

茲に附記して、特に注意を喚起したきは

#### 一、金錢獲得の方法と其目的

を明に知得せしめねばならぬことである。云ふまでもなく、農民を困窮より救ひ、貧乏より助け出さねばならぬは、刻下の急務であるが、世間往々貧に苦しみ、

難義に堪へ兼ねて、金錢獲得の方法を選ばぬ傾があり、爲めに自家の業務に精勵するを欲せずして、敢て不正、不徳の行爲をなす者もある。或は利を逐ふ世間の風潮に逐はれて、家業の改善によつて正しく利益を上ぐるよりも、不義の手段を算しても巨萬の富を積まんとする、相當身分の者すらある。而も一旦之を得れば、返て人格を損ひ、家格を害ふは勿論、甚だしきは身を亡ぼし家を滅ぼす不孝者すらあるは、農村に於ては有勝の現象である。彼の風紀の頽破や、規律の敗滅は、多く金錢浪費の結果なりと断定しても間違ひはないのである。今日農村下級農民の實狀を曝露すれば、金錢獲得の目的は、恐らく奢侈や遊蕩に、一時の快を購はんが爲めか、酒食や逸居に、一生を暮らさんが爲めならざるはなしと云ふも可なりである。

持つ人の心によりて實とも

仇ともなるは黄金なりけり

とは 皇太后陛下の御歌ではあるが、眞に難有き御教である。故に經濟上より云つても、道徳上より謂つても、特に此點に教育者の手が染められねばならぬ

ことである。

### 農業道徳

特に農民には、職業と境遇の性質よりして、特に修得せねばならぬ道徳がある。世間では之を農業道徳と云つて居るが、之れにも期待すべき多くの點はあるが、吾輩の認めて必要なりとする二三を列擧するならば、

#### 一、犠牲的行爲——公共心

農業は主として生物の生命を絶つ仕事が多い、農作物、農業動物は多く身を殺して仁をなす者である。此職業に従事し、斯くの如きを相手にする者は、自ら犠牲の精神に富まねばならぬ。それが農民の公共心ともなり、奉公心ともなりて、忠の觀念、公共に對する道徳に進む所以の道である。

#### 一、愛郷的行爲——愛國心

土地に離るべからざるは、農業の面目であり、農業の特徴である。故に土地を愛する精神は、他業に比して涵養され易きは當然である。それが愛國

心ともなれば、自治體擁護の自治心ともなり、又自治行爲ともなるのである。

一、報恩報徳的行爲(祖先崇拜)——報恩心

天地の惠澤に浴せねばならず、祖先の功徳を享くることの、大なるは、農業本来の性質である。故に天地自然に感謝し、祖先の功業を忘れてはならぬものである。それが報徳的の行爲となり、祖先崇拜の觀念ともなり、産土神(神社)と家系とを忘るゝ能はざる、我國民性(孝道)の基礎となるのである。

一、愛業的行爲——愛業心

機械の力で豫算通り生産する能はざるは、農業の特徴である。思はざる天變地異に妨げられ、意外の病蟲害にしてやらるゝは、農業の仕事である。それだけ人の心掛けが篤く、人の注意が深くなければならぬものである。故に愛業心は如何なる職業にも必要なれど、特に農業に於て然り矣とするのである。

一、協同的行爲——協同心

農業には秘密は出来難く、農事には特許獨占的のものは少ない。故に農

業は協同の力によりて、商工業のそれに對抗する丈けの成績を上げねばならぬものである。それに、用悪水の開鑿、土地の整理、病害蟲の驅除豫防等、皆協同ならねば出来ぬ仕事が多いのであれば、勢、協同心を涵養して、協同的徳の振張を計らねばならぬのである。

一、自助的行爲——自助心

天は自ら助くる者を助くとは、農業に於て特に其功徳を感ずる事が多い。然るに協同的事業の多くなるにつれ、依頼心が助長され、他を頼み、祖先の遺業に依るのみにては、或は烏合の衆となり、或は腰抜け者の附和となりて、退歩しても、進歩することが出来ない様になる。之れ特に此精神の旺盛を輸し、自助的行爲を勸奨せねばならぬ所以である。

一、奮闘的行爲——克己心

寒暑と戦ひ、雨雪と戦ひ、旱水と戦ひ、不便不自由、寂寞呑氣と戦はねばならぬ者は、それ農業者を除きて他に類例は尠からう。戦はざる者は退歩すところあるは、千古不磨の格言である。然るに戦はねばならぬ職業に従事しなが

ら、戦を忌み、戦を避けんとするは、農業者の通弊であつて、農民の振はざる所以である。故に何時でも、何處でも、奮闘の覺悟を定めて、克己忍耐、換言すればなすべくしてなし難きを敢てし、而して最後の五分間を辛棒するの根氣を養成するは、農業者に於て、尤も大切なる修養事項である。

#### 一、美化的行爲——美化心

農業は天地の美に接し、自然の美に觸れ、美の裡に生活し得る職業であるのみならず、汚き、嗅き、醜き、始末に困る者をも化して、糞尿、塵芥、之を人生缺く下木等、之を人生缺くべからざる食物にし、嗜好の標的たる花實となし、人の用を足す動物にも化す業であり、不善を教化し、不良を感化するにも農業の力が、凡百力に優りて効あるを思ふて、我農民は、何物をも、何人をも美化救済するの信念があると同時に、自己及び祖先と子孫をも美化するの努力が出来ねばならぬ。茲處に大和民族の大生命が繼承され、發揮され、農の隨神かみたまの道も明かに、農民の眞の進歩も表はれ來り、農業の特徴も明かになるのであるから、其處が尤も大切なる修養の點であるを知らねばならず、知らしめねばならぬのである。

語に曰く、心定つて氣盛なりと、又曰く熱心は工夫を生むと。夫れ行爲の優秀なる、仕事の顯著なる、事業の隆興する、必ずや善美にして猛烈なる精神を伴はざるべからずと謂ふと雖ども、精神あつて行爲の伴はざる間は、道德にはならないのである。道德は行爲なる以上、進退動作の上に精神の存在を認むることが出来ねばならぬのであるから、此處には何れも行爲としたのであるが、勿論精神の涵養と修養とを鼓吹して、精神的進歩發達を見ねばならぬのである。即ち所謂精神的教育を盛にし、心の開發を主とし、農民の長所を發揮すべきは、特に農民に於て必要とすべきである。(拙著農民教育 参照ありたし)

如上の道德を知らしむるは、本より指導者の人格と技能とに待つべきは當然であるが、凡百機會を利用して之が訓練を怠らざるは、尤も肝要なことである。今の世は、人を徳化する人格に乏しく、人を感化する有徳の長者に接せしむるは、容易ならざることであれば、各自の切磋琢磨、相互の協同助力に依るより、外に方法はあるまいと思ふ。左に吾輩が經驗し、見聞したる二三の訓練方法を列記して見るならば、

一、人格の模範人物を知らしむること

現代に求むる事が容易でなくば、故人に求むるも可なりである。(其之を

理由は、所により、土地により、相手に  
より、明示するの用意あるべき事)

一、總合人格を示すこと

人々の長所を集めて、一個の人格を作つて、其則るべき點を明にするこ  
とが肝要である

一、人格に於て多少優れたる人を尊敬せしむること

一、式場の整理、規律を勵行すること

一、會議、集會に禮儀作法を勵行すること

一、敬禮の意義を明にし、人の敬禮に對し必ず答禮を勵行すること

特に兒童や下級者に對して必要とするのである

一、會則や規約を死文たらしめざることに

何れの會則にも規約にも徳に關することが必ずある。それを嚴守す  
る癖をつけること

一、惡口、陰言、謗語は互に警戒すること

一、約束事の履行をなましむること

一、産業組合や報徳社を設置して、信用と協同相互の活用に熟せしむること。

一、團體的に弊風の矯正をなすこと

冠婚に關する贅費の節約、祭葬に關する浪費の儉約等は獨り經濟上の問題では  
ないのである。

一、制裁を有力有効ならしむること

少くも町村の制裁力が盛にならねばならぬが、何處迄も公平でなければならぬ。

一、納税組合や徴兵保険は獎勵すべく、代納機關や入營者家族に對する援助  
機關をつくるべきこと

一、模範人物并に模範家庭の表彰をなすべきこと

町村より又は團體表彰なるべきは當然である

一、地方の改良に人心を傾注せしむること

一、青年者に向ひ、地方改良の問題を課すること

答案は審査し、其善真にして實際的なるを公開し表彰すること。

一、表彰は必ずなすべし、而も漫りになすべからず、必ず改風の動機となるべきを期すること

一、一日一善の普及を計ること

一日一善を心掛るは、勢少くして效果大なり、今日之を青年者のみの事業となすは間違であつて、戸主も婦人もなすべきであり、團體の一日一善も亦勸奨すべきである。

一、毎朝祖先の禮拜、毎月一回の神社參拜を勵行して報恩の心を養成すべきこと

一、勇壯なる、正善なる、優良なる娛樂を擇ぶこと

一、道徳的講和講談を開催すること

一、所謂精神教育を旺盛にすること

一、模範事業、模範町村、優良團體等の視察をなさしむること

一、篤志家、善行者の會合をなさしめ、進善の風を助長すること

一、町村公共の事業に盡力するの習慣を養ふこと

町村費で徴收するよりも、時には寄附を促す方が公共心を養成するに於て効果を表はすことがある。

一、朝起と勤勞の鼓吹は不善に近かしめざる秘訣なれば、之が團體的勵行をなすこと。

世に模範町村と唱へらるゝ所は、多く道徳の訓練が行届ける所であり、優良町村と稱せらるる所も亦淳厚俗をなす所である。故に之等の町村には、多少形式は異なるべきも、何れも此の訓練に苦心の形跡を見ることが出来るものであるが、要は土地と人情風俗を見て、指導誘掖者の工夫に關することが多いものである。今や智育に於て進歩せりと云はるゝ我國に於ては、知つて行はざるが、一般の通弊であれば、眞善美に對する觀念を高むると共に、之に關する行爲が現實にならねばならぬ。而も惡徳、敗徳の行爲が瀰漫する世に於て、徳行に進むは、容易の業ではないから、猛烈にして牢固なる意志の力、信念が養成されねばなるまい。然るに事多く業忙しくなりて、心使ひ、氣使ひのみ多く、動もすれば心疲れ、氣疲れが加はり來つて、神經衰弱症に懸る徒輩の簇出する時節なれば、當年に比して意

志の力(信念)が弱からんとするのは、恐らく社會の大勢であらう。されば教育訓練の衝に當る者も、然らざるものも、等しく此點に留意して、更に工夫を凝さざれば、道德の振張は遂に口説以上に進む時はなからうと思ふのである。

之を要するに、農民教育に於て又た農村教育に於て、教育者や指導者の尤も心を輸さねばならぬのは、德育に關することであり、尤も手段方法に工夫を凝さねばならぬのも、此方面である。彼等に道德さへ行ふことが出来るならば、德行さへ十分に發達するならば、彼の法律的智育や、經濟的訓練は、勞せずして其目的に到達することが出来るのである。今の世は、法律にさへ觸れねばと云ふ、恐るべき思想が、凡百行爲の根底たらんとする傾向があり、損さへせねばと云ふ、忌むべき思潮が、凡百活動の根本たらんとする趨勢を示して居る。社會の公德を損し、國家の價値を害ふは、其原因が多く、其處に存するのは、御互に感得せねばならぬ由々敷大事である。特に、世界廣しと雖ども、我國の農民ほど、惡ずれしてゐるはなく、こすく出来てゐるはなく、我國の農村ほど、風儀の惡しきはなく、由斷のならぬ所はなしと云ふが、公評であり、衆議である以上は、我農民の自覺、農村の自奮は、勿論

出来ねばならぬことであるが、之が指導誘掖に任ずる者に於ては、非常の注意と努力が出来ねばならぬのである。然らざれば、農民は遂に其長所を失ふて、都市民と撰ぶ所がなくなり、農村は畢竟其精神と氣質を喪ふて、形骸を止むるに過ぎないことになるであらう。之れやかて、農民の滅亡、農村の荒廢であつて、亡國の兆である。眞に再考、三思を要するは、德育と其訓練に關することである。

#### 丁、向上育と其訓練

向上と云ふ文字位、流行してゐる文字はあるまい、向上と云ふ言語位、吾等の耳孕に觸るゝ言葉もあるまい。實業家も、爲政者も、教育家も、勞働者も、富豪者も、猫も杓子も向上せすんば止まぬと云ふは、現代の趨勢である。進歩も發達も之によつて出来、出世も上達も之がために遂げられ、開發も發展も之によつてなる以上は、向上はすべきであり、向上心は尊重すべきであるが、人多くなくて、人少きを感ずると同様に、向上が流行して、向上する者少きは、如何なる理由の存在するにや、抑も向上には、雲雀のそのの如く、上るの道の鮮かにして、墮落の速かなるものがある、雲雀向上と名けんか。紙鳶のそのの如く、風と糸とに依つて止まり、よく



衆目の標的とはなるが、糸が切れて吹き飛ばされ、惨めな様にして落下するもある。紙鳶的向上と名けんか、飛行機のそれの如く、推進器の力によつて向上飛行するが、器に損所が出来れば真逆向に落つるが如き、果敢なき最後を遂げるもある。飛行機の向上と名けんか。今の世の人、向上を囀々し、向上を鼓吹し、向上を希望すと云ふと雖も、それ或は、雲雀的にあらざるなきか、或は紙鳶的にあらざるなきか、然らざれば飛行機ではあるまいか。云ふまでもなく、向上する者には向上の素質がなければならぬが、之を内に求めずして、外に求め、形而上に求めずして、形而下に求め、一時の向上に集念して、永久の向上を認めずあるは、滔々乎として、皆然り矣ては、あるまいか。則ち名義の報酬に於て向上せんとし(月給や俸)或は地位に於て向上せんとし(肩書上)或は官等に於て向上せんとするが(位階勲等)現代人の求めつゝある向上ではないか。而も己が才能を恃むにあらざれば、或は閥の蔓を頼まんとし、それでなくば、己が専門の卒業證書を只一の道具として、向上せんとする者ではないか。月給にも収入にも制限があり、無限の向下は許さないではないか、地位の向上も地位に制限があるではないか、位階勲等も其人死

せば何の役にも立たぬものではないか。才能によつて向上せし者も行政整理で免職となつた事實が、近いことではないか。内閣の變動に伴ふて蔓が切れたが最後、地位を失ふた者は数多くあるではないか。立派な證書を有し、高等文官の資格があつても、上官の機嫌を恐るゝ者が、其處此處に居るではないか。世にも情なく、哀れな者は、雲雀的向上や、紙鳶的向上や、飛行機の向上に、焦念工夫するものや、それをすら眞の向上と思へる、徒輩の身の上である。何が故に、世人は、向上の眞跡を認むる能はざるか、無限の向上に、進路をとるべく、勉めざるが、制限なき向上の一路を認めて進む能はざるか。

昔し圓山應舉が、京都に詫住ひをなせる折柄、親しき友が、應舉の貧乏暮しを見るに堪へやらず、書家に肩書の必要なる所以を説きて、土佐の守とか伊豫の守とかを得べく、勸告したるに對し、應舉は切に親切に感謝して答へらく、肩書ならば、余は既に萬人に優れたる者を有すと、友人驚きて、如何なる肩書を得たりやと尋ねたるに對し、應舉は、君驚くと勿れ、吾には、日本鍛冶の宗匠藤原伊賀守の東隣なる肩書を有すと、語りければ、其友は果然として、遂に應舉の度すべからざるを悟

りて再び肩書談をせざりしとの逸話がある。肩書を眼中にをかずして後世に知己を求めし應舉は眞に向上の眞跡を得たるものではないか。瑞西の古城に陳取つて鼻垂れ小僧を相手に開發主義の教育を餘念なく施行したる、ペスタロチ先生は當代に於ては或は失敗者であつたらうが其志と行爲は先生をして百年千年を経て益向上せしむるではないか。而も當年の大臣は何人なりしや位階勳等の優れし人は何誰なりしや。畢竟地位の人や官等の人、は老滅するものであるを知らば無限の向上に進むの路は地位や官等にあらざるを知るべきではないか。伊豫の義農作兵衛は當年租税を免せられた程の氏も素性もない一介の水呑百姓であつた者だが其藩主や代官の名が煙滅したにも關らず、獨り作兵衛が明治に生き大正になつても尙死せざるを思へば山間僻地の土百姓でも制限なき向上の一路に進むことの出来るのは明白なる事實ではないか。夫れ向上の眞跡は死せざる生命を得ることである。一切を超越せる顯著なる大生命に到着することである。死せざる生命は形而下に超越し制限ある物質や地位や官等に檢束されぬ無形の或る物を獲得するに因つて始めて得らるゝので

ある。況んや財寶の如き貨物の如き費消されべき者によつて向上の路は得らるべきものではないのである。換言すれば吾等の身體は死すべきものであり財貨は消費されべきものであり地位や官等は剝離すべきものであるが獨り人格の向上は遂に人類を超越することが出来るものである高尚なる精神の向上は永世滅びざる大生命を有するに至るものである。故に現代に於て下層に沈淪することあるも衆愚の見る所によりて賤しき職務に従事するものと認めらるゝも時勢の風潮に逆行して悲惨なる境遇に陥ることあるも敢て人格の向上に志す者は公平なる時の裁判によつて必ずや萬世に向上すべきであり高尚なる精神的向上を求むる者は遂に時間を超越して不滅の域に達せし止まぬものである。されば如何なる田舎に住むも如何なる泥田に働く身上でも向上の一路は常に眼前に横はつて居るのである。何を苦しみてか無理を敢てし非道を踐み煩惱に苦むの必要があるであらうか。向上育には茲處に悟るべく悟らしめねばならないのである。

向上には落付が大切であり安心が肝要である。此點よりして吾輩は宗教の

必要を認め、信念の決定を勸奨するのである。多くの場合に於て、人格は信仰の権化であり、多くの人に於て、精神の向上は信念の上に基礎を置くが如くに見ゆるのである。今の世、宗教が委微振はず、信仰問題が未だ重要視されざるは、向上の真跡を踐む能はず、向上の真跡に進む能はざる原因ではあるまいかと思ふ。英人ワットソン氏が、日本は凡百問題に手を染め、百年に比して長足の進歩を認むるに至りしと雖ども、最後の大問題を忘却して居ると苦言を呈して、宗教問題の起らざるべからざる所以を論じて居るが、日本の將來に於て、流石は人格を重んじ、紳士道を守る英人の着眼であると感ずると同時に、我國民の之に冷靜なるを嘆せずんばあるべからずである。農村教育に従事する者は、須らく茲處に思を三省すべきである。

向上育には、主として精神の向上を尊重せねばならぬ、而も向上は理想にあらざ、又た空想でもない以上は、凡ての行爲が之に伴はねばならないのである。即ち

一、身を殺して仁をなすこと。

一、國家社會或は町村公共の事に盡碎すること。

一、忠君愛國の至情が凡百機會に發露すべきこと。

一、人類に貢獻する努力あること。

一、神佛に近接するの覺悟あり。神の表現たり、即身即佛の自覺あること。

一、宗教を信ずる人たること。

一、人道の代表者たること。

道は近きに在り、敢て之を遠きに求むるの要はないのである。假之

一、人に迷惑をかけぬ心得がありて、一人前に向上することが出来るのである。

一、自助の精神が旺盛で、敢て人を頼まぬとするは、所謂獨立の人に向上する所以の道である。

小作米の減額を云はぬ準備をなすは、自作地主の地位に向上する方法であり。書生が不羈獨立の精神を涵養して、漫りに學資の爲めに父兄を勞せぬ心懸けの如き亦然りである。

一、多くの人に慈悲を垂れ、勸喜の中心たるは、それ丈けの人の上に向上する

譯である。

一、國民の精神に感化を興へ、行爲を反省せしむる丈けの徳操があれば、國民を超越する向上者である。

一、私利私慾を避けて、國利民福を計るは、最後の立身出世者である。

一、國家町村は死せざる生命を有する筈のものであるから、其事に盡碎して身を顧ぬ人は、やがて永久の生命を有する人である。

一、宗教に入りて、神佛を信じ、神佛の教によつて行動する人は、神佛に向上は出來ずとも、其近傍まで向上し得る人である。自彊不息、神佛と悟れば、神佛に向上が出来るのである。

之を要するに小我を棄て、大我に生き、私に執着せずして、奉公の精神に富むべく勤め、一時の生命に抱泥せずして、永久の大生命を見るの見識を養ひ、人の毀譽を苦にせずして、神の裁判時の判決を待つ心の得せしむることが、向上育と其訓練に於て尤も肝要のことである。今の如く向上の解釋を誤まり、向上の意義を取り違へてゐる人の多い世であればある程、此點に於ける教育訓練は、凡百

教育訓練の中で、最も慎重に講究せねばならぬことである。

特に收利の道に於て、金錢獲得の額に於て向上せんとし、名と生活の上に於て向上を敢てすべく、焦念工夫し、漫りに商工の富を羨み、徒に官等の人や虚榮の輩を貴びて、而も田園に犁鋤をとり、粒々辛苦の勞働に服するを無上の恥辱とも思ひ、氣のきかぬ生活とも考ふるは、農民今日の心理状態であれば、農民教育に於て切に向上の眞諦が授けられねばならぬのである。今の世は、農村教育に従事する者にして、往々誤りたる向上を鼓吹し、人をも身をも損ふものが多い、故に偶偶金錢を得て墮落し、名を得んとして返つて之を損じ、生活の高まりて人格を卑下する者は、擧げて數ふるに暇のない程である。

更に笑止な事は、學問したる者ほど、獨立の心を尊重して、勞役に服するの勇氣なく、自助の力を恃むて、自營の道に向ふの根氣なく、將來の大生命に生くるの信念なくして、現在の安榮を逐はんとするの風潮に驅らるゝ者が多い。故に斗米に腰を屈する者に於ては、自己の力を量らずして、待遇の高下を争ふたり、自己の信用を顧ずして、俸給の多寡に不平を言つたりする者計りて、無限の向上や、絶對の

向上を認るとなく、何等向上の眞路に志ざす者のないのは、抑も時勢の然らしむる所か、將た又教育の弊なるか。之れ畢竟農村教育に向上育の眞諦を得せしむる丈の識者なく、先覺者なきによると、吾輩は敢て斷定するを憚らない者である。

戊 娛樂育と其訓練

娛樂の人生に必要なるは、言ふまでもないことである。惜に人の幾分は、それを得んがために生き、之を求めんが爲め働きを敢てするものである。特に生存競争の酷しき、優勝劣敗の激しきを加ふる今日に於ては、人は娛樂によつて蘇り、之によりて復活せざるを得ないのである。されば、娛樂問題の日に喧しくなり行くは、當然のことであるが、さて適當の娛樂を見出すことの出来ぬと云ふのも、亦た今日の問題である。

多くの人は農村の娛樂を云々するが。農村の娛樂と云へば、共同の娛樂であり、公衆の娛樂でなければならぬ。修身齊家治國平天下は物の順序である以上は、娛樂問題も亦斯くあらねばならぬと思ふ。則ち一身の娛樂が求め得られ、一家の娛樂が得られ、然る後に町村公衆の娛樂が發達せねばならぬものではな

らうか。己人の娛樂が下卑であり、陋劣であつて、一家團樂の裡に清麗なる娛樂が出来そうには思へぬ。家庭に適當な娛樂を求むる餘地なく、家族間に娛樂の快感が得られないでは、町村公衆の娛樂は、或は家庭に累を及ぼし、家族離間の素因となることも、時にあるべきことと思はるゝのである。今の戸主輩が、料理屋入りを取てなし、青年が夜遊に夢中なるが如きは、多く己人の娛樂が低級であつて、家庭生活が乾燥無味であるからではあるまいか。換言すれば、己人の娛樂に對する修養が足らず、家庭に娛樂の用意を缺ける爲めてはあるまいか。吾輩は、常に農村生活に接し、又た農民家庭の人となる機會に遭遇する者であるが、何時の場合でも如上の感慨に堪へないのである。

個人に讀書の趣味あり、吟詠の雅懷あり、書畫の嗜好あり、好善を樂み、自然を愛し、野趣を好むの情操があつたならば、何を苦しみてか、酒色に沈溺して快哉を呼ぶの愚をなす暇があらうか。家庭に水も漏さぬ和親があり、父子夫婦兄弟姉妹の間に麗はしき團樂の慰安があり、家内に春風常に充ちて、時に談笑の聲は戶外に漏れ、時に老幼の嬉戯を庭内に見るの平和があれば、何人か外に馬鹿遊びをな

すの物好きをなすてあらうか。到處青山あり底の、個人的慰みがあり、又趣味があり、高尚にして優美なる個人的娛樂があれば、たとひ農村に公衆的娛樂がなくとも、人は疲勞より蘇生することが出来る筈である。何處よりも、何よりも、個人に趣味の氣分があり、家庭が面白い所であり、家族が慰安を與ふる者であれば、不幸にして農村に協同の娛樂がなくとも、人は頓贏より復活することが出来るに相違はないものである。

今の人農村に娛樂機關のなきを痛論し、娛樂の方法なきを慷慨する所以のものは、全く農民に個人的娛樂の認むべきなく、農家に家庭的娛樂の乏しくて、氣疲れをなし、心疲れをすることのみ繁くなるにも關らず、遂に蘇生すべき機會に接せず、復活すべき道を得ざる結果、或は自暴自棄に陥り、或は迷惑して奈落の底に沈むものが簇出するからである。凡そ水を防がんには堤防を築かねばならず、旱を除かんには溜池を造らねばならぬと同様に、人をして下劣なる快樂、卑陋なる娛樂に陥ることなからしめんには、本より協同の娛樂も大切であり、公衆の共樂もなければならぬが、先づ以て個人の娛樂に修養せしめ、家庭の和樂に進む所

あらしむることが肝要であり、それが順序であらうと思ふ。

若し自ら慰むるの道を知らず、家庭に娛樂を求むることの出来ぬ者が、徒に娛樂々々と唱へば、或は娛樂によりて、身をも家をも滅ぼす羽目に陥ることがあり、又海外移住に多大の支障を生ずるであらう。農村の娛樂を論ずる者は、此點に大に注意すべきである。特に今の農民は大抵、娛樂の程度が低いのである。之を内に求むるを思はずして、徒に外に求めんとする不覺者が多いのである。それ丈け農村の娛樂は、慎重に考慮を要するのである。之れ農民は特に娛樂に關する教育と、其訓練が出来ねばならぬ所以である。

娛樂は人によりて異なり、年齢によつて差あり、文化の程度によつても違ふものであるが、先づ

#### 一、娛樂の意義

#### 一、娛樂の種類と其影響

高尚なる娛樂と卑陋なる娛樂を説明して、其人格に及ぼす影響を説く。特に田園生活と農業の趣味を悟らしむ。

- 一、娛樂の方法並に機關
- 一、娛樂と道德及經濟との關係

### 一、文明と娛樂との關係

等を明にして、娛樂の功德、娛樂の撰擇、娛樂の手段等に迷ふ所なく、惑ふ所なく、誤る所なからしむることが出來ねばならぬ。

之を訓練するには、凡百機會を捕ふることが肝要であつて、世の實例をも利用することが出來ねばならぬのである。二三の例を上げれば

- 一、經驗したる娛樂の結果に就て、省察せしめ、後腹の病むが如きことなきや否やに悟らしむること。
- 一、一時快感に堪へざりし娛樂は、果して後悔なかりしや否やに悟らしむること。
- 一、己れ之によりて愉快を覺へしも、家族及び他人に不快の感念を興へざりしかを考察せしむること。

- 一、自ら娛樂を求めたるも、之がため家族や他人に迷惑を及ぼさざりしやを熟考せしむること。
- 一、娛樂によりて、果して人格家格を損せざりしやを分別せしむること。
- 一、娛樂によりて、事實身心の復活を得たりや、蘇生せしやを顧慮せしむること。
- 一、人をして喜ばしめ、人をして安心せしめ、他をして慰むる所あらしめ、他をして樂ましむることの、如何に大なる娛樂を得るものかを經驗せしむること。

人は如斯訓練を経るにつれて、自然に趣味育も出來、益高尚なる娛樂に進み、優美なる娛樂に入り、遠きに求むるの迂なるを知つて、之を近に求むる事を知り、自己本位が抜けて人と共に樂むとの眞に快きを悟ることが出來る様になるものである。特に我農家は、何處に於ても飲食に娛みを求むる習の、今日でも甚だしきものなれば、家庭料理を改善して、何時も珍らしく、味よく、心持よく、食事なることが出來る様に工夫するが如きは、尤も卑近にして優美なる娛樂を得る所以の

道であらう。別けて農家は、出入共に家族の團樂が出来、職業に従事するものであつて、比較的香氣な境遇に居るものであれば、和合輯睦にする各自の笑顔には、他の擬して及ばぬ娛樂も抱含さるゝ譯である。それに隣保團結は、農村生活の特徴であり、家と家とは丁里を隔つるも、心と心は隣り同志であるのが、農村の常であれば、他と樂み、衆と娛むことの方法さへ工夫されるれば、必ずや其處に、所謂農村協同の娛樂も出来るであらう。農村公衆の娛樂も發達し、進歩もするに相違あるまいと思ふ。(近來小學校等の運動會が、色々に工夫されて、當該町村民の娛樂を得る機關となる傾向がある)如斯して農村に娛樂が出来、之によりて農家を寂寞より慰め、之によりて勞苦より救ひ、之によりて倦怠より蘇らしむることが出来れば、何時でも農民は、新銳の氣に満ちて、快活なる活動をなすに好適の國民たるを得るであらう。農民に娛樂育の必要があり、其訓練の大切なる所以は、全く之がためである。(拙著「農家の經濟」中「農家の利益なる章」參照ありたし)

#### 己、宗教育と其訓練

吾輩は、不幸にして未だ宗教の眞の味を嘗むるに至らず、宗教の悟りと云ふ境

界に入つた經驗もないのであるが、古來宗教を味へる人の迷はぬ様を聞き、宗教に入りて悟りたる人の動かぬ心の据りを見て、迷の巷に立つことの多き、始終心の動くに悩める吾輩は、眞に羨望に堪へぬのである。既に吾輩は如斯して、宗教の大切なるを知り、信仰の難有きを悟つて居るから、常に宗教家につき、宗教の書を見、宗教の話聞いて、其堂に入らんことを心掛けて居るものである。今や宗教の門に近きたりと云はん、信仰の香を嗅ぎたりとやせん、従前の吾輩に比して稍心の落付き、氣の迷ひなどが少くなつて來た様に思ふのである。若し信念が宗教なりせば、吾輩の今日に於ては、一の大なる信念もある様になつたのを喜ぶのである。思へば、世に解せぬ、分らぬものがあればとて、己が心ほど不可解、不可説のものはあるまい。而もそれが寸尺に於て、重量に於て、容貌に於て、分明であり、可解である己が身體を、左右すると云ふに至つては、愈不可思議ならずとせんや。且つ可解、分明の身體は消滅して、不可解、不可説の己が心が遂に煙滅することなく返つて明瞭となり、人より人にも傳はりて、遂に死する時もない様であるは、益不可思議ではあるまいか。楠公は死して存せざれど、楠公が七生報國の



精神は今も吾輩の間に活躍しつゝあるてはないか。乃木將軍も死して、今は屍體は骨のみとなつてゐるだらうが、將軍の心は、尙吾等の心に正氣を與へつゝあるのではないか。生れて滅せず、死して傳はる人の心は、何ぞ奇妙なるものは、他にあらまいと思ふ。之も修養せずば、犬馬のものと何の選ぶ所もあるまい、之も琢磨せざれば、蟲魚と何の差別する所もあるまい。されば人として生き、人として死するには、心の處置一つであると思はねばなるまい。そこが宗教によるべき所以であり、宗教の權威の存する所ではあるまいか。

人の定めた方則では承知のならぬ所が出来、人の作つた理窟では通らぬことがあり、人と人との約束では物足りない感じがする。そこで人間を超越し、時間を超脱し、空間を超出したものを認めねばならぬことになるのである。而もそれが人によつて色々作工されるによつて、其間に形式が生じ、儀式が生じ、遂に形式になづみ、儀式に制せられて、本來の面目を失するに至るのである。此點に於て、吾輩は我國古來の古神道に於て、依然として存する眞面目を見る事が出来ると思ふ。或は曰く、神道は宗教にあらずと、之れ或は形式を見て其眞面目を見

ず、儀式を認めて眞生命を見ざるの弊に陥つてゐる者にはあらざるなきか。抑もこのと云ふも、佛と云ふも、天と云ふも、皆之れ一種の形式ではあるまいか。本來そこに何者が存する、靜に思ひ、平に考へ、廣く察すれば、面目の存する許りではないか。

議論は宗教に禁物であり、理窟は宗教に不必要であり、論理は宗教を斷ずべからざるものである以上は、それは人の見る所、思ふ所、悟る所に任かして置かう。只だ吾等は人の定めた方則で承知のならぬ所があつた時に、何によつて承知せんと欲するや、人の作つた理窟で通らぬ場合に、何によつて解決せんとするや、人と人との約束で物足りない時に、何如して満足せんとするや、御互に考へ置くべき問題ではあるまいか。然らざれば、或は煩悶に苦しみ、或は迷惑に悩み、或は自暴自棄に了るか、然らざれば徒に恐懼し、退嬰し、落膽し、悲觀し、墮落して、自ら愛憎が盡きるに至るや、必ずと觀せねばなるまい。斯くて、人生の幸福は何處にかある、人生の歡喜は何によつて求むべきか。此處が御互に考慮し、遠慮し、思案し、覺悟せねばならぬ所であると思ふ。

吾輩が宗教の堂に上らざる證據には、何時の間にか理窟に陥り、議論に馳せて仕舞ふ。之を思ふても、當世の人には宗教教育が大切であり、其訓練が肝要である。特に移民教育には、此の教育が根底とならねば、移民の事業は成功するものではなく、糞水を掬する農民の教育、又農民指導の衝に立つもの、教育にも、此教育が基礎とならずば、勞して効はあるまいと思ふのである。論より證據には、宗教の盛なる國民が、何れの地に於ても移民に成功をして居り、英國民の如し、宗教を基礎とせる國民が、國運の隆盛を輸して居る、丁抹の之を個人について見るも、之を町村自治體に就て見るも、皆同様であるを思ひなば、何人も否定することを出來まいではないか。明治聖代が過ぎて、大正の御代を迎へ、世は益進歩し國は愈發展すべきに際し、不祥のこと簇出し、不正の事曝露し、不善の徒輩出し、世人往々其前途を悲觀するもあるが、其間に國民の心理を流るゝ宗教的發心の潮流は、日に増し勢が盛になり、識者の間に信仰を渴仰する思潮の波濤が、愈高まるの事實に徴せば、吾輩は大正の御代を奉祝するの情、抑へんと欲して、能はざるを喜ぶのである。時も時なり、吾等は正に大に宗教に近接して、不動、不迷、不惑、不懼の境界に立ち、吾

等が事業とする、農村教育に至大の功德を興へんことを切望して止まぬのである。斯くて、國家の根底が強國となり、國民の生命が活躍するに至らば、所謂大正の御代の御光ともならん。

それには、吾等は

- 1、 宗教の話聞くこと。
- 2、 宗教の圖書を読むこと。
- 3、 眞の宗教家宗教熱心家に接すること。
- 4、 宗教の研究をすること。
- 5、 喜怒愛憎の至極に際し、練想すること。
- 6、 常に歡喜快感の念に離れざる様工夫すること。
- 7、 深山幽谷又は艱難の地位に身を置いて見ること。
- 8、 寂寞孤獨沈靜の境界に立ちて見ること。
- 9、 煩悶苦惱悲境と戦つて見ること。
- 10、 發心せし人に接して悟りを開くこと。

習慣的の信仰には迷信があり勝であり、形式的の宗教には生命がない弊がある。己が一念發作、自覺悟入にあらねば眞の信仰も、信念も得らるゝものではないと思ふ。而も人の心證は自由であり、信仰も自由であるから、己が悟りを以て、人の悟りを制するとは出來ず、己が信仰を以て他を律することも許さぬものである。然し、悟り抜いた信仰は一致すべく、至極に達した悟りは同じものでなければならぬ。従つて何れの道より入るも、何の形式より悟るも、同じ高根の月を見るの感があるであらう。之れ他力を本願とするに便なる人もあれば、自力を信頼する者もある所以である。

兎に角悟れる人は強く、信仰を得たる人は雄大であつて、如何なる場合に處しても、如何なる時に臨んでも、又如何なる事業を行つても、一貫せる努力が出來、不動の根底を認むることが出來るものである。大國民の態度も、強國民の本領も、斯くの如くして得らるゝのであるから、吾輩は切に宗教育の必要と、其訓練の工夫が、吾等の凡百教育事業に認識せられんことを切望して止む能はぬのである。

## 第八章 教授訓練の方法及手段

農村教育に於て、尤も意を致さねばならぬことは、教授訓練の方法及手段である。元來農民は境遇と職業の性質よりして、呑氣であり、見聞に慣れずして、研究講學の刺戟を受くること少きものなれば、之を教授して知能を啓發することや、之を訓練して徳器を成就せしむることは、實は容易の業ではないのである。今や知識慾は農民の間に瀰漫し來れりと云ふと雖ども、それは青年少女に於てのみであり、然らざるも専門の智識技能に付ては案外冷淡なるが多いのである。之れ農業の仕事には賢愚によりて、大した差が生ぜず、寧ろ勤怠に因つて成否に別を生ずる事が多い故に、農業は誰れでも出來るものゝ様に考へらるゝのと、一は農業と云へば、今尙耕種に過ぎないものと思へるものが多いからである。故に、一面には、彼等をして時勢を知らしめて、迷夢より醒ましむることが大切であり、一面には、彼等をして時勢に適應したる農事經營に遺憾なからしむることが出來ねばならぬ。而も彼等の智識は凡てに於て、低きが常なれば、分り易き、覺へ易

き、悟り易き話もせねばならず、指導も出来ねばならぬのである。それが最も難義であるだけそれだけ農民に對する教授訓練には、方法が盡され、手段が講せられねばならぬのである。今日まで農村教育の振はざりし原因は、之を試みざるにあらずして、之に成功するだけの教授訓練が適當に出来なかつたからである。或は氣ばかりあせつて、解らぬことを無暗に話し、彼等に要領を得せしむることが出来なかつたり、或は自分で解かつて居るが、彼等の程度に應ずべく話が出来なかつた爲に、彼等をして悟らしむることが出来なかつたり、或は何時も同じことのみ繰り返して、何等の趣味も得せしむることが出来なかつたり、或は講話演説に權威と努力がなくて、彼等をして、聽聞に倦かしめたり、或は何時も空話であつて、彼等に何等の感興を興へなかつたり、或は視學と云つても、見ることばかりで、何等觀察するの機會を授けなかつたり、或は見聞に材料を選ぶことが杜撰であつて、深き印象記憶を興ふることが出来なかつたり、或は耳に慣れ、目に喜ばしめて、何等實行に進むの覺悟を得せしむることが出来なかつたりして、遂に農民をして、進取の氣象に富ましむることも出来ず、改良の事業を行はしむることも出

來ず、果ては、徒に農民を固陋と嘲り、頑迷と罵るの愚をなすに至るものが多いのである。

夫れ凡愚をはなれて教化なきを思へば、固陋であれば尙更教育が大切であり、頑迷であれば、格別教授訓練の必要があることに悟らねばならぬ。それを漫りに輕侮嘲笑の種子とするが如きは、即ち其愚や及ぶべからず、其痴や學ぶべからざるものであつて、眞に馬鹿の骨頂である。世に、濟度すべからざるは、不學無智の農民ではなくて、返つて才智藝能の人でありながら、農民を指導誘掖するだけの努力と工夫とを輸す能はざるものであらうと、吾輩は常に信ずるものである。

元來學校の如き順序的に教授が出来、規律的に訓練も出来る所であれば結構であり。講學の人や、研究の人を相手にするのならば、何の雜作もなからうが。年齢に不同あり、知識の程度に相違あり、勞働の種類にも差等あるものを一堂に會せしめて、之を一様に教授訓練するが如きは、誠に容易の業ではないのである。それに世間遅れをし易き境遇に居り、刺戟に接する機會少き田園に住める者なれば、之に發憤興起の觀念を興ふるは、眞に平凡のことではないのである。然る

に有志有識の人が多く都會の人の爲めに努力して敢へて農民のために勇往せんとせず、教育家と自ら許せる人にして徒に講學の人を相手にして進むて農民のために邁進せんとするもの少きは、何んたる情なき話にはあらずや。吾輩は彼等の無氣力と同情なきを悲むと共に、忘れらるゝ棄てゝ顧みられざる農民に向つては、眞に同情の涙の滂沱たらざるを得ぬものである。

云ふまでもなく、人によつて教材も異なるべく、所によつて話題も變らねばならず、時に應じて話の程度も考へねばならぬが、凡そ教授訓練の方法と云はゞ、先づ以て之を三段に區別することが出來様と思ふ。吾輩は以下項に分ちて、敢て卑見を述べることにしよう。

### 一、耳よりする方法

教授の簡單なる形式は、口舌を以て耳より知らしめ、音聲を以て耳より悟らしむることである。彼の講話、演説、講習、談話、講演は、皆其の方法である。今の世は、此方法に於て全盛を極めつゝある時であり、人は聽聞に依つて最も感得を多く

しつゝあるのである。乍去、なし易き丈けそれ丈け、倦怠し易く、行ひ易き丈けそれ丈け、効果も大ならざる者である。特に聞くことに慣れず、聽くことに訓練されざる者は、聞かしむる機會を得せしむることが容易からぬものである。之れ講話、講習會などの開けて、聽衆を得るの艱難を嘆じ、辯士、講師の出席が多くて、來聽者の少きを經驗する所以である。されば、其易きは易きに似て、實は容易の業にあらす、其効果を確實ならしむるに於て、更に難きを思はねばならぬ。故に耳よりする方法は、教授訓練の第一歩ではあるが、餘程の注意と工夫とを要するものである。今左に、主なる注意事項を述べて參考としやう。

#### (一) 出席の勧誘

講習でも講話でも、何んでも口舌を以て、人を教育せんには、先づ聽衆を多からしむることが大切である。學校であるとか、工場であるとか、其他多數人の居る所であれば、兎に角、然らざる所に於ては、會を開きて出席の熱い程、氣の抜ける、間の悪いことはないものである。痼癢持の講師は、怒り出し、役人や上官は氣嫌を害ひ、主催者は穴へでも入らねばならぬ羽目に陥ることは、世には随分例のある

事である。或は出席者があつても、目的とするものが出なくて、出ては困る者が御義理に顔出すと云ふ場合もある。農談會や講習に戸主を招く筈の、が出席する者がないと、俄に隣近所の學校へ駆けつけて、小學校の生徒を借り出すと云ふ、苦肉の策を弄する場合もある。婦人會だと云ふに、婦人會員が少なくて、鬚男の數が多くあると云ふ様な場合もある。話す人も考案が違ふて、無責任なる話をなし、聞く人も趣味を感せずして、途中に寝て仕舞ふと云ふ、滑稽は随分田舎には多いのである。されば、適當なる聴衆を得ることや、希望する人の出席を多くすることは、講習や講演をなす場合に於ては、最も大切なことであつて、相當の工夫を要すべきである。或は餘興でつり出すも一方法であらう、或は講師を選擇して、講師の名で引き張り出すもよからう、或は抽籤を出して誘ひ寄せるも一策であらう、然し、主催者の懇切なる勧誘と、辛棒強き誘導が、最も大切であつて、且つ有効である。優良村や模範村と呼ばれる、所に於ては、皆如斯して指導訓練の實を上げて居るのである。今一例として、愛知縣南設樂郡千郷村でやつて居る方法を示さんか、如何に注意が周到であつて、懇切なるかを知ることが出来よう。

同村は小學校が文化の中心となつて居る所で、校長淺井豊一郎氏は同村の人であつて、師範卒業以來同村の爲めに盡くし、村長が交迭しても、村が合併しても、同氏の同村に盡くすことに變りはないのである。それに出席者の勧誘には、常に用意を周到にして常に左の如き通知書を出し、些の倦怠を見ないのは、則ち學校が中心となつて、村の凡てがよくなる所以である。

來る五日午後二時より、午後五時迄、保護者大會開會致すべく候につき御出席相成度此段通知に及び候也

大正二年四月二日

千郷尋常高等小學校

### 保護者 殿

追て、保護者大會は、先年も、申上候通り、保護の大會に候間、代理人を差出すことは固く、御斷り申候、然る代り缺席者の爲めには、更に日を期して出校御通知致すべく候  
尙、保護者とは

父母あれば父  
父なければ母

父も母もなければ後見人

のことにつき御間違これなきやう念の爲申添候

先日の父兄會へおいでくださることのできなかつた方々のために、来る  
日、更に父兄會をひらきますから、午時までにおいて下さい。

明治四十二年 月 日

千郷尋常高等小學校

科等 學年生

保護者殿

追て御面倒ながら、おいてのせつは、この書面を御持参なさつて、受持教員に  
渡して下さる。

(補) (受持)

### 講話會通知

(大正三年)

- 二月 日午後七時よりひらく。
  - ▲午後六時頃用意のかねをうつ。
  - ▲午後六時半頃でかけるかねをうつ。
  - 缺席の家にては、必、そのわけをとどけること。
  - 一人も出ぬ家は、三月學校でひらく講話會に出るものとす。
  - 小學校児童は、出てはならぬ。
  - 講話中は、たばこをのまぬこと。
  - 閉會は午後十時の豫定。
  - 一戸一人は、せひ、てること。
  - 時間におくれぬやう、きをつけること。
- つぎに、戸主の名を書いて、持つて出て受付にだすこと。

戸主

### 婦人會

(大正二年十二月)

- 本村行事により来る
- 二十六日午後一時より
- 本村小學校内にひらく
- 閉會午後四時の豫定
- 當日は講話及
- 本村行事舉行方法に關する協議をなす
- 當日は、午後〇時三十分までに、會場に入る
- 一戸一人は、せひ、出る
- 時間におくれぬこと
- 左に、自分の區と、戸主の名とをかい、持つて出て受付にわたすこと、若し、わすれた者は、受付で、紙をもらつてかき入れて、だすこと。

區 戸主 氏名

▲▲これは、女子會員にて持参するを得ず  
▲女子會員は、これを持たずに出席すること

●紀元節拜賀式 (大正三年)

●午前十時より行ふ (青年會員及女子會員) 全部參列すること  
 ▲定刻までに入場を終るやう注意すること  
 ●式後本村教育會總會をひらく  
 ●次に戸主會にうつる

◎早國旗 (なつかげ) 祝意を表すべし

◎一戸一人は、せひ、出ること  
 ◎時間におくれぬこと  
 ◎はかまをつけること

●本日午後ひきつき  
 ●本村産業組合聯合會總會開會左の事業あり

●一、優良組合員の表彰  
 ●二、講話講師は縣廳より出張せらる

●組合員は辨當持參のこと  
 ▲組合員外も參列傍聽隨意

左に、自分の名と支會をかきいれて持參し受付にて其支會長にわたすこと

支會 教育會員氏名

△これは代人にて持參することを得ず

明年一月一日午前十時より例の如く本村小學校内に新年拜賀式舉行致すべく候に付御參列相成度此段通知に及候也  
 大正二年十二月二十八日

千郷村教育會

會員各位

追て拜賀式に引つゞき戸主會開會致すべく候

拜賀式には都合して袴を着すること

●左に自分の支會名をかいて持つて出て受付にわたすこと。わすれたものは受付で紙をもらつて區と名をかいて出すこと

支會 會員氏名

△これは代人にては持參するを得ず

來る 日第三學期父母會を開きますから、左記御了承の上萬障御繰合せ、是非御出席下さい

大正二年二月 日

兒童保護者殿

千郷尋常高等小學校

(左記)

一、今迄父兄會と申しましたのを、今回は父母會と致しました、父か母かの方で御出て下さい

萬止を得ざる御差支あるも、親類の者や、耳の遠い老人や、廿歳未満のものを代理として出すことは止めて下さい。御差支の方の爲には、又改めて開會致しますから、當日は御缺席下さい

ことに二十歳未満の代理者は、御出て下さるも、入場を御斷り申しますから前以て申上げて置きます

二、午前九時に開會いたします、閉會は正午十二時の豫定であります

三、御出で下さつたならば、直に、其兒童の教室へ御通り下さい



四、父母方の出席は午前九時につけます。

二人以上の子供の通學せる方は、當日午後、其學級の授業を參觀して、其旨受持教師へ申出て置きさへすれば、其父母會に出席したものととして取扱ふことになりましたので、遅刻のなきやう、十分御注意下さい。

五、児童成績物は、午前八時三十分より、同九時迄、其教室で御覽に入れます。

御覽になりたい方は、其時間内に、御出て下さい。

六、九時より十一時迄は、授業參觀、それより懇話會に移ります。

七、特別の御希望は、閉會後御申出下さい。

以上

單に一片の通知をするに止まらず、児童に托して會の性質と出席の必要なる所以を知らしむるのである。それに出席せし者に向つては、話題を研究し、話の仕方を工夫し、可成的卑近にして諒解し易く、且つ話に興味を感ぜしめて、必ず次の會にも出席せんと欲する思慮を起さしむることが肝要である。斯くの如くするには、必ず聴衆の境遇や其の智識の程度を考へ、我を去つて彼に標準をとら

自分を棄て、先方の爲めに考へ、説を賣ることをなさずして、説に得る所、あらしむべく、聴衆に向つて誠意と熱心を輸すことが出来ねばならぬ。さすれば、如何に聴くに慣れざる者でも、聞かず嫌な者でも、遂には自ら進むて聴聞せんと欲するに至り、會の開くるを待兼ねて、萬障繰合せて出席するに至るものである。

(二) 講師の撰擇

從來講習講演會などを開きて、其効果を認むるを得ず、聴衆をして再び之に出席するの勇氣なからしむる原因は、講師其の人を得ざるに座す場合が多いのである。或は話が下手であつて要領を得なかつたり、或は無責任なる議論を上下して聴衆は愚か、主催者までも困らしたり、或は話に熱心がなく、趣味がなく、聞き飽かしむるより外に得る所がなかつたりするものもある。或は人格が低くて之がため悪影響を與へ、或は話が下卑であつてよからぬ感化を與へたりして、識者をして不快な感想を抱かしむるものすらある。

學校に於て教師の穿考を八ヶ間敷云ひ、教授法を重じて、生徒に明確なる智識を與ふると共に、教師の人格に觸れしめての感化を期待すると同様の注意は、講

習講話の際に於ける講師の選擇にも拂はねばならぬものである。若し夫れ特種の技術に關することや、専門的の智識を授くる要あつて、人格を顧みることの出來ぬ場合は、主催者が人格の人でなければならぬ。又た講師の人格に接せしめ、其感化を得せしむるが目的である場合に於ては、往々其話の要領を得ぬことがあるから、其時には誰れか其説話を敷衍して、諒解せしむることが出來ねばならぬ。或は講師を二三名にして、各其得意を盡さしめ、説話に異なる色彩を呈せしめて、聴衆に倦まざらしむる用意も大切である。

之を要するに、講師は人格と講話の技術、教授の方法に巧みなる人を選ぶことが肝要であつて、聴衆に講習講話の趣味を得せしめ、それに依つて心田を開き、智能を啓發する所がなければならぬ。而も講師は、穴強ち肩書の立派なるを擇ぶが藝ではない、又た遠く著名の人を選ぶも能てはない。返つて其地方の有志家や、町村當局者や、學校當事者や、宗教家などの、其地方民に對する好意と熱心なる努力とに因つて、方針あり、秩序あり、徹底ある所の講習講話の出來る場合が多くあるのである。之れ優良町村や模範町村に於て、其町村の先覺者が、互に講師と

なつて、莫大なる効果を上げてゐる所以である。愛知縣南設樂郡の千郷村では、役場吏員、學校教育家、村會議員、宗教家、警察官によつて、講師を編成し、各字を巡廻講演して、村民啓發に勉めて、民心の作興と統一とを計つて、大に効果を收めつゝあるが、斯る例は他にも多くあるのである。如斯きは、單に地方民の啓發に於て得る所あるのみならず、當該町村の有力者や先覺者に、意志の疏通と協力一致が得られて、平和なる春風を町村に迎ふことが出來るものである。されば一面に於ては、經濟的となり、一面に於ては、協力的となるので、それが町村に講習講演以外に好影響を與ふることにもなるから、所謂一舉兩得の策である。

近頃青年會など、凡ての團體に向つての自覺を促がす聲が大きくなつて來た結果、各種の團體が自ら主催する講習講話が流行する様になつたのは、慥に著しき進歩であつて、喜ばねばならぬ現象である。乍去、無暗に珍らしき説を聽くを欲し、六ヶ敷話を聞くを好み、知名の人をと注文し、卑近を嫌ひ、平凡を厭ひ、附近の事情に通ぜる普通の先覺者を馬鹿にする弊が往々ある。特に青年會に多い様である。如斯きは、所謂生意氣の誹を受けても、何の得る所もないものである。

やはり先覺者の指導を受け、先輩に相談して見るが分別ある仕方であつて、眞に自覺ある者の踐むべき道であることを知らねばならず、又た知らしめねばならぬのである。

(三) 主催者の用意

如何なる話でも、話には筋道すぢみちが立つて居らねばならず、話をするには、何の爲か目的がなければならぬ筈である。學校に於ての教授が、單に其方法に於て巧妙であつても、全體を通じて主張が明かてなかつたり、何の目的を以てそれを教ゆるやが分つて居らなかつては、其教授は勞して効なきに了るであらう。今や多くの教育家は、教授法の三段や五段に力を集注するの愚なるを悟つて、學生生徒に智識を明確に與ふるとの他に用意すべき者あるを悟つて來たのは、無理もないことである。それと同様に、講習も講話も、人の智能を啓發し、徳器を成就せしむる事が目的であつて、之によりて以て、分つた人たらしむることが出来ねばならぬ。此點に就ては、勿論教師の用意と工夫とが大切であるが、校長の監督宜しきを得ねばならぬが如く、講習講話に關しては、講師の技倆を主とせねばならぬ。

が、其主催者側に於ける用意が周到でなければならぬものである。今日多くの場合に於ては、主催者に何等の用意がなく、只だ講師の開放題に任せ、辨士の出駄羅目を頼むの弊がある。之がために、心ある講師は苦しみ、氣のある辨士は閉口し、聴衆は感得することの甚なきに愛想をつかして仕舞ふ例が随分多いのである。畢竟何の爲に講話會を開きしか、何の故に講習會を催したるやが分らぬことになつて仕舞ふ。之れ主催者に、特別の用意が大切なる所以である。

今通俗なる主催者の用意すべき點を列舉せば、

- 一、講師に會の目的を豫告せねばならぬこと。
- 一、町村及會の方針に基く話や演説を講師に頼むべきこと。
- 一、聴衆の種類及其智識の程度を講師に知らせねばならぬこと。
- 一、講師に成るべく附近の事情や地方の慣習を悉知せしめねばならぬこと。
- 一、會の目的を達すべき講師の選擇をなすべきこと。
- 一、聴衆に會の性質や目的を明かならしむること。
- 一、講師の如何なる人なるかを紹介すること。

- 一、話題、演題を掲げること成可奇抜なる演題を掲ぐる妙なり。
- 二、なるべく話の筋書や講習の目次を前知せしむること。
- 一、聴衆をして倦まざらしむること。
- 二、會場の整理をなし、聴衆の秩序を維持すること。
- 一、開會と閉會とに時間を厳守すること。
- 一、會の性質に依つては、聴衆の種類を限定し、其數を制限すべきこと。
- 一、聴衆の出席を正確ならしめ、場合によつて特に聴衆を多からしむる用意あるべきこと。

一、講習講話の効果を大ならしむべき用意あるべきこと。

優長町村に於ては特に其概要を印刷して配布して居る、

一、目的を達する迄て、會の繼續をなすべき覺悟あること。

一、會に對し主催者の誠意と熱心が認めらるべきこと。

吾輩は比較的多くの講話會に列し、講習會にも依頼さるゝものであるが、主催者の誠意を受けるが爲めに、一日の講話を臺なしにされたり、熱心なき會主の爲

めに數日の講習を無駄事にされた、多くの苦き經驗を有つて居る。勿論吾輩の努力と人格が足りない結果の、至大の關係を有するは云ふまでもないことであるが、ざりとして、主催者が開會の時間に遅刻したり、開會の辭を述べなかつたり、甚だしきは敬禮もせず、閉會の辭も陳べずして、佛作つて魂を入れない様なやり方をするに至つては、何んとも致し方がないではないか。更に甚だしきは、會に對する意見を聞かれて、答ふる術も知らず、講話とは名ばかり、閉會後の慰勞會が目的であるが如く感ぜざるを得ぬ様な仕向をするものもあつて、講師は宛然鯁節同様にせらるゝ場合がないでもない。彼の官廳の半命令的なる勸誘によりて、講習講話の會さへ開けば、申譯が立つが如く考へて、報告の材料に開會する場合は、今でも所によりては多いのである。斯くの如きは一種の狂言であつて、講師は體のよい狂言役者にせらるゝ譯であつて、眞にたまつたものではない。耳よりする方法は、教授訓練の最も簡單なるものと雖ども、之れでは何回開いても、恐らく何の効果もあるまい。反つて講習講話の無用を知らしめ、有害と觀念せしむるが如き、惡結果を醸成するに過ぎぬことになるであらう。主催者たる者は、

大に顧慮する所がなければならぬのである。

(四) 講師の心得

教壇に立つ教師は、必ず教案によつて秩序的に、教材の配列を巧みにして趣味的に、而も話術に長じて分り易く教授が出来ねばならぬことは、云ふまでもなきことなるが、吾輩は、寧ろ其智識の該博なるも、其誠意の熱烈なるも、其臨機應變の氣轉に富むことの、更に効果の大なるを信ずるものである。社會の凡百階級者に、講話講習を試み、其心田を拓き、其智識を研ぎ、其才能を達せしむるに於て、特に其必要を感じざるものではない。御義理一片の講話では、たとへ其説話が巧妙であつても、何等の感興を起さぬ、責任逃がれの已むを得ざる講演では、時に聴衆をして迷惑を感じしむるに了ることもある。小兒に大人の話をしたり、百姓に學者の工夫を説きたり、農村に見もせぬ、聞きもせぬ遠き世界の話をしたりして、聴衆を煙に巻くが如きは、一種の嘲弄ではあるまいか。或は話はないにしても、贅澤な風采を見せつけたり、講演は巧みであつても、驕慢なる態度でふつて見たり、講習は上手であつても、不謹慎なる下卑な話振りであつては、反つて悪影響を及ぼす

場合が多いのである。故に講師たり、辨士たるにも、用意が周到ならざる限り、聴衆より馬鹿にされたり、主催者の信頼を臺なしにすることが有勝のことである。而もそれが教育上悲しむべきことであつて、講師に人の得易からざる農村に於ては、特に多大の大損失であるを思はねばならぬ。

吾輩の経験より考へて、今二三の講師としての心得を列挙すれば、

- 一、講師は會の性質及目的を知らねばならぬ。
- 一、主催者に講話の筋道を豫め打合し自己の考案を補捨する親切がなければならぬ。
- 一、主催者が不誠實であれば謝絶する度胸がなければならぬ。
- 一、講習の場合には豫め主催者の意見や資料を徴して講習目次を町村の方針に則り、主催者の意見に適ふ様に作りて、聴衆に分たしむる位の面倒を見ねばならぬ。
- 一、聴衆の種類及び程度を知つて、分り易く話す工夫をせねばならぬ。
- 一、時間の長短を論ずるよりも、話術を研究して聴衆をして聴聞に飽かしめ

てはならぬ。

- 一、 比喻は之を卑近に求めて、聴衆をしてより多くを連想せしめねばならぬ。
- 一、 態度は謹嚴に、音聲は明瞭に、筋道は素直に、立論は正確で、材料は豊富で、而して話其物に趣味があるべく努力せねばならぬ。
- 一、 聴衆に何等かの印象を與へ、何分の感化を與ふる丈けの人格が發揮せねばならぬ。

- 一、 飽くまでも聴衆のために話すのであるを忘れてはならぬ。

(自己の意見を發表し、所志を開陳する場合には此限りにあらず)

- 一、 話方に抑揚や起伏も大切なれど、石を肯かしむる的一種の熱と力とが更に一層大切であると悟らねばならぬ。

之を要するに、耳よりする方法としては、聴衆が感得する所ありしに、歡喜し、印象の深刻なりしに感奮する所あるを得ば、先以て其目的を達したかと思はねばならぬ。世間には聴衆の少數なると、聴聞の不眞面目なると、會場の無秩序とを、主催者や聴衆の不熱心なるに罪を歸する講師もあるが、そは大きな不心得で、其

一半の責は講師に在るを忘れてはならぬ。夫れ凡愚を離れて教化はない者である。愚なるが故に講習講話の有益なるを知らぬのであるから、斯る徒輩に向つては、益熱烈なる努力を輸さねばならず、未だ聴聞に訓練を経ざる者共であるから、不眞面目であるは當然と思ふて、益不撓不屈の氣根と親切が盡くされねばならず、分らぬから騒ぐのであり、馬鹿にさるべき所があるから喧噪もするのであると思ひ、豊富なる材料を以て、分り易く話すことに工夫し、自省せしむる丈けの人格の權威を發揮すべく奮發せねばならぬのは、講師として常に覺悟すべきことである。然らざれば、講師に進歩もなく、發明する所もなく、返つて聴衆よりも世に遅るゝことになるであらう。農村教育に盡力し、農村教育に關係する者は、此點に於て特に心得ねばならぬのである。

## 二、 目よりする方法

百聞は一見にしかず、とは古來の眞理である。實際目より感想することは、耳よりするに比して、悟り易く正確なるが常である。故に智識を正確に與へんに

は、單に口舌を以てするの易きに満足せずして、目に見せる工夫をせねばならぬ。今や學校の教授に於て、實物教授を唱導し、標本模型の整備を喧敷云ひ、實驗的の教授を尊重する所以は、全く之がためである。而も斯くの如きは、單に學校教育に於て必要なのみならず、秩序的ならざる、程度の等しからざる、農民相手の社會教育に於ては、更に一層の必要を認むるのである。彼の講師が話を補ふに身振りや以てするが如き、或は謹嚴なる體度が必要なりと云ふが如き、或は筋書を作つて配布するが如き、或は人格を發揮せよと云ふが如き、或は地圖を掲げたり、掛圖を示したり、或は實物を見たり、標本や模型を出したりするが如きは、皆口舌の及ばぬ點に悟らしむる所あらしめんがためである。儘に下手な話も目に見せて話せば上手に優ることが出來、拙劣な講演でも寫真や繪畫や實物を示せば、其處に多大の趣味をも感ぜしむることが出来るものである。如何な田舎でも、幻燈繪を使用したり、近來エビヤスコロフ實物幻燈がある、活動寫真をやる場合には、必ず多くの人が集り、見せ物や興業物は勿論芝居でも、困る程人の集るものは、全く此消息を説明して餘りありと云ふべきである。故に文明の進める處に

は、動物園や植物園を設けて不言の裡に科學的の智識を授くるの設備をしたり、或は博物館や美術館を設けて不説の間に常識を涵養するの施設をしたり、或は機械館や商品陳列館を設けて時勢の進歩を不語の中に悟らしむる用意をするが如き、皆目より人を教ゆる手段に過ぎないのである。彼の都會が文明の氣に觸るゝことの速かにして、農村の人が動もすれば時代遅れをなすは、全く目より感得することが尠ないからである。されば農村教育に従事せんとする者、或は既に其職にあるものは、須らく思を茲處に輸して、工夫する所がなければならぬ。今二三の農村教育に應用し得べき、又た利用し得易き施設と用意を述べて見様。

- 一、廣き神社の神苑あれば其一部に、或は學校園の設ける所なれば、其處に、植物の蒐集コレクショをなし、立札をして其草木名と種屬名を記入すること。
- 一、町村役場や學校や神社の拜殿や寺院の一隅に歴史圖や地圖や統計圖類を掲示すること。
- 一、町村役場や學校には地方の物産陳列所を設け統計の出来るものには統

計圖を副へること。

- 一、數字を話す場合には成るべく線型にて記憶し易く示すこと。
- 一、學校の標本模型は其町村の社會教育に利用すべきこと。
- 一、幻燈や活動寫眞を有益に使用すること。

之れには種板の撰擇種板の製作が大切である

- 一、歴史の如き、内外事態の如き、古今東西の比較をなし得る者は、必ず比較圖を作つて、之を見せしむること。

- 一、時に應じ、物に依り、簡單なる印刷物を配布すること。

- 一、新聞や雜誌及圖書は其選擇を嚴密にすべきこと。

- 一、實物を示し、實地を視せしむること。(理化學の話なれば實驗して見て見せること。)

- 一、人物に接せしめ、人格に觸れしむること。

講師の態度や品格が必要なる所以は此處にあるのである

之を要するに、空話にならぬ様、想像のみに畢らぬ様。工夫し、人をして其眞實に悟らしむることが出來ねばならぬのである。今の人、目に見せる效能を知つ

て、而も事の面倒嘆きよりして、空話をする弊があり、材料の得難き困難に屈して、想像を逞ふするに過ぎざる嫌がある。之れ耳のみ肥へて、智腦が肥へず、事物を批評しても、其眞髓を看識するの能力の低き所以であつて、講話演説の效能の比較的少き原因である。

(一) 圖書印刷物

讀書力を有する者や、青年少女を啓發するに、尤も普遍的なるは、圖書や印刷物に因る事である。之れに依つて偉人の面影を偲ふことも出來、名士の説も聞くことも出來れば、時代の進歩に悟ることも出來、又た文明の氣に觸るゝことも出來る。特に修養に關して、自得するには、人物や文明的利器の少き田舎に於ては、之に限ると謂つてもよいのである。故に今日の時勢では、圖書印刷物の出版は空前の勢を以て進むのである。然し其凡てが金玉でなく、信條とするもの許りでないことも知らねばならぬ。即ち讀めば迷ひ、見れば墮落し、爲めに醇厚なる俗を破り、眞摯なる風を損ひ、人をして誤まらしむる者の多きを覺悟することが大切である。特に讀ましむべからず、見せしむべからざるもの程、巧妙なる廣告



を工夫して、讀者を需め、閱者を得るに汲々乎たるが故に、世事に疎き、農民や、時勢に通ぜざる青年者の、之がために誤まらるゝものは、随分多いのであつて、而も近時其勢が甚だしくなるのは、眞に警戒を要することである。或は極端なる自我説にかふれたり、或は國情に適せざる實例主義を難有がたり、解りもせぬ哲學的翻譯書に心を奪はれて氣が付かなかつたり、近頃はオイケンやベルグソンに動かされて居る、或は燒糞根性の危儉思想に誤まられたりする者の輩出するは、皆之がためである。而も農民を指導する者や青年を誘掖する者にして、此邊に深き注意を拂ふて、彼等の讀物を檢閲したり、指示する者の勤きは、誠に遺憾に堪へぬことである。近年文部省は此點に注意して、閲讀すべき圖書を審査して發表してゐるが、數多き出版物は大河の決せるが如き有様であるから、到底文部省の目が届かず、手の廻らぬは無理からぬことである。故に地方の先覺者や、教育者は勿論、事業をせぬと罵られて居る教育會等に於ては、圖書印刷物の審査や指導をなして、敢て遺漏なきを期するは、よい事業であつて、且つなさればならぬ義務的事業であるを悟つて、特に勤めねばならぬ筈のものである。

今二三の注意すべき事項を掲ぐれば、

一、教育會の事業として、或は役場委員及學校職員並に有志家の間に、町村民の閲讀すべき印刷物や圖書の審査會を組織し、家庭の讀物又は團體の讀物に就き十分の選擇を行ふべきこと。

軍隊内或は二三の學校内に於て之に類似の方法をとりて讀物の制限を附しつ  
つある所がある。

一、盛に巡廻文庫を利用して、讀書慾や縦覽慾を満足せしむべきこと。

一、教育會、農會或は篤志家によりて、町村民必須の事項を時々揭示するの工夫をなし、揭示場を設くるの類、町村民日用の心得書を一枚摺ずりにして配布すること。(は繪解にする)

一、講習には教本を作り、講話には要領を印刷して頒つこと。

一、地方には可成地方的の印刷物を作ること。(郡時報とか、村報とか、或は町云  
ふが如きものにて、其地方に適  
切なるを期せし者なること。)

一、讀書力の養成並に考察力の修得に勤めしむべきこと。

即ち書に讀まれず、文字に飲まれぬ様に導くことが肝要である。

一、地圖其他圖面の利用、或は各種の表や統計を看識するの習慣を養ふこと。  
二、都會に出来る雜誌類の挿繪は、地方民を奢侈に導く恐れあれば、特に注意すること。

一、町村に於ては、簡單なる町村一覽、凡百方面の記事を簡單に掲載すを作つて、町村民に町村の事情を知らしむること。

一、騰寫版を使用しての摺物の如きは、親切と努力が見へて、小費多効なるを知るべきこと。

彼の廣村に於ては、説教でも講話でも、人に話をなせし時には、必ず騰寫版で話の要領や或は談話の間に引證せし古人の格言及句歌などを一枚摺にして、聴衆に配布し、之を綴らしめて、後日の参考とする様にして居る。塵も積れば山となるが、斯くの如くして怠らざれば、立派な家庭的の讀物が出来るので、誠に賢きやり方である。何れの町村に於ても、親切と努力が當局者になれば、必ず出来ることである。我國の如く何事も經濟的で、且つ實際的なるが必要なる所に於ては、

勤めてやらねばならぬことだと思ふ。

## (二) 見學と視察

學校にのみ修學旅行は必要なるにあらざして、青年會でも戸主會や婦人會の連中にも有効である。古來我國には伊勢詣とか、西國巡禮とか、札所廻はりとか、善光寺参りとか稱へて、個人的に又團體的に旅行をする習慣があつて、單に信仰と云ふよりも、一面は見聞を廣め、一面は娛樂を目的とするもある。之がために、耕種法を輸入したり、種苗の改良が出来たり、新らしき作物を發見したりして、農村の事業に裨益する所のあつた例は随分多いのである。故に、之を指導するに道を以てし、之を誘掖するに法を以てし、而も目的を定めて、内外の事情に見學せしむることが出来れば、社會は彼等の爲めに有利なる教場となり、事物は彼等の爲めに有効なる教科書となるものである。

嘗て廣島縣の某青年會が伊勢参りを目的として、見學旅行をなし、多大の効果を收めた實例がある。彼等を引卒した者は、教育に熱心なる代議士であつた。彼等の出發前には日程が作くられた、日程によつて見學すべき個所に、何時往く、

何人住く、青年であるから之れ、の方面で話を頼むとの依頼状が出された。最初明石で下車し農事試験場に立寄りて、耕種の改良法や品種の育生等を實物に就いて講話され、農事改良の必要と有利なるを痛切に感じた。次は淡川神社に参詣すべく神戸に下車し、楠公の墓碑前に於て、宮司より楠公の忠節に關する講話を聞きて、大に感憤する所があつた。次に大阪に下車して、師團司令部に行き、大阪城を案内されて、秀吉の雄圖と其築城術に關する話を聞きて、肉を躍らし氣を盛ならしめた。次は奈良に立寄りて、博物館に日本の美術を覗き、女子高等師範學校を煩はして、奈良朝時代の歴史を聞いて、大に得る所があつた。次は伊勢神宮に参拜し、皇學館で神宮に關する講演を聞きて、崇高の氣に觸るゝことが出來た。其間宿屋に於ては代議士の所感談あり、青年の感想談が交換されて、批評講評もあつた。斯る計畫は、先輩の指導如何によつて、事は容易で、經濟的で、且つ趣味的に決行され、而も之によつて啓發さるゝ知能や、興奮する精神的作用によつて、青年を陶冶するの效果は極めて多いのである。

居は人を移すと云ふこともあり、又樹に舌あり、川に文字あり、石に聲ありと云

ふこともありて、其地に臨みて往時を偲ばしめ、其風物に接せしめて、歴史を追想せしむるは、記憶を喚起し、理解力を助長するに最善の方法である。それに加へて先覺者が、現地講話を試みるならば、正確なる智識を與ふことが出来るのみならず、精神上に忘るべからざる印象をも與ふことが出来る。之れ學校等に於て修學旅行の試みらるゝ所以であるが、遺憾ながら今日多くの學校では、物見遊山的になつて居るから、何等の效果も認むることが出来ないのである。今の文明國では斯のことに深き注意を拂ふて、よい成績を挙げつゝあるのは賢き教育の手段である。故に我國に於ても、今少し之を有意義にし、適當なる指導啓發に任ずる人をして引卒せしめねばならぬ。特に學生に比して不規律なる、不統一なる青年や農民に於てをやである。

近時俄に其勢を増したものは、視察である。或は模範村の視察とか、府縣の施設事業視察とか、教育視察とか、農事視察とか、或は何處とかと云つて、視察は僅に一種の流行となつて居る。視察は等しく、眼より悟らしむるの方法として、獎勵すべきであるは當然であるが、其の多くが聞察と云ふが適當なりとすべ

きであるは情ないことである。而も視察者が聞察に陥りて悟らず、世人も亦聞察に了らしめて平氣なるは笑止なことではあるまいか。則ち視察者の多くは、町村當局者や府縣當局者や、其他の事業當局者に面會して、其經營談を聞いたり、其方針を聽いて感心する者か、然らざれば印刷物などをもらふて、喜んで御土産とする者である。故に多年の研究中なる疑問を、それに因つて解決せんとするのでもなく、平素求めて得ざる方法を、それに因て獲得せんとするのでもなく、只だ命令に對する御義理一片の視察か、或は半ば慰勞や娛樂の意味を以ての見物に過ぎないのが多い。随つて視察によつて新に事業が計畫されたとか、改良されたとか、或は民風の振興に一段の進歩を致したとか、生新の氣勢を呈したとか云ふことが、餘り多くはないのである。勿論聞察も有効であり、當局者や經營者に接見するも亦必要であつて、それに因つて視察者の人格や識見に進歩する所があれば、久しき間には必ずや事物事業の上に其成績の認めらるゝあるは當然であるが、然し今日の情勢は、如斯き緩漫なるを許さぬのであるから、もう少し視察らしき視察が出来て、其効果の顯著なる様、先覺者や先輩の指導誘導が出来

ねばならぬものである。

今見學や視察に付て、注意すべき要項を掲げば左の如くである。

- 一、見學すべき事項は、豫め調査研究し置くべきこと。
- 一、視察すべき場所や事項も、豫め調査し置くべきこと。
- 一、接すべき人には、訪問の時日を必ず豫告し置くべきこと。
- 一、質問事項は必ず豫定し置くべきこと。

町村視察の如きは豫め事業報告を承知し置き、人物の事蹟は其事蹟の一般を知りて、然る後質問を出すべき用意が大切である。

- 一、日程を作るべきこと。(視學せんとは大切である。配)
- 一、特に講話演説を依頼すべき場所へは、視察者の種類人數と、講話演説に對する注文を通知し置くべきこと。
- 一、見學視察の目的物に向つて、十分の時間を用意すべきこと。(短時間では、感念を興へ、敬意を失する者であるが、如きことを生ずる者である。)
- 一、汽車汽船其他交通機關や、順路の研究をなし、間違つかぬ用意をなすべきこと。